# かすみがうら市男女共同参画社会 市民意識調査報告書

平成24年3月かずみがうら市

# 目 次

Ι	調査の目的·方法等 ···································	 ••••1
	(1)調査目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ••••1
	(2)調査対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 • • • • 1
	(3)調査方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ••••1
	(4)回収状況 ************************************	 2
	(5)調査項目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 3
	(6)本報告書を読む際の留意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 • • • • 4
П	調査結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 5
Ш	調査結果 ····································	 9
1	回答者属性 •••••••••••	 9
2		 •••13
(	1)各分野の男女の地位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ••••13
(	2) 社会全体でみた男女の地位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ••••18
(	3) 平等になるために重要なこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ••••19
3		
(	1) 男女の生き方や家庭生活などに関する考え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2)家事等の分担、最終決定者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 27
(	3)性別役割分担意識についての考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 33
(	4) 家事・育児・介護等に携わる時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 34
	5)男女が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと	
	6) 結婚・離婚についての考え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(	7)子どもについての考え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 •••50
2	,, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	 56
(	1)仕事の能力・内容の男女差についての考え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2) 職場での男女の地位 ····································	
	3)中途退職の経験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	4)仕事へのかかわり方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	5)女性の起業についての考え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(	5 地域活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
(	2) 地域活動・家庭生活・什事の調和・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 82
è	2)地域活動・家庭生活・仕事の調和 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 84
(	1)女性の人権が尊重されていないと感じること ············	 8 4
(	2)ドメスティック・バイオレンスの経験 ·····	 87
-	2)ドメスティック・バイオレンスの経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 91
	・ カスス内を画位会 1 ) 里 女 共 同 条 画 に 関 す ス 田 霕 等 の 国 知 度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 0 1
( '	1)男女共同参画に関する用語等の周知度 ····································	 91
( )	3)女性の進出していない分野への進出方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 9
	4)男女共同参画社会を実現するために市に要望すること ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
IV	4/ カダ共同多画社会と失仇するにのに同じ女主すること ・・・・・・・・ -	 111
۲۷ .	- うりなればない。	 
(	!/ 岬 县 示	 100
(4	1 / 調宜宗 2 ) 単純集計表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	 140
( )	U / カメ加未削衣 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 1-142
( 4	+/+IV加未引攻	 1109
(	5) 市民・職員別集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 180
(	♡ノ土⑷垻Hにの「フの刖凹調宜とW┖靫衣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 19/

# Ⅰ 調査の目的・方法

### (1) 調査目的

本調査は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民の意識と実態等を調査集計・分析し、その結果を広く公表することにより、市民全体の男女共同参画社会への理解と意識の醸成を図るために実施するものである。また、各種施策の効果的な推進とともに、平成19年度に策定したかすみがうら市男女共同参画計画の計画期間が平成24年度末で終了するため、この計画改定のための基礎資料とするものである。

### (2) 調査対象

本調査の対象は、かすみがうら市在住の20歳以上の男女である。抽出方法は、平成23年11月1日現在(43,734人)の住民基本台帳に基づいて調査対象者を年代別に並べ替え等間隔抽出(無作為抽出)した。

抽出数は、1,500人(男性750人、女性750人)で、対象の実数、抽出数、有効回答数は、表のとおりである。 さらに、かすみがうら市職員全員(464人)の調査を実施した。

### (3) 調査方法

調査方法は郵送調査法(郵送配布・郵送回答)を用い、調査期間は平成23年12月1日から12月26日までとした。

### 抽出の内訳

	男性	女性	計	職員	職員	計	合計
				(男性)	(女性)		
20代	145	149	294	34	6	40	334
30 代	162	153	315	92	40	132	447
40 代	140	144	284	75	33	108	392
50 代	147	156	303	109	69	178	481
60 代	156	148	304	1	5	6	310
合計	750	750	1500	311	153	464	1964

総合計 1964 (男性 1061, 女性 903)

# (4) 回収状況

対象 1,964 票(うち 464 票は職員)に対し、回収された調査票は 853 票で、そこから無効票(すべてが無回答)の 1 票を除いた 852 票(男性 469、女性 381、性別不明 2)を有効回答票とした。有効回収率は 43.4%(男性 44.2%、女性 42.2%)である。

### 回収率内訳

	男性	女性	計	職員 (男性)	職員 (女性)	計	合計
20代	21	31	52	30	6	36	88
2010	(14.5%)	(20.8%)	(17.7%)	(88.2%)	(100.0%)	(90.0%)	(26.3%)
20.44	30	49	79	88	38	126	205
30 代	(18.5%)	(32.0%)	(25.1%)	(95.7%)	(95.0%)	(95.5%)	(45.9%)
40 /15	28	45	73	72	31	103	176
40代	(20.0%)	(31.3%)	(25.7%)	(96.0%)	(93.9%)	(95.4%)	(44.9%)
~0.4E	32	47	79	99	65	163	243
50代	(21.8%)	(30.1%)	(26.1%)	(90.8%)	(92.8%)	(91.6%)	(50.5%)
00 /15	68	65	132	1	5	6	138
60代	(43.6%)	(43.9%)	(43.4%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(44.5%)
不明			2				2
A =1	179	237	418	290	144	434	852
合計	(23.9%)	(31.6%)	(27.9%)	(93.2%)	(94.8%)	(93.5%)	(43.4%)

# (5)調査項目

	◇ あなた自身のことについて	А	В	С
F1	性別はどちらですか。	_	_	_
F2	年齢は、おいくつですか。	_	_	_
F3	どの地区にお住まいですか。	_	_	_
F4	職業等は、次のうちどれですか。	_	_	_
F5	いつから、かすみがうら市に住んでいますか。	_	_	_
F6	あなたは結婚されていますか。	_	_	_
F7-1	あなたはお子さんがいますか。	_	_	_
F7-2	一番下のお子さんは現在次のどれに該当しますか。	_	_	_
F8	あなたのお宅には、現在介護を必要とする方はいますか。	_	_	_
F9	現在生活しているご家庭の家族構成は、どれに該当しますか。	_	_	_
	◇ 男女の地位の平等に関する意識について			
問1	次にあげる8つの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。	○‰1	0	0
問2	社会全体みた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。	O <b>%</b> 1	0	0
問3	今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うこと	_		
1.30	は何ですか。	○※2	0	0
	◇ 男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担などについて			
問4	次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについてどう思いま			
	すか。		O	0
問5	次にあげるような家事等を主に誰が分担していますか。また家計費の管理	A >*< =		
	等について最終的に決定しているのはどなたですか。	△※2	0	0
問6	「男は仕事、女は家庭」という考えがありますが、あなたはこの考え方に同感	O\*/1		
	しますか。	0*1	0	O
問7	次にあげるア〜エについて、どのくらい時間をかけていますか。		0	
問8	男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加してい	△*2	0	0
	くためには、どのようなことが必要だと思いますか。	<i>△</i> %2		
	◇ 結婚・離婚に関する考えについて			
問9	結婚についてどう思いますか。	△※2	0	0
問 10	次にあげる離婚の考え方についてどう思いますか。	△※2	0	0
問 11 (1)	あなたの理想とするこどもの数は何人ですか。		0	
(2)	実際の子どもの数又は実際に子育てできると思う数は何人ですか。		0	
(3)	その理由は何ですか。		0	
	◇ 就業関係について			
問 12(1)	仕事をこなす能力に対する男女差はあると思いますか。		$\circ$	0
(2)	男性向き、女性向きの仕事内容はあると思いますか。		0	0
問 13-1	職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。	○*1	0	0
問 13-2	その具体的な内容はどのようなことですか。		0	0
問 14-1	あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。		0	0
問 14-2	仕事を辞めた主な理由は何ですか。		0	0
問 15	次の仕事へのかかわり方について、あなたはどうお考えですか。	△※1	0	0
問 16-1	女性がどんどん起業して社会に出て行くべきだと思いますか。		-	0
問 16-2	そう思う理由は何ですか。			0
問 17	女性が働き(起業し)やすくするためにはどんなことが必要だと思いますか。		0	0
	◇ 地域活動について			
問 18-1	町内会やボランティアなどの地域活動をしていますか。		0	0
問 18-2	それはどのような活動内容(分野)ですか。		0	0
問 19	地域活動や家庭での役割等の状況を含め、現在のあなたの生活形態はど			
	のような内容ですか。		Δ	0
		1	<u> </u>	

	◇ 女性の人権、ドメスティックバイオレンスについて			
問 20	女性の人権が尊重されていないと感じる点はどのようなことですか。		0	0
問 21-1	配偶者(元配偶者も含む)や恋人から暴力を受けた経験はありますか。		0	0
問 21-2	それはどのようなことですか。		0	0
	◇ 男女共同参画社会について			
問 22	次にあげる言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたことがあるも		0	
	のはありますか。		O	
問 23-1	市の政策に女性の意見が反映されていると思いますか。			
間 23-2	十分に反映されていない理由は何だと思いますか。			
問 24	女性があまり進出していない分野に進出するにはどのような方法がいいと			
	思いますか。			
問 25	男女共同参画を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れるべ		$\wedge$	$\circ$
	きだと思いますか。		$\triangle$	
問 26	男女共同参画について意見・要望等(自由記述)	•		

#### ※A=男女共同参画社会に関する世論調査

(※1:平成21年10月,※2:平成19年8月/内閣府大臣官房政府広報室)

- B=茨城県男女共同参画社会県民意識調査(平成 22 年 3 月)
- C=かすみがうら市男女共同参画社会市民意識調査(平成 18 年 12 月)
- ※○はほぼ同じ内容あり。△は類似する内容あり。

### (6) 本報告書を読む際の留意点

- 1. グラフ内数値や表の単位は特に断りがない限り「%」である。
- 2. 単数回答の単純集計結果を表す本文グラフの中で、百分率の内訳数値は、四捨五入の結果、合計が100にならない場合もある。
- 3. 複数回答の集計結果を表すグラフまたは集計表の場合、「%」は選択肢の構成比を表すものではなく、回答のあったサンプル数に対する割合を示している。
- 4. 本文中コメントでは、およその傾向を概括するために「○割」と「○%」という表現を併用している。設問の選択 肢を引用する場合は、省力して表現している場合もある。
- 5. その他の選択肢のある設問については、代表的回答を掲載した。
- 6. 自由回答式の設問については、原則として回答者の記入したとおりに引用・掲載しているが、明らかな誤字・脱字等については修正してある。

# Ⅱ 調査結果概要

回答者は住民基本台帳(平成 23 年 11 月 1 日現在)から無作為抽出した中で有効回答のあった 20 歳以上の市民 417 名(男性 23.9%、女性 31.5%、性別不明 0.1%)と市職員 435 名の回答の合計 852 名である。

### 男女の地位の平等に関する意識について

### ◆男女の地位

『家庭生活の場(62.8%)』、『政治の場(60.6%)』、『社会通念(65.7%)』において「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性の方が優遇されている』と回答している人が依然として6割を超えている。

8つの分野と社会全体の全てにおいて「平等である」は男性が女性を上回っており、『政治の場』(男性: 34.3%, 女性:11.3%)では23ポイント、『法律や制度』(男性:59.9%, 女性:29.7%)では30ポイントもの男女間の差がある。

### ◆社会全体でみた男女の地位

社会全体でみた男女の地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性の方が優遇されている』との回答が68.9%を占めている。 性別でみると『男性の方が優遇されている』は男性が59.5%、女性が80.8%で約2割の差がある。

### ◆平等になるために重要なこと

回答者の4割以上(47.4%)は、男女が平等となるために重要なのが「固定的な社会通念、慣習・しきたりなどを改めること」と考えており、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(30.4%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(29.8%)の順となっている。

### 男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担等について

#### ◆男女の生き方や家庭生活などに関する考え

『「男(女)だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じ込めてしまう』(80.8%)、「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」(85.8%)、「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」(86.9%)で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『そう思う』が8割を超えている。

一方、「男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」(71.7%)についても 『そう思う』が7割を超えている。

#### ◆家事等の分担・最終決定者

家事等の役割分担について、「洗濯」 (70.8%)や「食事のしたく」 (72.1%)、「食事の後かたづけ、食器洗い」 (72.1%)をするのが「妻」、と回答しているのが7割を超えており、その他の項目でも多数を占めている。

最終決定者については、「夫」が最も高いものは「土地・家屋の購入」(36.2%)、「夫の就職」(49.9%)、「家庭において全体的実権を握っている人」(39.8%)となっている。

「妻」が最も高いのは「家計費管理」(54.8%)、「貯蓄・投資」(35.3%)、「妻の就職・転職」(44.1%) である。

また、「夫婦一緒」の割合が高いのが「子の教育・就職」(60.2%)で、6割を超えている。

### ◆性別役割分担意識についての考え方

「男は仕事、女は家庭」という考え方は、『同感する』(「同感する」と「どちらかといえば同感する」の合計)が35.8%であるのに対して、『同感しない』(「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」の合計)が55.5%と上回っている。

性別にみると『同感しない』は、男性が46.3%、女性で67.2%となっており、2割程度の差がある。

### ◆家事・育児・介護等に携わる時間

家事・育児・介護等に携わる時間について、どの項目においても平日は「30 分未満」(家事:34.4%、育児:23.0%、看護・介護:40.8%、買い物:64.2%)が最も高くなっている。

そのうち「看護・介護」と「買い物」については、どの曜日も「30分未満」が最も高くなっている。

性別にみると「家事」は男性がどの曜日も「「30 分未満」(平日:55.0%、土曜:39.2%、日曜:38.6%)が最高であるのに対し、女性はどの曜日も「1~3時間」(平日:42.8%、土曜:34.9%、日曜:34.4%)が最高となっている。

### ◆男性が、家事・子育で・地域活動に参加するために必要なこと

男性が、家事・子育て・地域活動に参加するために必要なことについては、「家事などの分担について、 夫婦や家族間で話し合い、協力をすること」が64.1%で最も高く、次いで「男女の役割意識について社会通 念、慣習、しきたりを改めること」が32.4%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感を なくすこと」が31.9%となっている。

### ◆結婚・離婚についての考え

結婚についての考え方は、「個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい」(31.6%)で3割を超えている。

離婚についての考え方は、「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」で『そう思わない』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)が45.8%で『そう思う』の40.0%を上回っている。

「一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である」との考え方については、『そう思う』(48.7%)が『そう思わない』(38.8%)を1割程度上回っている。

#### ◆子どもについての考え

理想とする子どもの数と実際の子どもの数を比較すると、「理想より実際の子どもの数が少ない」と答えた人は45.5%となっている。

理由としては、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が約7割(69.8%)、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」(34.5%)、「仕事と子育ての両立が困難だから」(34.8パーセント)が3割を超えている。

### 就業について

#### ◆仕事の能力・内容の男女差についての考え

回答者の約6割(62.1%)は、仕事をこなす能力に男女差が「ある」と考えている。 「男性向き、女性向きの仕事内容はあるか」については、『あると思う』が9割(93.3%)を超えている。

#### ◆職場での男女の地位

職場で、男女の地位が平等でないと思う内容については、「賃金、昇進、昇格」が約7割(68.9%)、「女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける」(30.9%)、「仕事に対する責任の求められ方」(38.4%)で3割を超えている。

#### ◆中途退職の経験

途中で仕事をやめた経験については、男性の3割(32.0%)、女性の5割(54.9%)が「ある」と回答している。

その理由としては、男性では「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」(44.7%)、女性では「結婚(自主的)のため」(25.4%)が最高となっている。

### ◆仕事へのかかわり方

仕事へのかかわり方について、「男女問わず家庭・家族との触れ合いが充実することで仕事にも良い影響を与えると思うから、うまくバランスをとりながら生活したほうがよい」(88.1%)、「女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい」(74.6%)で『そう思う』が7割を超えている。

また、「女性は仕事を一生持たない方がよい」(そう思わない87.7%)、「男女問わずフルタイムの仕事よりは、自由時間の多いパートの仕事の方がよい」(そう思わない77.0%)で『そう思わない』が7割を超えている。

### ◆女性の起業についての考え

女性の起業についての考え方は、「女性がどんどん起業して社会に出て行くべきだと思いますか」(男: 65.5%、女:61.2%)で、男女とも6割を超える方が「そう思う」と回答している。

理由としては、「自分のライフスタイルに合った働き方、働く場所があってよいから」(37.7%)、「女性の能力を生かした企業が可能であるから(26.6%)、「自分の生き方(やりたいこと)を実現したい(して欲しい)から」(27.5%)が2割を超えている。

また、「女性が働き(起業し)やすくするために必要なことは何ですか」に対し、「保育施設や介護のための施設・サービスを充実させる」(61.9%)が最高となっている。

### 地域活動について

### ◆地域活動についての考え

「町内会やボランティアなどの地域活動をしていますか」では、3割(34.0%)が「している」と回答している。 性別にみると、男性が43.9%、女性が22.0%と約2割の差がある。

活動内容については、「町内会関係」(51.6%)、「スポーツ・文化関係」(12.5%)、「子ども関係」(10.4%)の順になっている。

#### ◆仕事と生活の調和について

仕事をしている方の生活形態として、「家庭生活又は地域活動にも携わっているが、あくまで仕事を優先させている」が約4割(38.0%)で、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させている」(22.2%)が2割となっている。

# 女性の人権・ドメスティックバイオレンスについて

#### ◆女性の人権が尊重されていないと感じること

女性の人権が尊重されていないと感じることについては、「ドメスティック・バイオレンス」が5割(51.2%)を超えて最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」(44.6%)、「痴漢行為」(37.3%)となっている。

#### ◆ドメスティック・バイオレンスの経験

配偶者や恋人から暴力を受けた経験について、「ある」と答えた方は6.3%となっている。内容としては、「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれる」(66.7%)、「外出や人の付き合いを制限される」(31.5%)が上位を占めている。

### 男女共同参画社会について

### ◆男女共同参画に関する用語等の周知度

男女共同参画に関する用語等で周知度が高いものについては、「男女雇用機会均等法」で7割(71.6%)、「育児・介護休業法」(52.9%)、「DV防止法」(51.8%)で5割を超えている。

### ◆市の施策への女性の参画について

「市の施策に女性の意見が反映されていると思いますか」については、『反映されている』(22.3%)と『反映されていない』(25.7%)がほぼ同じ割合で意見が拮抗しているが、性別にみると『反映されている』では男性が27.7%、女性が15.7%と1割以上の差がみられる。その理由としては、「女性の市議会議員が少ない」(22.3%)、「施策・方針決定にかかる審議会などに女性委員が少ない」(18.0%)、「女性自身の積極性が十分でない」(17.7%)が上位を占めている。

#### ◆女性の社会進出について

「女性があまり進出していない分野に進出するにはどのような方法がいいと思いますか」の問いでは、「国や地方公共団体が、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する」が4割(40.1%)、「国や地方公共団体の審議会・委員会の委員などに、女性を積極的に任命する」(35.7%)、「防災・地域おこし・まちづくり・観光、環境への分野への女性の参画の拡大」(33.2%)、「国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割合制を設ける(31.8%)で3割を超えている。

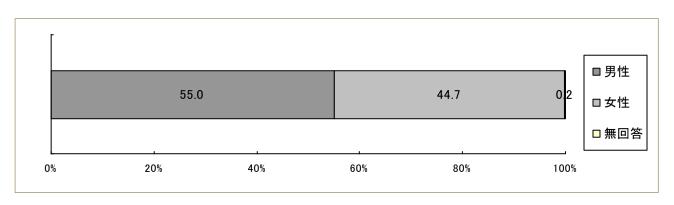
### ◆男女共同参画社会を実現するために行政が力を入れるべきこと

男女共同参画社会を実現するために力を入れるべきだと思うことは、「男女が共に働きやすい就業環境の整備」(48.6%)、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」(36.9%)が上位を占めている。

# Ⅲ 調査結果

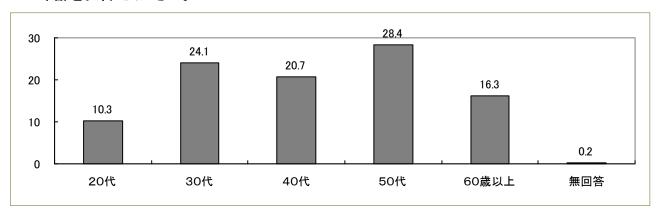
### 1 回答者の属性

### F1 性別はどちらですか。



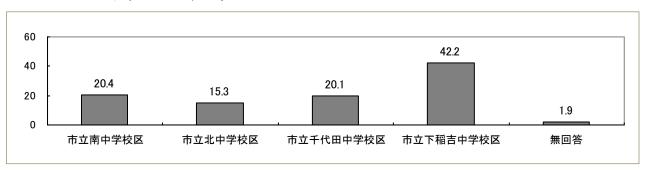
・回答者の性別は、「男性」が55.0%「女性」が44.7%となっており、「男性」の割合が高くなっている。

### F2 年齢をお答えください。



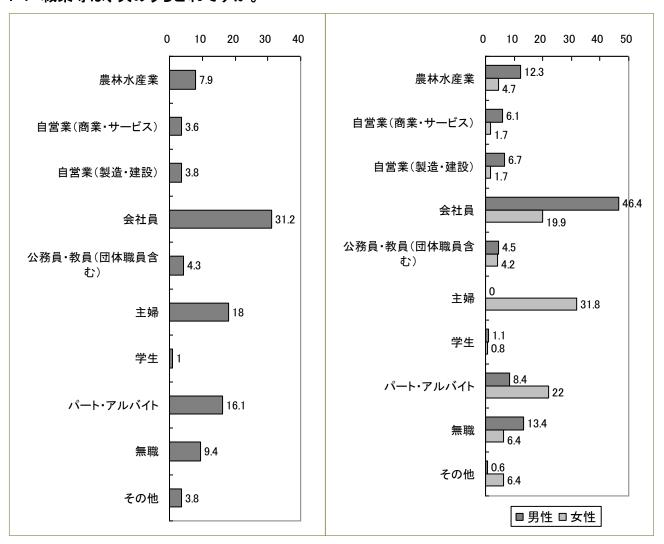
・回答者の年齢層は、20代(10.3%)が最も低く、最も高い50代(28.4%)の半数以下となっている。

### F3 どの地区にお住まいですか。



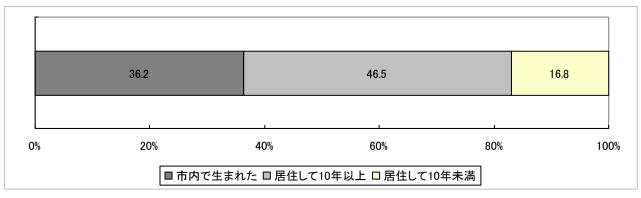
・居住地区については、人口の最も多い市立下稲吉中学校区が42.2%で、その他の地区では約20%となっている。

### F4 職業等は、次のうちどれですか。



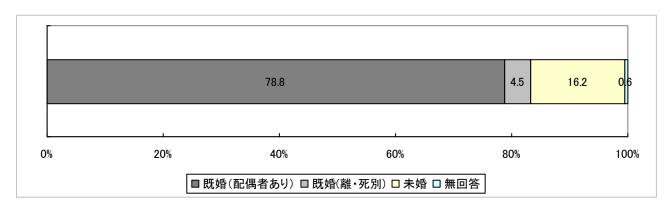
・職業は、「会社員」が31.2%と最も高く、次いで「主婦」(18.0%)、「パート・アルバイト」(16.1%)となっている。 性別にみると、男性では会社員が46.4%、女性は主婦が31.8%でそれぞれ最も高くなっている。

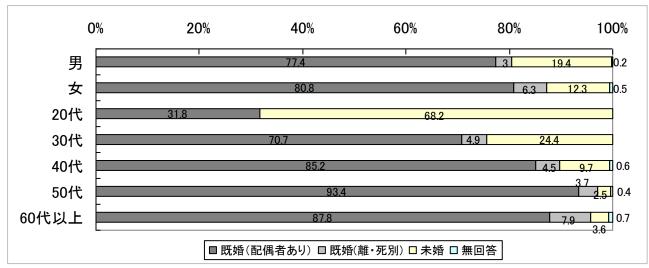
### F5 いつから、かすみがうら市に住んでいますか。



・かすみがうら市内で生まれた、もしくは10年以上かすみがうら市に住んでいる方が82.7%となっている。

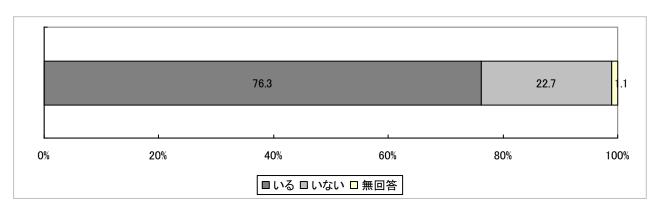
### F6 あなたは結婚されていますか。





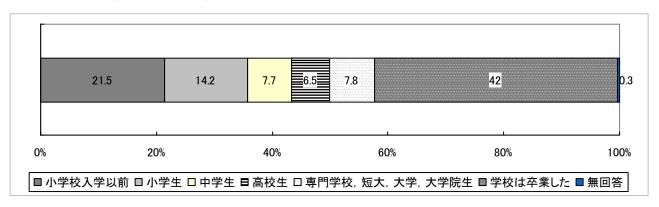
- ・結婚については、既婚(配偶者あり)が7割以上(78.8%)を占めている。
- ・年代別に見ると、30代以上は全体の結果と同様に既婚が7割(30代:70.7%、40代:85.2%、50代:93.4%、60代以上:87.8%)を超えているが、20代では、31.8%と低くなっている。

### F7-1 あなたはお子さんがいますか。



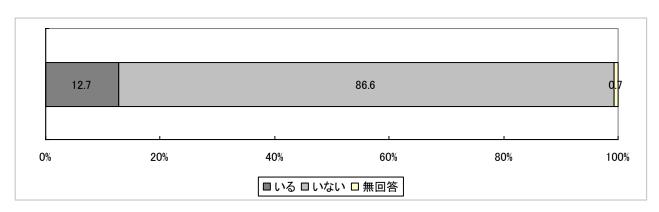
・子どもがいると答えた方は76.3%で、結婚している(78.8%)方のほとんどが子どもがいるという結果となっている。

### F7-2 F7-1で1の「いる」とお答えいただいた方に伺います。一番下のお子さんは 現在次のどれに該当しますか。



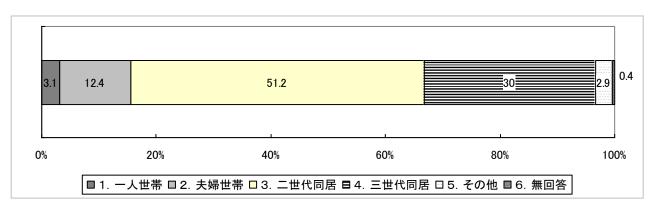
・一番下の子どもの状況については、「学校は卒業した」が42.0%で最も高く、次いで「小学校入学前」の21.5%となっている。

### F8 あなたのお宅には、現在介護を必要とする方はいますか。



・介護を必要とする方が「いる」と回答している方は、12.7%となっている。

### F9 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成は、どれに該当しますか。

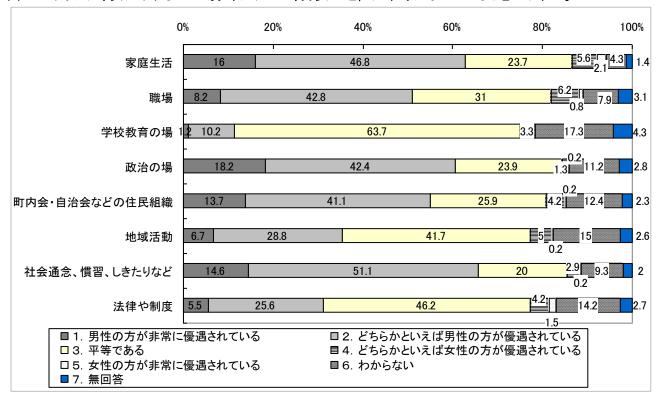


・回答者の家族構成は、「二世代同居(親と子からなる世帯)」が51.2%で最も高く、次いで「三世代同居(親と子と孫からなる世帯)が30.0%となっている。

# 2 男女の地位の平等に関する意識

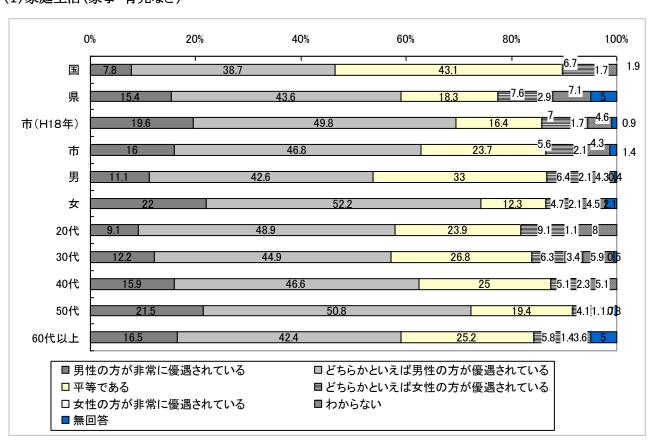
### (1) 各分野の男女の地位の平等感

間1 あなたは、次にあげる8つの分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

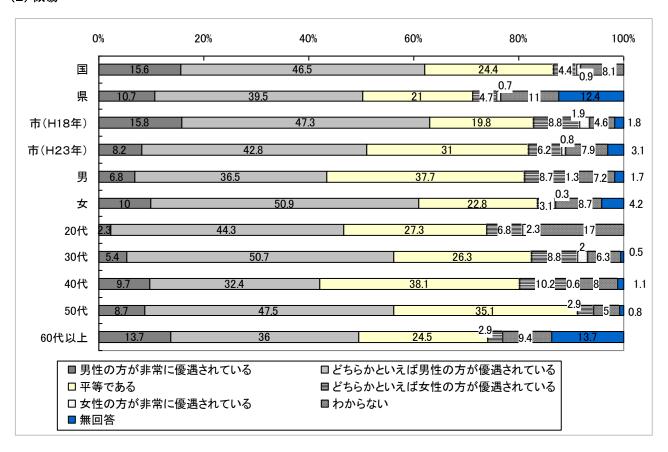


< 国・県・市(H18年)、性別・年代別比較>

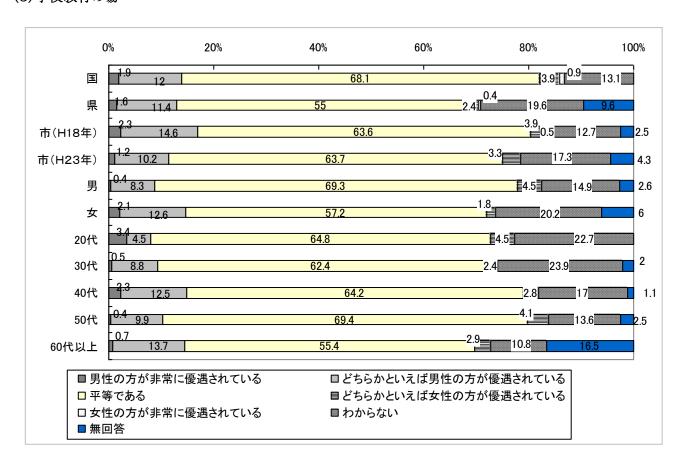
### (1)家庭生活(家事・育児など)



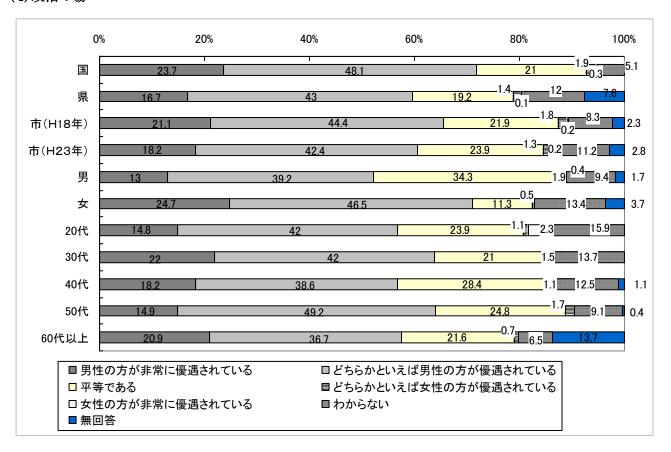
### (2)職場



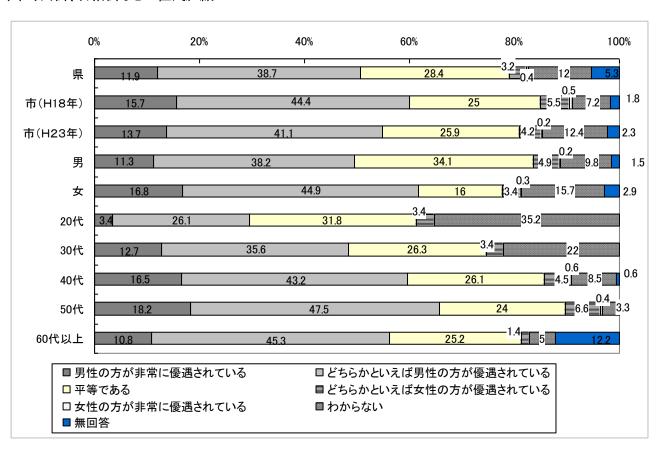
### (3)学校教育の場



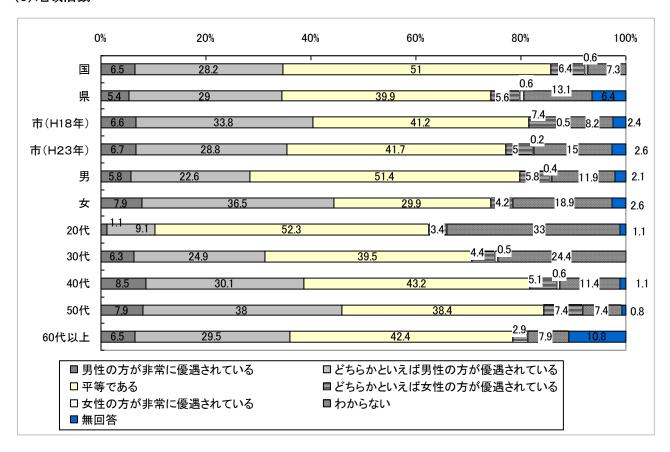
### (4) 政治の場



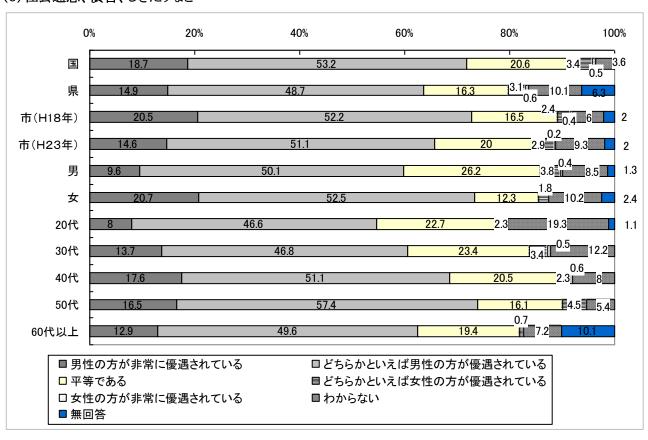
### (5)町内会、自治会などの住民組織



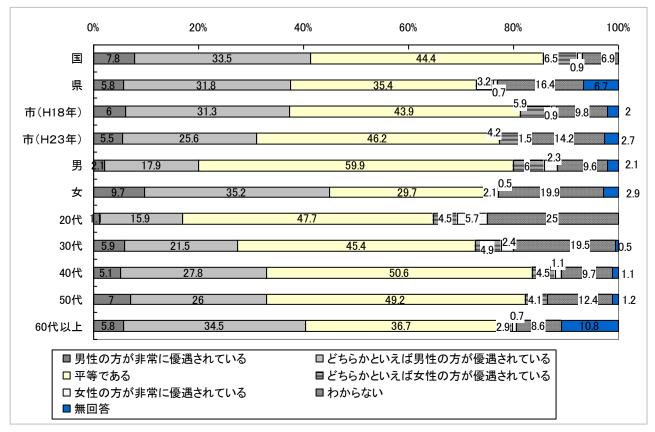
### (6)地域活動



### (6)社会通念、慣習、しきたりなど



### (8)法律や制度



▼「家庭生活」「政治の場」「社会通念、慣習、しきたりなど」で「男性の方が優遇されている」と感じている方の割合が 6 割を超え、「平等である」が 6 割を超えているのは「学校教育の場」のみ

前回の市民アンケートと、今回の市民アンケートを比較すると、「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合はどの項目でも減少しているが、3つの分野(「家庭生活」「政治の場」「社会通念、慣習、しきたりなど」)で6割を超えるなど、ほとんどの分野でいまだに高い割合となっている。

男女別に見ると、どの項目でも男性の方が「平等である」と答えた割合が高く、「家庭生活」では、男性33.0%、女性12.3%、「政治の場」では男性34.3%、女性11.3%、「地域活動」で男性51.4%、女性29.9%、「法律や制度」で男性59.9%、女性29.7%と、大きく差がある。

「家庭生活(家事・育児など)において「平等」だと答えた人の割合は、全国で43.1%、市で23.7%と、約2割もの差がある。

「職場」については、31.0%が「平等」と感じており、前回調査から11.2ポイント増加しており、全国の24.4%、県の21.0%よりも高くなっている。

「学校教育の場」については、「平等である」と答えた割合は63,7%で県の55.0%より高いものの、全国の68.1%よりは低い結果となっている。

「政治の場」では、23.9%が「平等」と感じており、前回調査より2ポイント高くなっている。年代別にみると30代(21.0%)で「平等」と考えている人の割合が低くなっている。

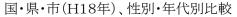
「町内会・自治会などの住民組織」については、25.9%が「平等である」と答えており、前回調査と比べて0.9ポイント上がっているが、県の28.4%より低くなっている。

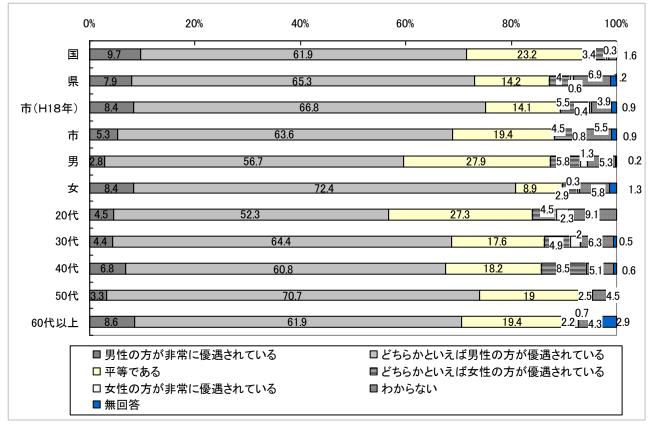
「地域活動の場」では、前回とほぼ同様の41.7%が「平等である」と答えているが、全国の51.0%よりも低い結果となっている。

「法律や制度」では、「平等である」と感じている人の割合が、全国の44.4%よりも高い46.2%となっており、年齢が上がるにつれて「男性の方が優遇されている」と答えている人の割合が高くなっている。

### (2) 社会全体でみた男女の地位

問2 では、あなたは、社会全体で見た場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。



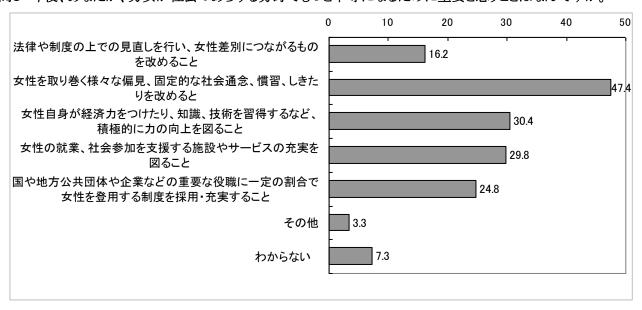


社会全体でみた男女の地位については、「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合が68.9%と、前回の75.2%に比べて6.3ポイント減っている。「平等である」との回答は、19.4%で全国の23.2%よりも低い結果となっている。

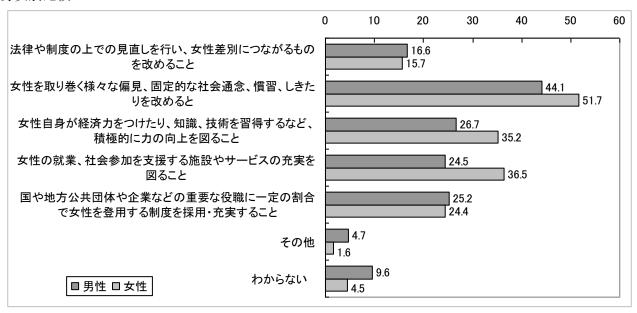
性別にみると「平等である」と回答したのは、男性27.9%、女性8.9%と2割近くの差がある。 年代別にみると、20代で「平等である」と回答した割合が27.3%で他の年代に比べて高くなっている。

### (3) 平等になるために重要なこと

問3 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことはなんですか。



#### 男女別比較



年代別·国·県·市(H18年)比較

	を改めること 行い、女性差別につながるもの 法律や制度の上での見直しを	きたりを改めること固定的な社会通念、慣習、し女性を取り巻く様々な偏見、	ど、積極的に力の向上を図るり、知識、技術を習得するな女性自身が経済力をつけた	図ることする施設やサービスの充実を女性の就業、社会参加を支援	用・充実することで女性を登用する制度を採どの重要な役職に一定の割合どの重要な役職に一定の割合	その他	わからない
20代	19.3	48.9	29.5	28.4	12.5	2.3	10.2
30代	15.6	47.8	23.9	27.8	23.4	6.3	10.2
40代	14.2	48.3	33.0	33.0	25.0	3.4	6.8
50代	17.8	51.7	31.0	31.0	26.4	1.2	5.4
60 代以上	15.1	38.1	36.7	28.1	31.7	2.9	5.0
国	13.4	23.8	23.1	18.8	11.4	2.2	7.3
県	17	41.4	34.9	37.5	22.6	3.5	6.1
市(H18)	18.5	47.3	31.9	30.1	24.7	3.9	2.4
市(H23)	16.2	47.4	30.4	29.8	24.8	3.3	7.3

### ▼「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が4割を超え最多

男女が平等となるために重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が47.4%と最も高く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が30.4%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が29.8%となっている。中でも、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」では、全国は23.8%で、23.6ポイントもの差がある。

男女別にみると、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」では、男性が24.5%に対し、女性は36.5%と12ポイントの差がある。また、「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」では、男性が26.7%、女性が36.5%で約10ポイントの差がある。

年齢別にみると、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」で20~50代が47.8%~51.7%となっているのに対し、60代以上では38.1%と低い結果となっている。「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」では、60代以上が36.7%で最も高くなっている。

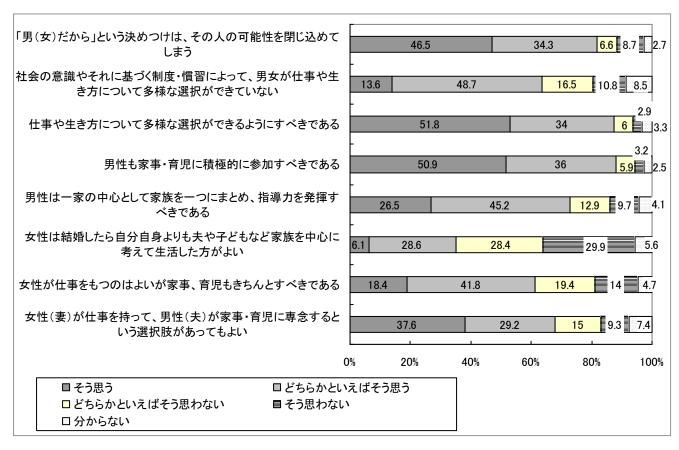
### <平等になるために重要なこと(その他)>

く 半等になるために 重要なこと(その他) > 「内容	 性別	年代
	1生万1	平17
女性に関すること	田丛	20.44
女性が発揮できる場所が違うと思います。(商業地など、味覚など)	男性	30代
この権利を乱用している女性も多い	男性	30代
女性の意識改革	男性	40代
女性の積極性を高めること、女性が責任感を持つこと	男性	50代
女性自身が自己責任を持つこと。都合で責任逃れをしない	女性	50代
女性自身の考え方も大きな視野で見られるようにならなくてはならない	女性	60代
不必要な女性優遇(男性差別)をなくす	女性	30代
女性の地位が低いものとする前提を法制度や政策決定から排除すること	男性	30代
男性に関すること		
母子家庭でも父子家庭でも平等にしてほしい。母子家庭のほうが優遇されてい	男性	60代
් විං	カ注	0014
社会に関すること		
性犯罪については、加害者が男であろうと女であろうと厳罰を与えるようにすること	男性	40 代
議員の数を減らし、そのお金を支援やサービスに使うべきである	男性	30代
平等の概念は個人により異なると考えるが法律・制度上の不平等の撤廃と政府広		
報等の啓蒙活動での世論喚起が必要かと思われる。市町村単位での取り組みは		
効果が疑わしく予算の無駄である。国・県の仕事である。質問の主旨は男女が社		
会のあらゆる分野で不平等であるとの前提に基づいていると思われるが、重要な	男性	40 代
のは不平等を被っている人々の声を広く集めるシステムである。故に市町村単位		, -
での広聴活動では収集活動の数に限界がある。予算・施策効果も薄いと思われ		
る。		
メディア、情報の中でいろいろなケースをアピールし男女平等を浸透させていく	男性	40代
この社会通念があるため5の充実が必要なのであるが、それが平等につながるの		
かはある一定の期間である。あとは女性が自身で勝ち取っていくようなことなのか	男性	50 代
もしれない	341	
男女共に仕事と育児の両立のできる社会をつくること	男性	30 代
その他	7712	33 14
すべて同じに考える	女性	40代
平等になるには仕事をしたい、したくない特に女性に問題ありと考えます	<u> </u>	30代
どうでもいい		30代
男と女が平等になることはありえない		30代
男女共同などといわずその前にみな人間との認識を強めることが大事なのではな	<u> </u>	30 14
カタ来回なるというりでの間にかな人間との心臓を強めることが人事なのではなしいか。	男性	20 代
男女それぞれの分野で不平等はあると思う。それより若い人の育て方を考えたほ		
労女でれてれいの分野で小平寺はめると思り。 てれより石い人の 自て力を考えたは     うがいいと思う。	女性	50 代
7 = 7 0	田州	20 44
すべての面での平等を求めること自体ムリ	男性	30代
男と女では力の格差があるのでそれなりに平等であれば良いのではと思います。	ملالم مل	00 /15
全てが平等とはいかないのでは?まずは、平等とは何かをみんなが考え意識づ	女性	20代
けていくことの方が重要なのではないでしょうか?		10.75
すでに平等である	男性	40代
芸能人の例、報道	男性	30代
適材適所が重要と思うので男女をあらゆる分野で平等にする必要はない	女性	40代

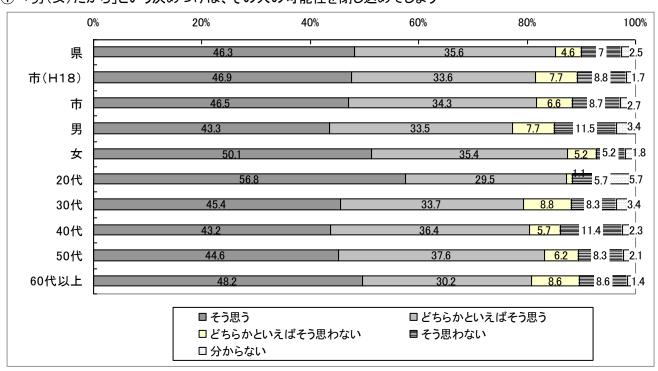
# 3 男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担

### (1) 男女の生き方や家庭生活などに関する考え

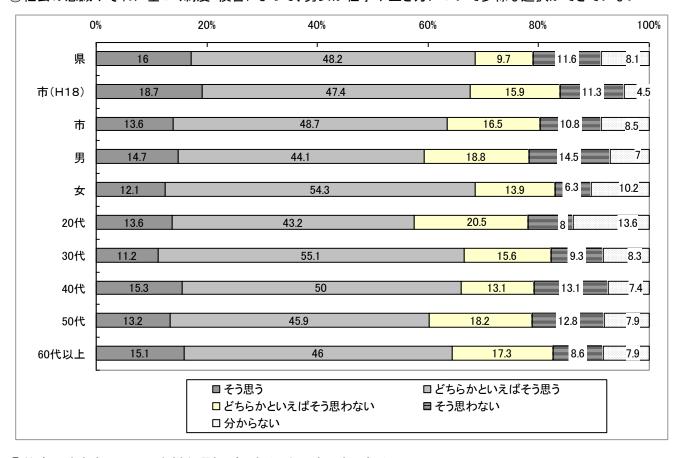
問4 次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについて、あなたの考えをお聞かせください。



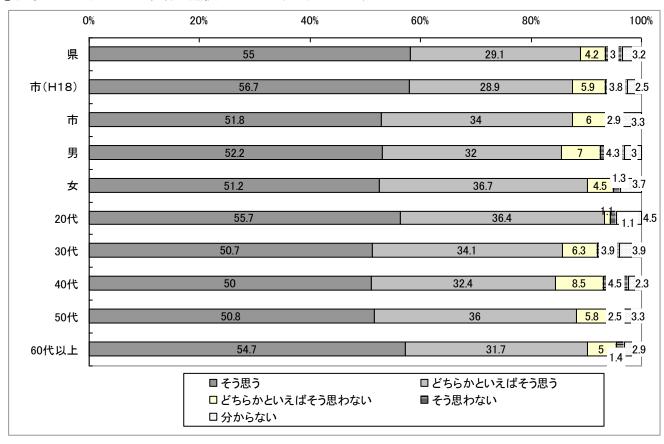
#### ① 「男(女)だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じ込めてしまう



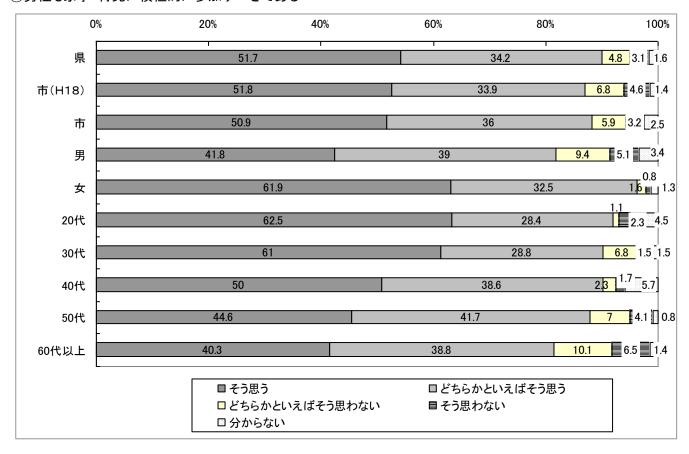
### ②社会の意識やそれに基づく制度・慣習によって、男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない



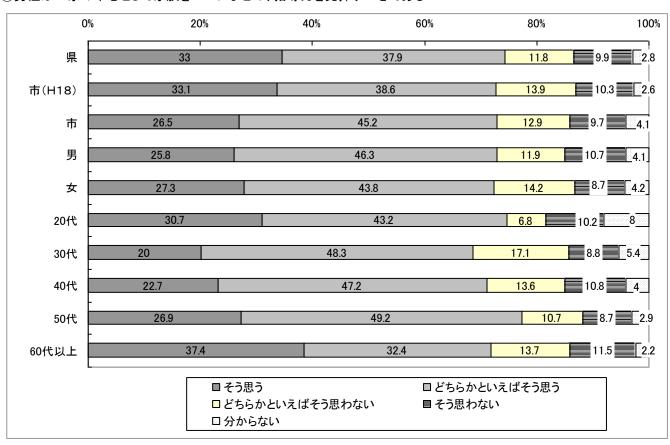
### ③仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである



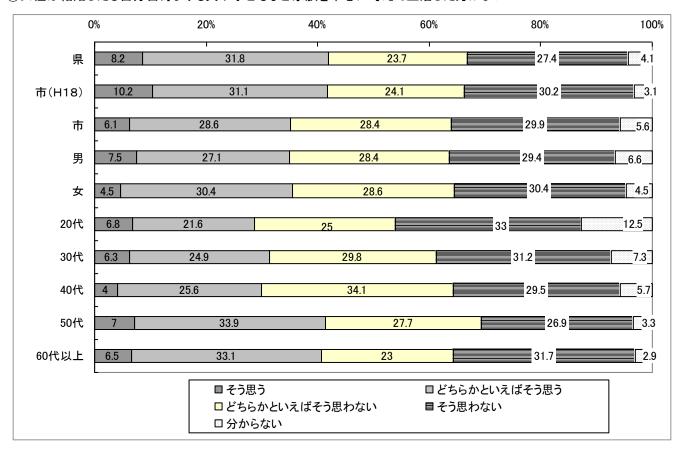
### ④男性も家事・育児に積極的に参加すべきである



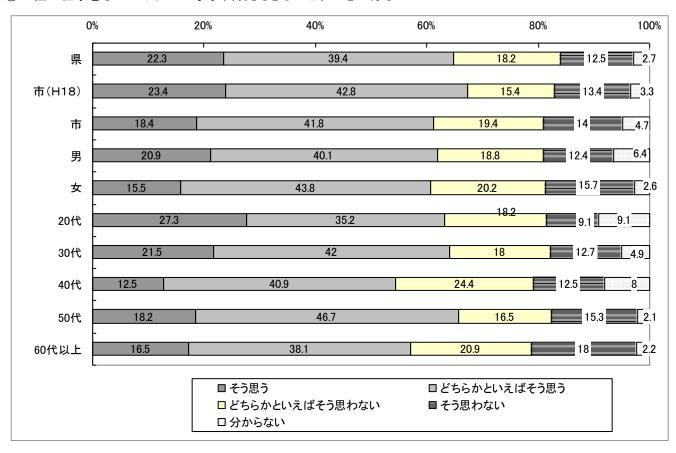
### ⑤男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである



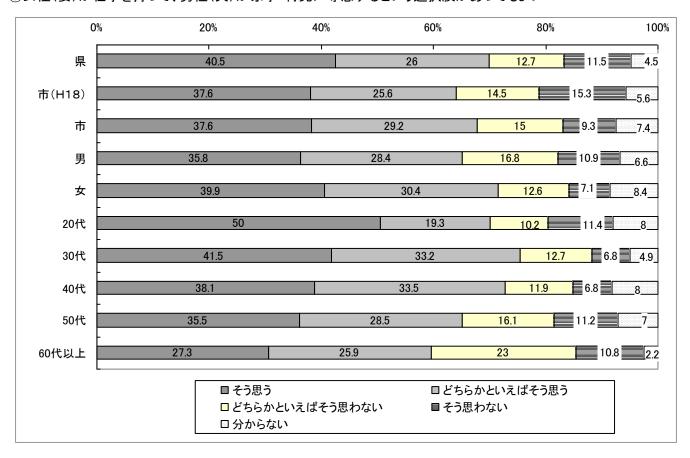
### ⑥女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



### ⑦女性が仕事をもつのはよいが家事、育児もきちんとすべきである



### ⑧女性(妻)が仕事を持って、男性(夫)が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい



#### ▼仕事や生き方についての多様な選択、男性の家事・育児参加など、できるようにすべきとの考えが8割を超える

男女の生き方や家庭生活に関する考えについてみると、「そう思う」と「どちらといえばそう思う」を合わせた『そう思う』で、「『男(女)だから』という決めつけは、その人の可能性を閉じ込めてしまう」や「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」の項目で8割を超えている。

また、「女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい」では、「そう思う」と回答した割合が34.7%と低くなっており、男女が性の違いによって役割分担などの制限を受けるべきではないと考えていることがうかがえる。

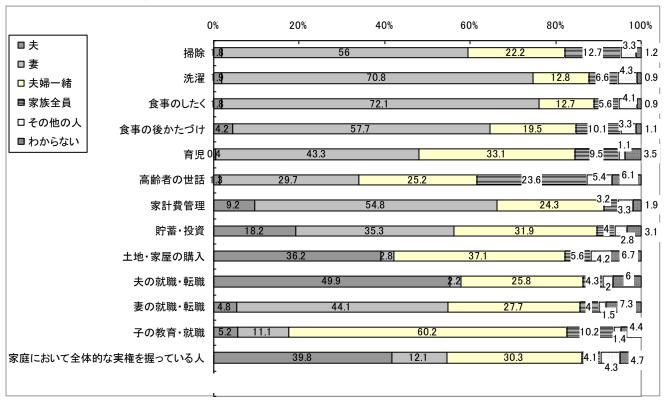
性別にみると、『「男(女)だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じ込めてしまう』で、男性の76.8%が「そう思う」と回答しているのに対し、女性は85.5%となっており、8.7ポイントの差がある。

同様に「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」でも、男性の「そう思う」は80.8%、女性が94.4%で、 男女間で13.6ポイントの大きな差ができている。

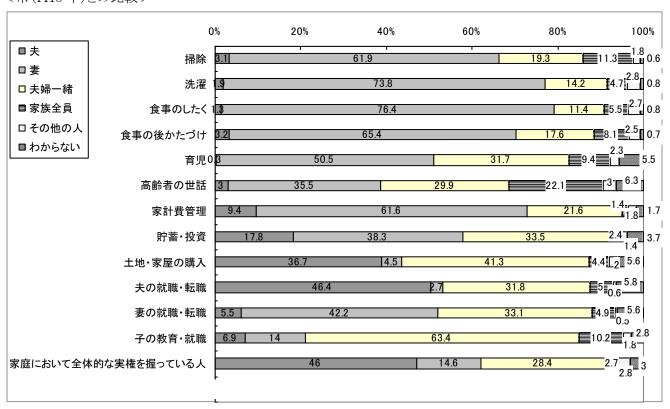
年代別にみると、「女性(妻)が仕事を持って、男性(夫)が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい」では、「そう思う」と答えた方が最も多いのは30代で74.7%で、最も低かったのは60代以上の53.2%となっており、21.5 ポイントもの差があった。また、「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」では、「そう思う」と答えた方が、20代で90.9%、60代以上で79.1%、「女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」で「そう思う」と答えた方が50代で40.9%、20代で28.4%、「女性が仕事をもつのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」で「そう思う」と答えた方が50代で64.9%、40代で53.4%と10ポイント以上の開きがみられる。こうしたことから、50代以上の男女で役割意識を持っている方が多いことがうかがえる。

### (2) 家事等の分担、最終決定者

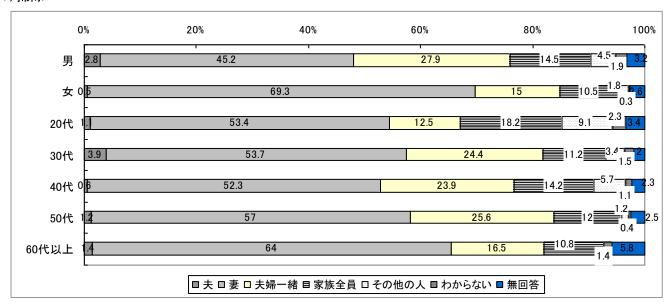
問5 次にあげるような家事などを主に誰が分担していますか。また、家計費の管理などについて最終的に決定しているのはどなたですか。



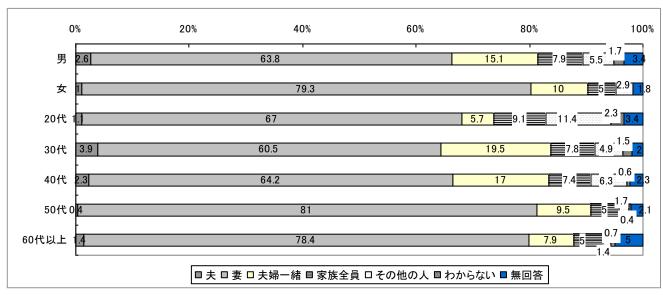
<市(H18年)との比較>



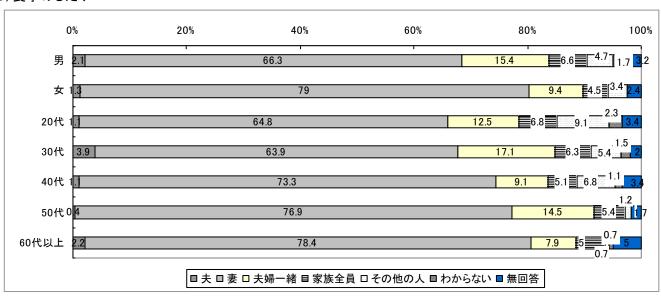
### 1)掃除



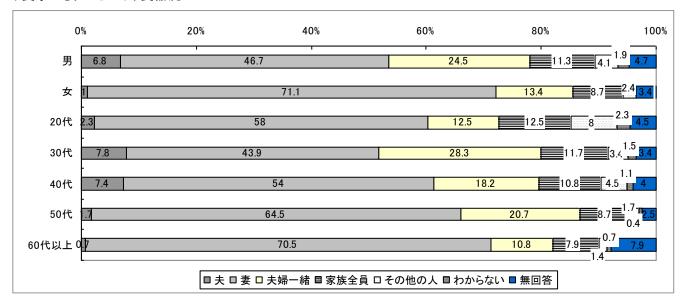
### 2)洗濯



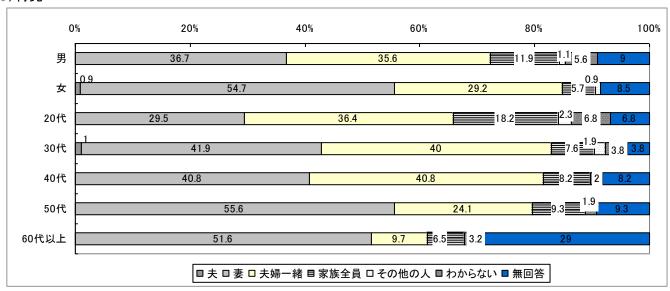
### 3)食事のしたく



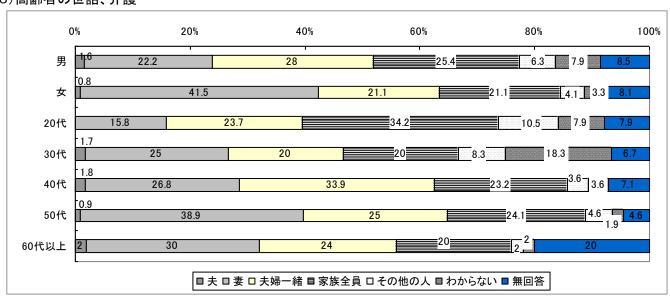
### 4)食事の後かたづけ、食器洗い



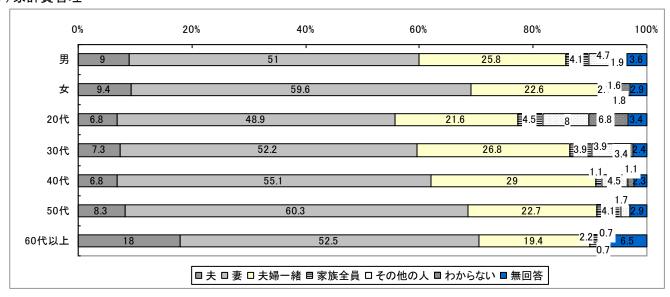
#### 5) 育児



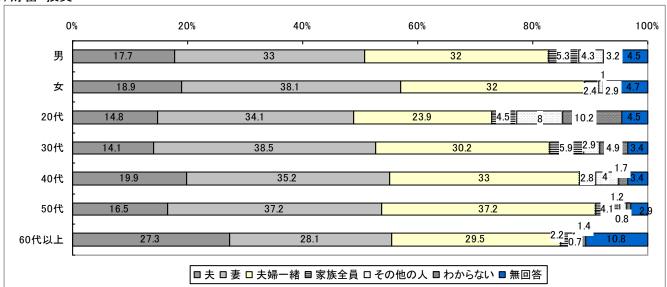
### 6) 高齢者の世話、介護



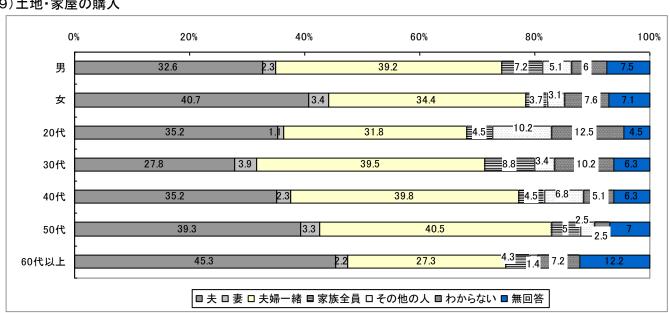
#### 7)家計費管理



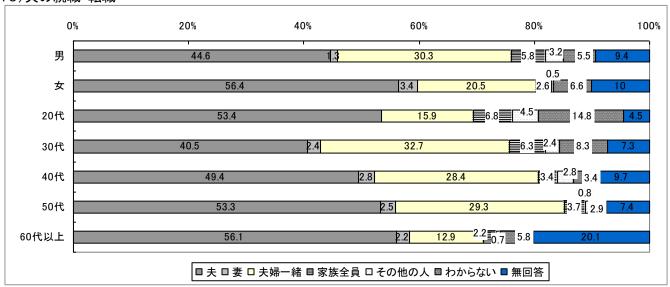
#### 8) 貯蓄・投資



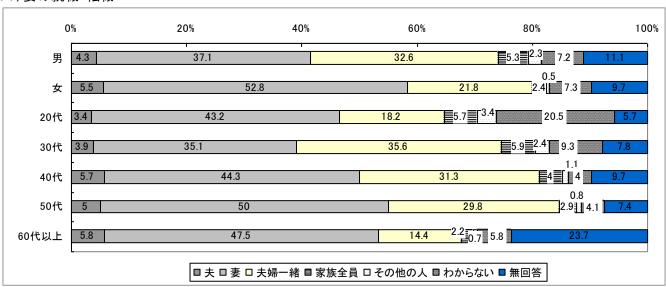
### 9)土地・家屋の購入



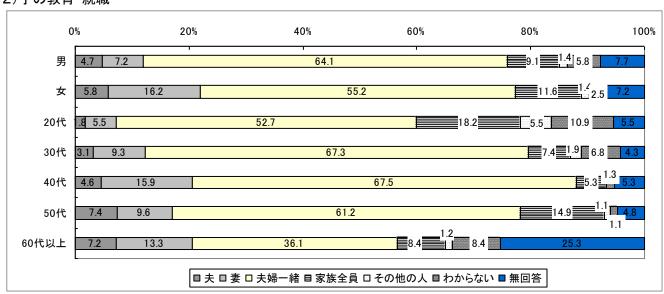
### 10)夫の就職・転職



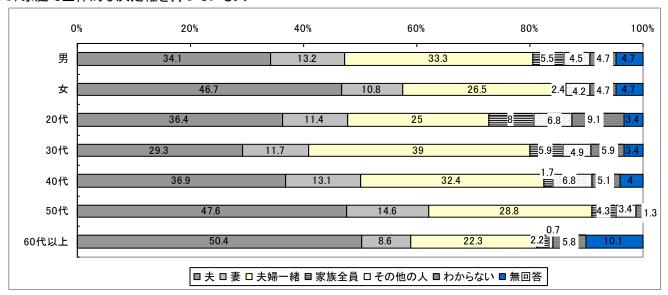
#### 11)妻の就職・転職



#### 12)子の教育・就職



### 13)家庭で全体的な決定権を持っている人



### ▼家事等の分担については、いずれの項目も「妻」が多数を占める

家事等の分担については、「妻」が多数を占める結果となっており、特に洗濯(70.8%)・食事のしたく(72.1%)で6割以上となっている。

「育児」では、「夫婦一緒」の割合が3割を超えており、「子の教育・就職」では6割が「夫婦一緒」と答えている。

「高齢者の世話」では、25.2%が「夫婦一緒」、23.6%が「家族全員」となっており、あわせると「妻」と答えた29.7%よりも高くなっている。

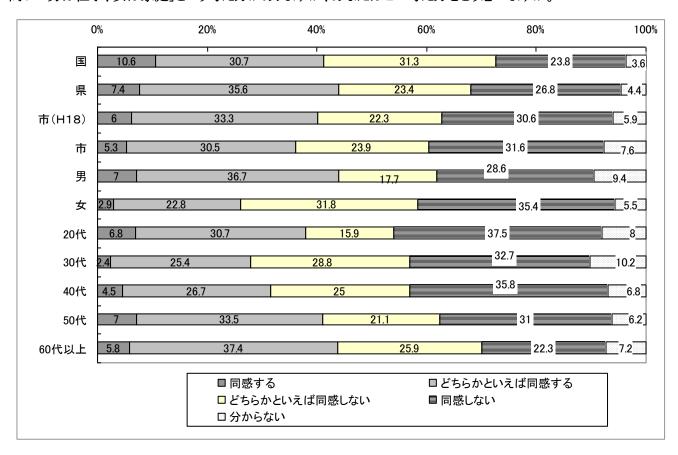
「夫」と答えた割合の高い項目は、「夫の就職・転職」(49.9%)、「家庭において全体的な実権を握っている人」 (39.8%)で、約4割を超える結果となっている。

性別にみると、家事等の分担について、「妻」と答えている割合が男女どちらも高くなっているが、「夫婦一緒」と答えている割合は、どの項目でも男性が高い傾向にある。

年代別に見ると、「土地・家屋の購入」では、「夫」や「夫婦一緒」の割合が高いが、年代が上がるにつれて「夫」と答える人の割合が高くなっている。また、「家庭で全体的な決定権を持っている人」でも、「夫」と回答している方の割合が年齢が上がるにつれて高くなっている。

### (3) 性別役割分担意識についての考え方

問6 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。



「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感する」または「どちらかといえば同感する」と答えた方の割合は、 国や県に比べて5ポイントほど低くなっている。

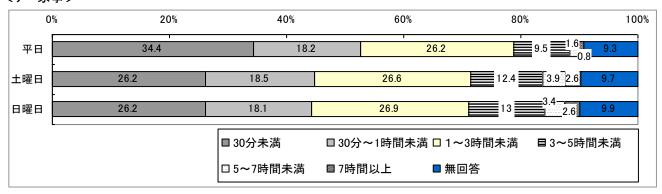
性別にみると、男性の「同感する」は43.7%で、対する女性は25.7%であり、男性に性別役割分担の意識が高くなっていることが見受けられる。

年代別にみると、30代(27.8%)、40代(31.2%)で「同感する」の割合が低くなっており、家庭を持ち(子どもが小さい)、仕事をしている年代で役割分担意識が低くなっていることが分かる。

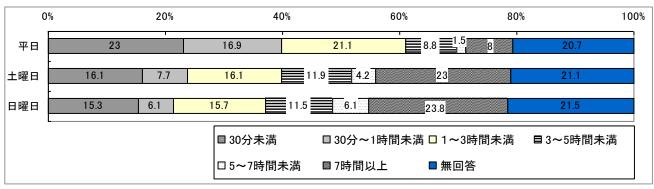
### (4)家事・育児・介護等に携わる時間

問7 次にあげるア〜エについて、どのくらい時間をかけていますか。平日(月曜〜金曜)、土曜日、日曜日それぞれ 1日あたりの平均時間をご記入ください。

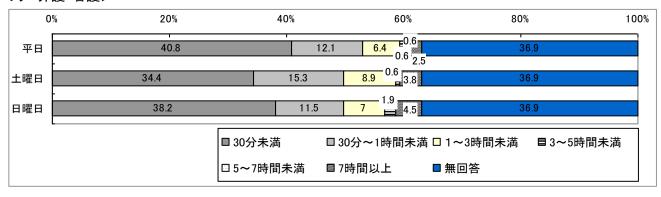
### くア 家事>



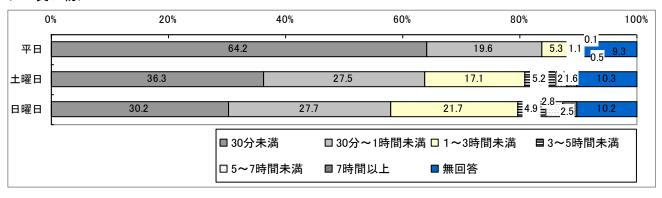
### くイ 育児>



### くウ 介護・看護>

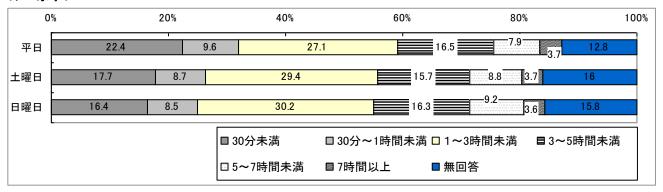


#### <エ 買い物>

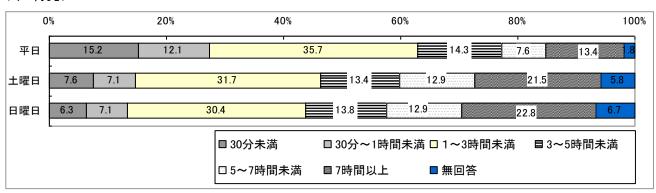


### 県との比較

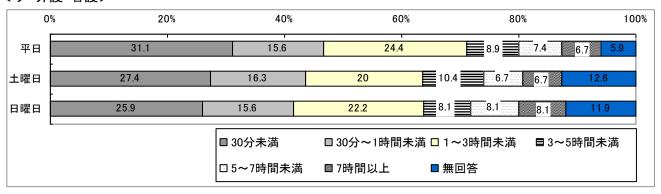
## くア 家事>



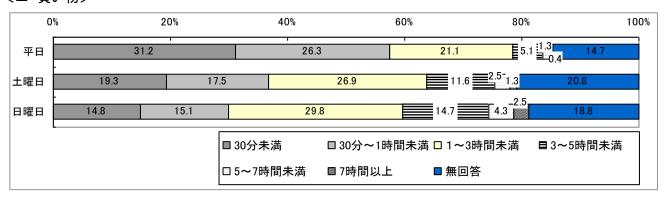
### くイ 育児>



### くウ 介護・看護>



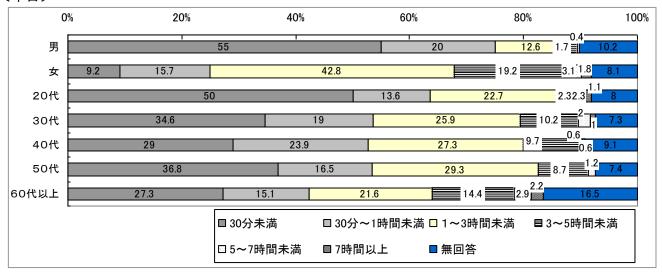
### <エ 買い物>



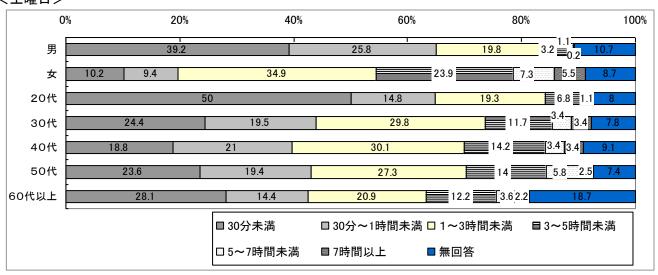
### 男女•年代別比較

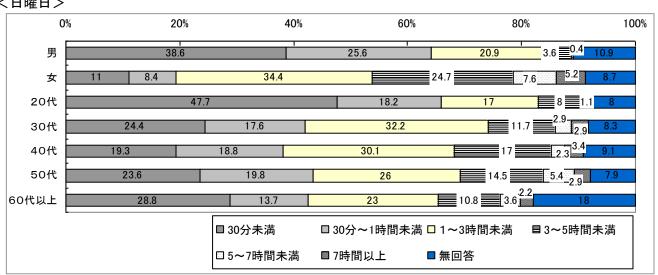
### ア 家事

### <平日>



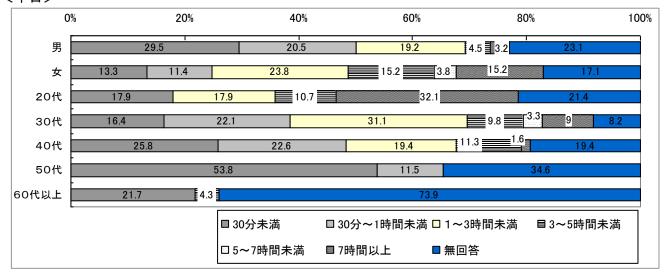
#### <土曜日>



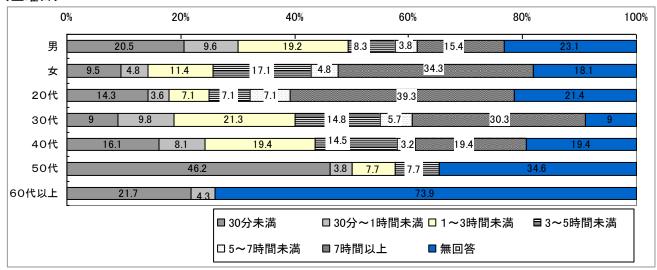


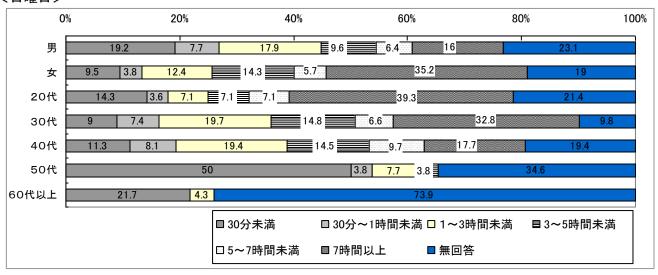
### イ 育児

### <平日>



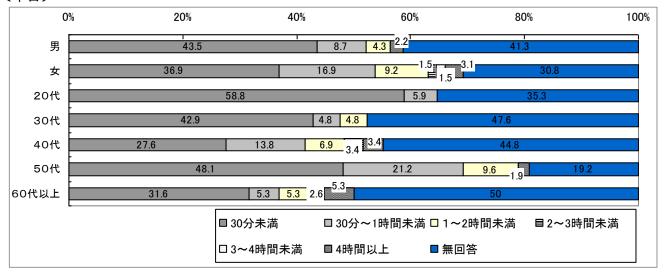
### <土曜日>



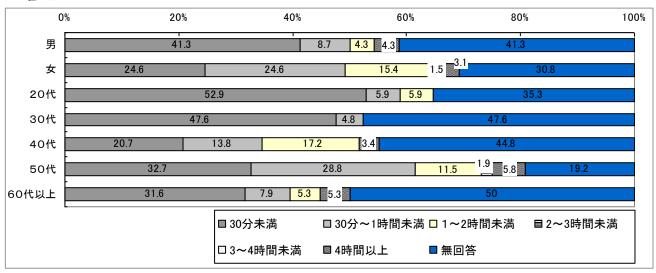


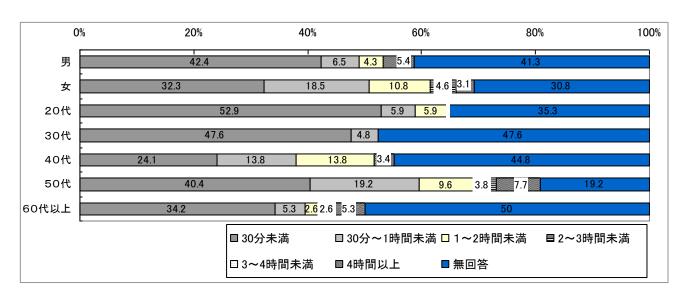
### ウ 介護・看護

### <平日>



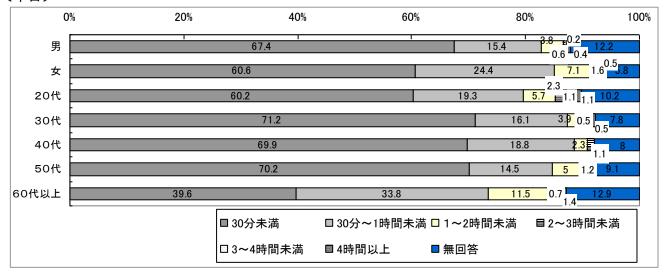
### <土曜日>



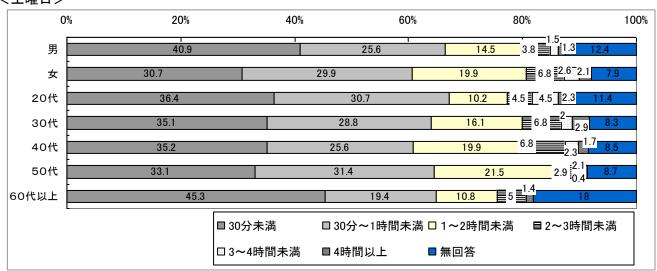


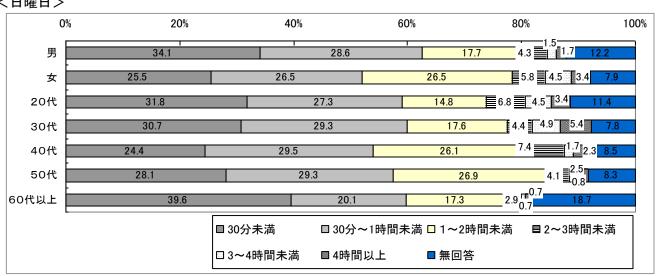
## エ 買い物

### <平日>



### <土曜日>





### ▼家事・育児・介護等に携わる時間は平日においてどの項目も30分未満が多数を占める

家事に携わる時間については、平日では、30分未満が34.4%で最も高く、県の22.4%よりも 12 ポイント高い結果となっている。土曜日・日曜日では30分未満と1~3時間未満の回答が同じ割合で高くなっている。

性別にみると、男性は30分未満がどの曜日でも最も高く(平日55.0%、土曜日39.2%、日曜日38.6%)、女性は1~3時間未満(平日42.8%、土曜日34.9%、日曜日34.4%)が多くなっている。

年代別に見ると、20代で曜日にかかわらず「30分未満」(平日50.0%、土曜日50.0%、日曜日47.7%)と回答している方の割合が高くなっている。

育児については、平日で3時間未満が60%以上(30分未満23.0%、30分~1時間未満16.9%、1時間~3時間未満21.1%)を占めているが、土曜日・日曜日では7時間以上(平日8.8%土曜日23.0%、日曜日23.8%)の割合が増えている。

性別にみると、男性は平日で1時間未満が50.0%と多くなっているが、土曜日では30.1%、日曜日では26.9% と減少しており、7時間以上と答えた方は、平日の3.2%から土曜日は15.4%、日曜日は16.0%にまで増加している。

年代別にみると、平日は20代で「7時間以上」と答えている人の割合が高く(32.1%)、土曜日、日曜日になると20代~40代で7時間以上の割合が増えており(土曜日20代39.3%、30代30.3%、40代19.4%、日曜日20代39.3%、30代32.8%、40代17.7%)、休日には子どもとの時間をつくっていることが伺える。

介護・看護については、1時間未満がどの曜日も全体の5割程度となっている(平日52.9%、土曜日49.7%、日曜日49.7%)。

性別にみると、平日の30分未満では男性が43.5%、女性が36.9%、30分から1時間未満では男性が8.7%、女性が16.9%で、土曜日になると30分未満の割合が男性は41.3%でほとんど変わらないものの女性は24.6%と減少し、30分から1時間未満の割合が24.6%と増加している。

年代別にみると、40~50代で介護・看護を30分以上している人の割合が高くなっている。

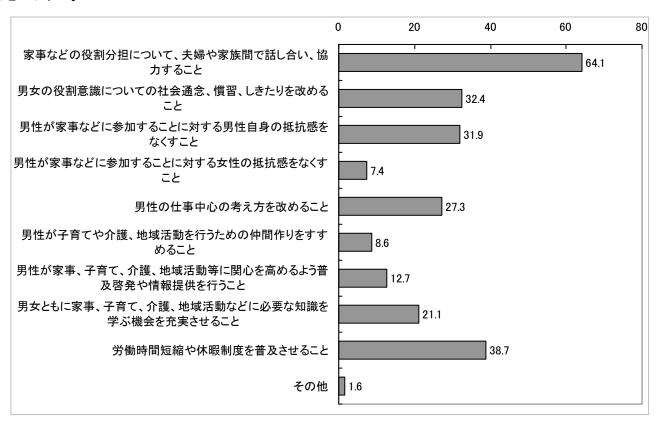
買い物の時間については、平日で6割が30分未満(64.2%)と回答しており、土曜日・日曜日については3割が30分未満(土曜日36.3%、日曜日30.2%)と回答している。これは、県の結果と比較すると2倍の割合となっている。また、30分~1時間未満と回答した方の割合も高く、平日で19.6%、土曜日27.5%、日曜日27.7%で、平日では8割程度が、休日では6割程度の方が1時間以内で買い物を済ませているという結果になっている。

性別にみると、女性より男性の方が買い物にかける時間が短い傾向がある(30分以上:平日男性 32.6%、女性 39.4%、土曜日男性59.1%、女性69.3%、日曜日男性65.9%、女性74.5%)。

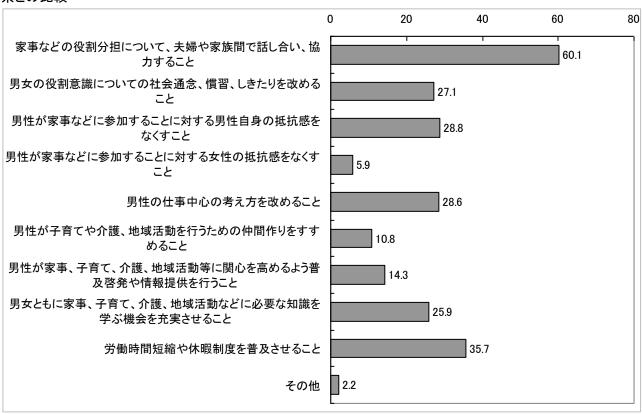
年代別にみると、60代以上で買い物の時間が30分未満の方は、39.4%でほかの年代と比べて20ポイント以上少なくなっている。

## (5)男女が家事・子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと

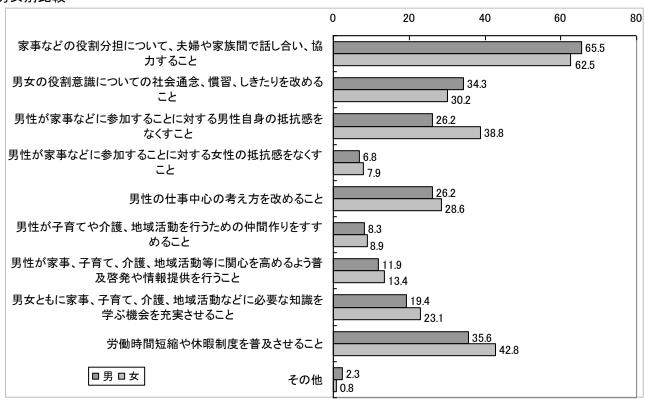
問8 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。



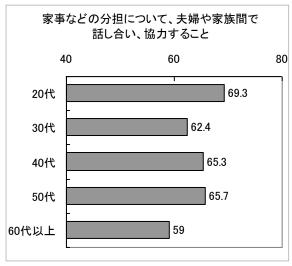
### 県との比較

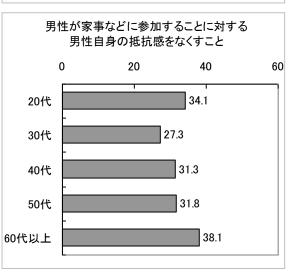


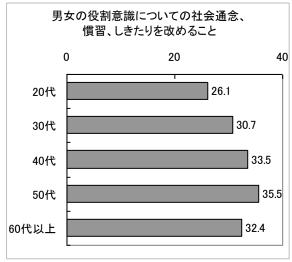
### 男女別比較

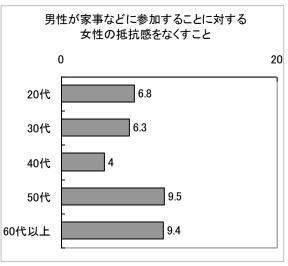


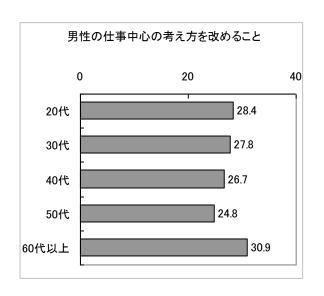
### 年代別比較

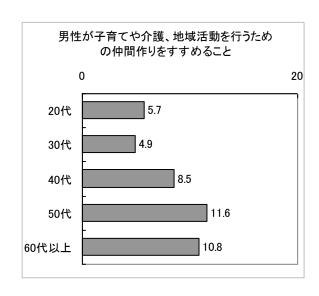


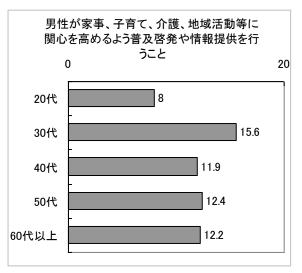


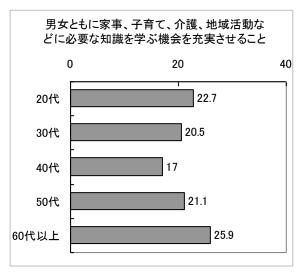


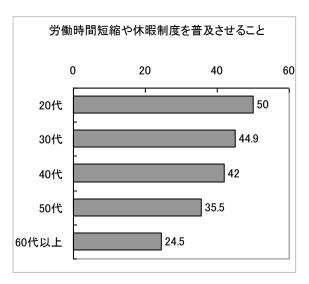












▼男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うことは、「家事など の役割分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が6割を超える

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うことは、「家事などの役割分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が64.1%で最も高くなっている。次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が38.7%となっている。

男女別に見ると、差のある項目として「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」で10ポイント以上の開きが見られる。(男性:26.2%、女性38.8%)

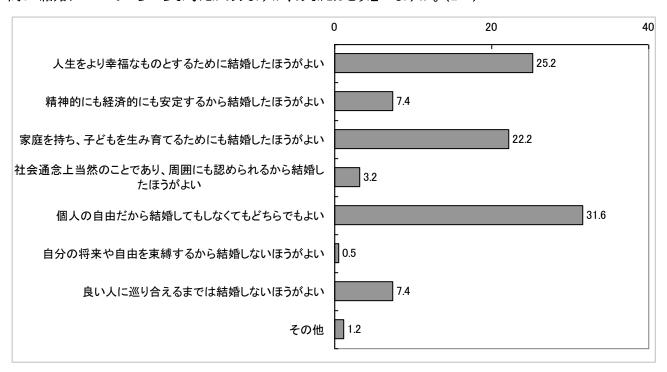
年代別にみると、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」で、20代では50.0%、60代以上で24.5%と、若い年齢層で高くなっている。

## く男性が家事、子育て等に参加するために必要なこと(その他)>

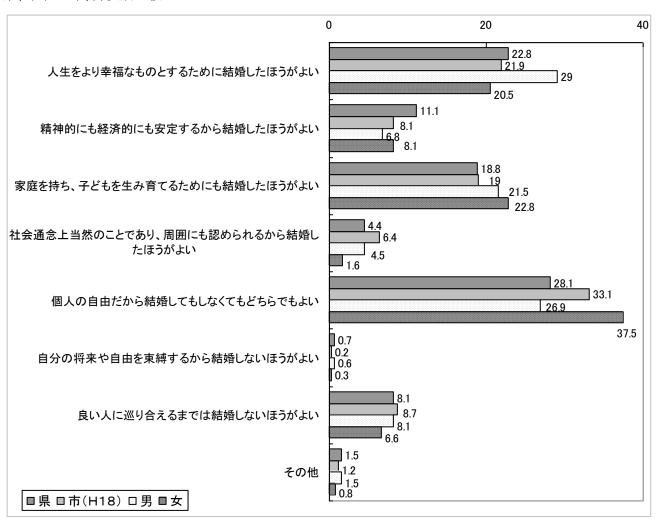
内容	性別	年齢
経済的支援について		
給料を上げる	男性	20代
お金も生活的にも余裕ができてから(性格も大人なら)	男性	30代
社会経済の安定が先、生活が安定しないと実現困難と思う	男性	50代
女性の給料が安く(低く)生活が困難、給料UP	男性	60代
給料の見直し、お金に余裕がなければ片方が働かなくてはいけないの が現状だから	女性	60代
職場環境について		
自営業、会社員とでは生活状況が異なるため時間の差がありすぎる	男性	60代
職場の体質	男性	50代
職場の雰囲気	男性	30代
会社側が子育て、介護等に理解を示し、制度をつくる	男性	20代
その他		
やる気	男性	40代
最終的には本人・夫婦・家族の問題であり必要以上に行政が介入すべき事案ではない	男性	40代
決め事はよくない	男性	30代
二人ともやること	男性	30代
身体的なつくりが違うんだから平等は無理	男性	30代

## (6)結婚・離婚についての考え

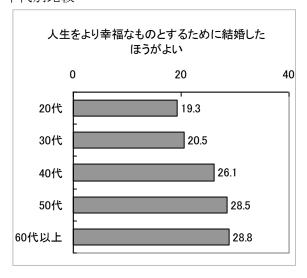
### 問9 結婚についていろいろな考えがありますが、あなたはどう思いますか。(1つ)

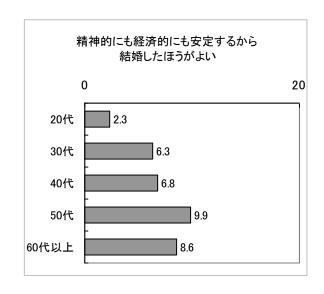


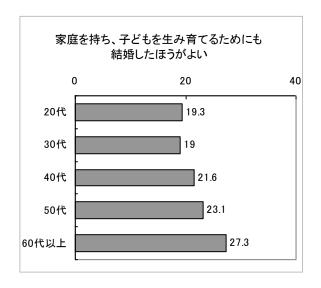
### 県、市(H18)、男女別比較

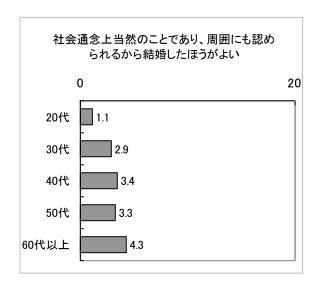


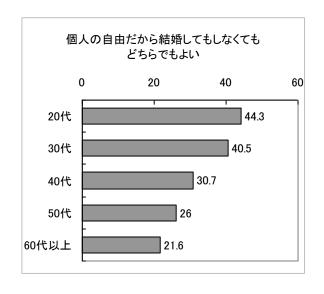
## 年代別比較

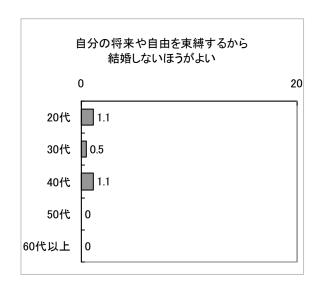


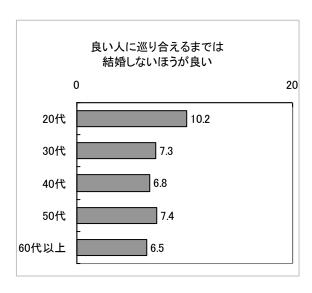












## ▼「個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい」が3割を超えて最多

結婚については、「個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい」が、31.6%で最高となっている。また、「人生をより幸福なものとするために結婚したほうがよい」が25.2%、「家庭を持ち、子どもを生み育てるためにも結婚したほうがよい」が22.2%となっており、「結婚したほうがよい」と考えている人の割合が高いことが分かる。

県や、前回調査と比較してみても上記の3項目は上位3位となっている。

男女別に見ると、男性では、「人生をより幸福なものとするために結婚したほうがよい」が29.0%で最も高く、女性では、「個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい」が37.5%で最も高くなっている。

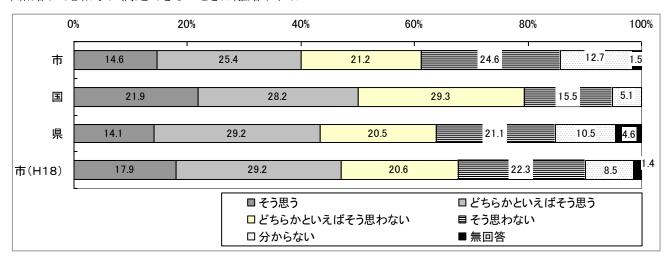
年代別にみると、「個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい」では、年代が上がるにつれて「そう思う」 割合が減少している。「人生をより幸福なものとするために結婚したほうがよい」では、年代が上がるにつれて「そう思う」の割合が高くなっている。

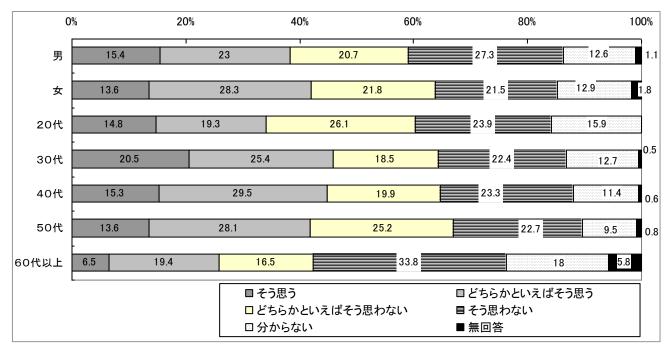
### <結婚についていろいろな考えがありますが、あなたはどう思いますか。(その他)>

内容	性別	年齢
結婚したほうが良い		
老後を考えると、結婚したほうが良い。	女性	50代
子孫繁栄のため。人類の使命である。	男性	30代
話をする相手がいたほうがいいかな。	女性	50代
子孫を次の世代に繋ぎながら身内と楽しく過ごすためにも結婚したほう が良い	女性	40代
その他		
個人にまかせる	男性	30代

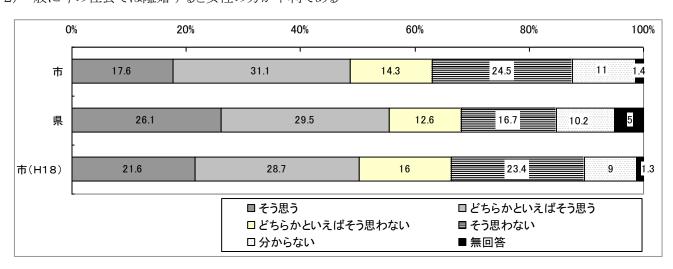
## 問10 次にあげる離婚の考え方についてどう思いますか。(1つ)

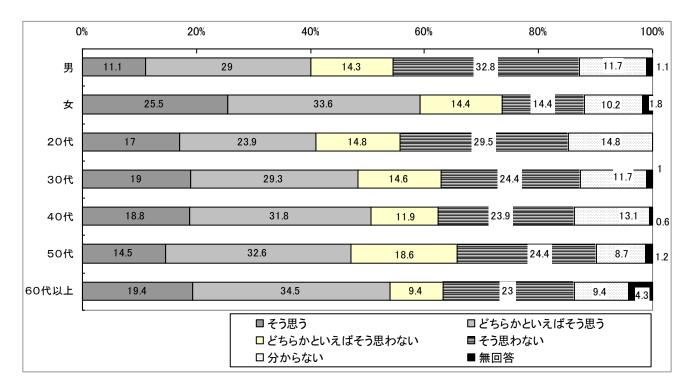
1)結婚しても相手に満足できないときは離婚すればいい





### 2)一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である





## ▼「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればいい」で、「そう思う」と「そう思わない」が約4割ずつ 「離婚すると女性のほうが不利」では「そう思う」が約5割、「そう思わない」が約4割

「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればいい」との考えで、「そう思う」は40.0%となっている。これは、国の「そう思う」(50.1%)や、県の「そう思う」(43.3%)前回調査の「そう思う」(47.1%)よりも低い結果となっている。 男女別にみると、「そう思う」と答えたのは、男性で38.4%、女性で41.9%となっており、女性のほうが高い結果となっている。

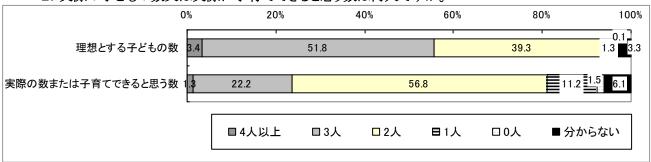
年代別にみると、20代と60代で「そう思う」と答えた人の割合がほかの年代と比べて低くなっている(20代34.1%、60代25.9%)。

「一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である」での「そう思う」の割合は、48.7%で、前回調査 (50.3%)と比較するとさほど変化が見られないが、県の55.6%よりも低い結果となっている。

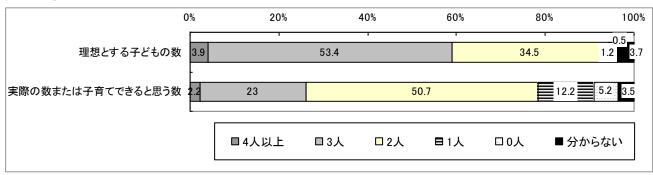
男女別にみると、「そう思う」と答えている女性が59.1%で男性の40.1%よりも2割近く高くなっている。 年代別にみると、60代で53.9%と最も高くなっている。

## (7)子どもについての考え

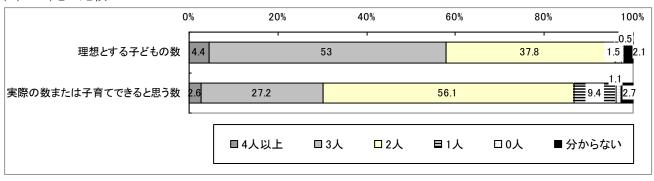
- 問11 近年、少子化が急速に進んでいますが、子どもの出生数のことでお伺いします。
  - 1. 理想とする子どもの数は何人ですか。
  - 2. 実際の子どもの数又は実際に子育てできると思う数は何人ですか。



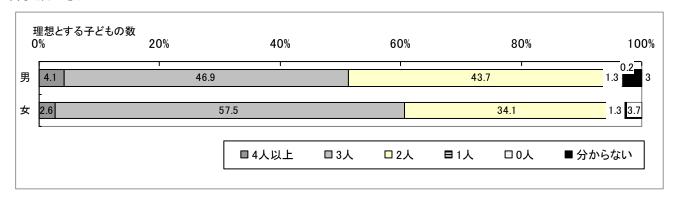
### 県との比較

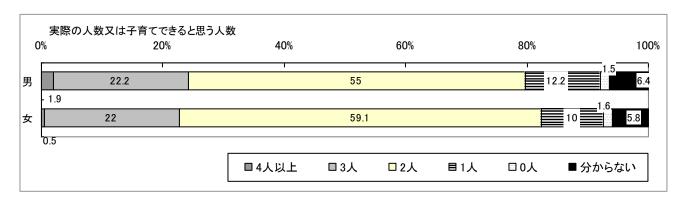


### 市(H18)との比較

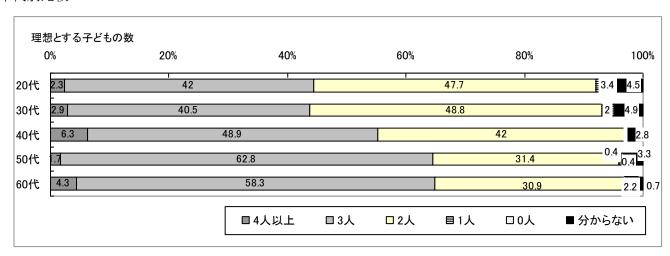


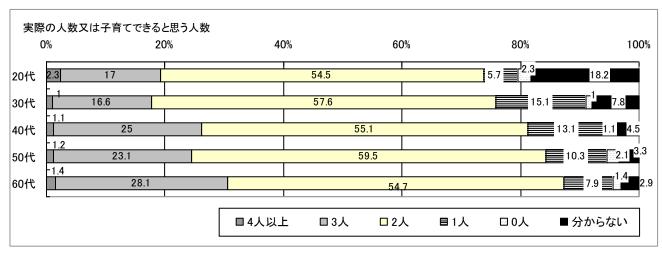
### 男女別比較





#### 年代別比較





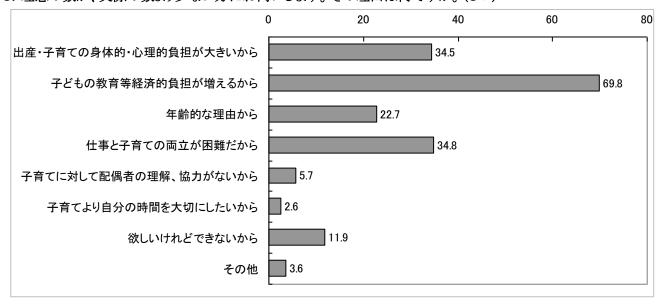
### ▼理想とする子どもの数より、実際の子どもの数が少ないのは、回答者の4割以上

理想とする子どもの数は、51.8%が3人で最も高く、次いで2人の39.3%となっている。実際の子どもの数又は子育てできると思う数では、2人が56.8%で最も高く、次いで3人の22.2%となっている。これは、県や前回調査と同様の結果となっている。

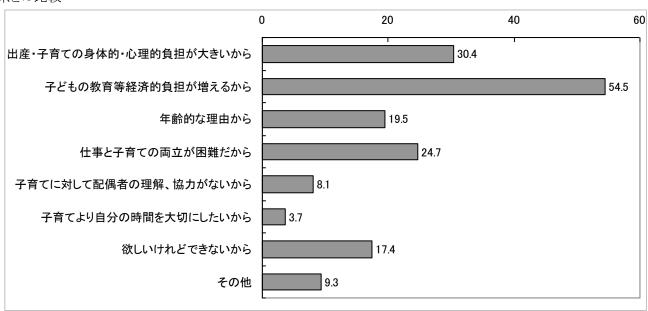
男女別にみると、「理想とする子どもの数」では上位の順位は変わらないものの、男性側で2人と答えた方が43.7%と多少高くなっている。

年代別にみると、年齢が上がるにつれて「理想とする子どもの数」で3人と答えた方の割合が高く、また「実際の人数 又は子育てできると思う人数」でも年齢とともに3人と答えている方の割合が高くなっている。

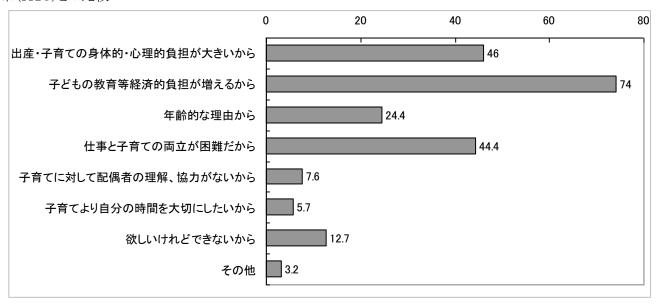
## 3. 理想の数が、実際の数より少ない方にお伺いします。その理由は何ですか。(3つ)



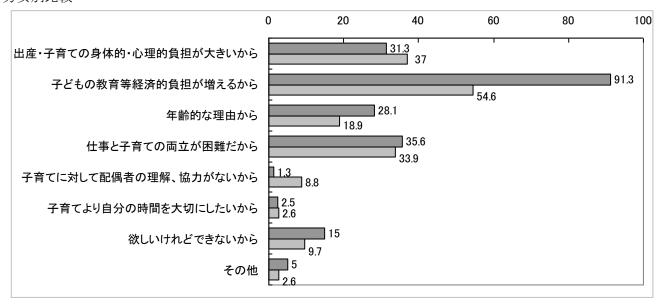
### 県との比較



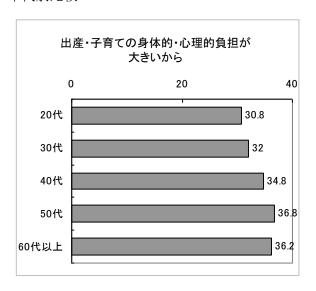
#### 市(H18)との比較

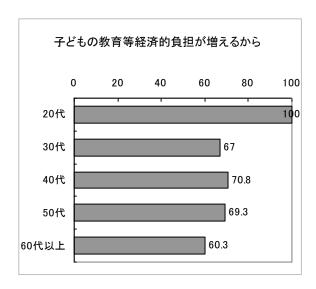


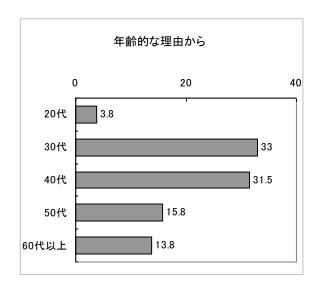
### 男女別比較

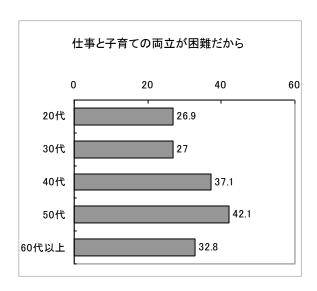


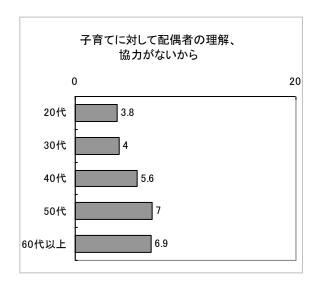
### 年代別比較

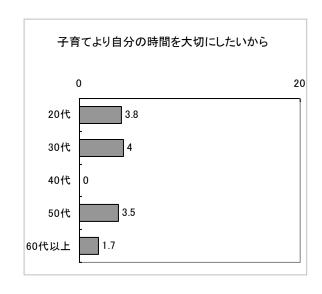


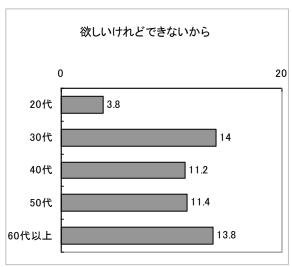












### ▼実際の子どもの数が少ない理由は「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が7割近くを占める

理想よりも実際の子どもの数が少ない理由としては、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が69.8%と高く、次いで「仕事と子育ての両立が困難だから」が34.8%、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」が34.5%と続く。

男女別にみると、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」では男性が91.3%、女性が54.6%と、大きく差がある。また、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」では、女性が男性の回答率を若干上回っている(男性31.3%、女性37.0%)。

年代別にみると、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」では20代は100%、ほかの年代は6割~7割程度となっている。「仕事と子育ての両立が困難だから」では、40代(37.1%)、50代(42.1%)で割合が高くなっている。

## <理想の数が、実際の数より少ない方にお伺いします。その理由は何ですか。(その他)>

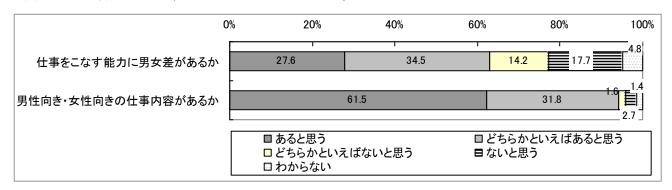
内容	性別	年齢
働いているため、子どもをみてもらえる人がいないし、支援してくれる施 設などがないため	女性	40代
身体的に丈夫であれば何人でもいいが常に具合の悪い子はそちらに 手がかかりすぎるため多数子供の育児は難しい	女性	50代
ドクターストップされたため	男性	30代
職に就けるか心配だから	男性	50代
欲しかったが、主人に反対されたので	女性	40代
保育園・幼稚園に希望したらすぐにでも入園できれば良いが、実際には困難。働いている女性なら良いが、働いていない女性ならその子供はダメというのは良くない。子供を入園させてこれから働こうと思ってもできないから。	男性	60代
自然に任せるのが良いと思うから	男性	50代
一人目がうまれたばかり	男性	20代
子どもの健康上の理由により次の子を持てなかった	女性	50代
世の中が物騒になって安心して子育てできない	男性	50代
成人してみると二人では寂しいと感じるから	女性	50代
女性の社会進出を後押ししながら少子化対策を論ずるのは難問であると考える。出産は女性にしかできない仕事である。男女同様に就労すれば晩婚・少子化は必然である。家事・育児の分担も必然の流れであり行政の介入による効果はきわめて薄いと考える	男性	40代

## 4 就業

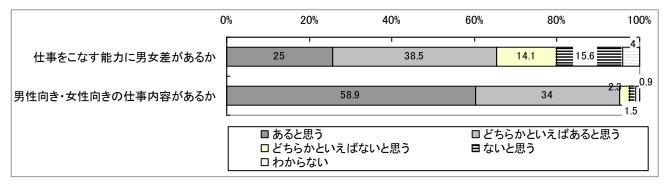
## (1)仕事の能力・内容の男女差についての考え

## 問12 就業に関してお伺いします。

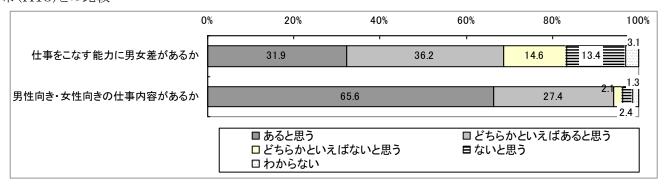
- (1)仕事をこなす能力に対する男女差はあると思いますか。
- (2) 男性向き、女性向きの仕事内容はあると思いますか。



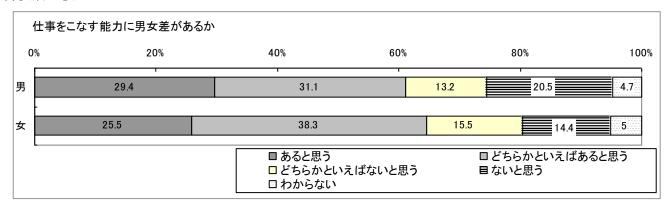
### 県との比較

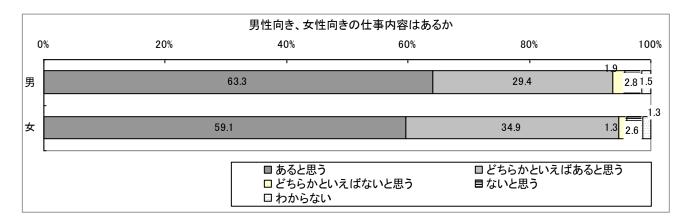


## 市(H18)との比較

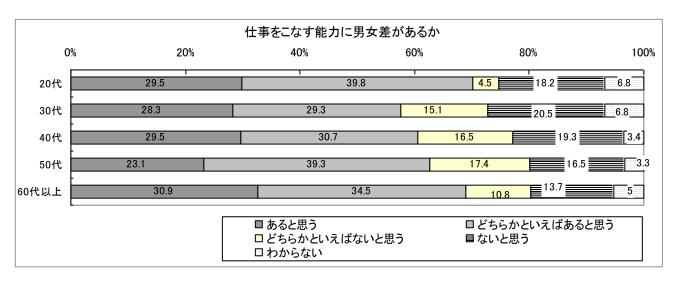


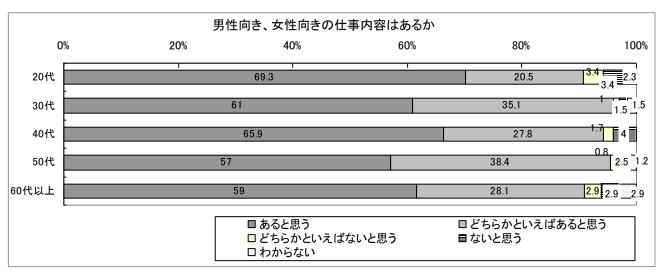
#### 男女別比較





### 年代別比較





### ▼「仕事をこなす能力に男女差がある」 そう思うは6割、「男性向き、女性向きの仕事がある」 そう思うは9割超える

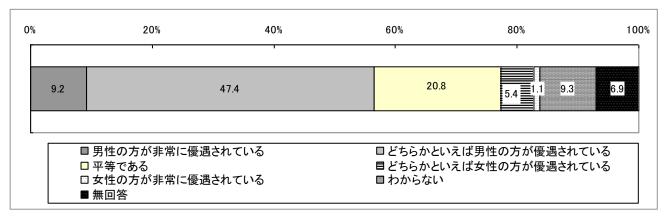
仕事をこなす能力に対する男女差は、「あると思う」(あると思うとどちらかといえばあると思うの合計)が62.1%となっている。 男女別にみても、大きな差はみられない。

年代別にみると、20代で「ないと思う」が、22.7%で最も低く、30代以上では年齢が上がるにつれて「ないと思う」 の回答が低くなっている。

男性向き、女性向きの仕事内容については「あると思う」が93.3%で大半を占める結果となっている。

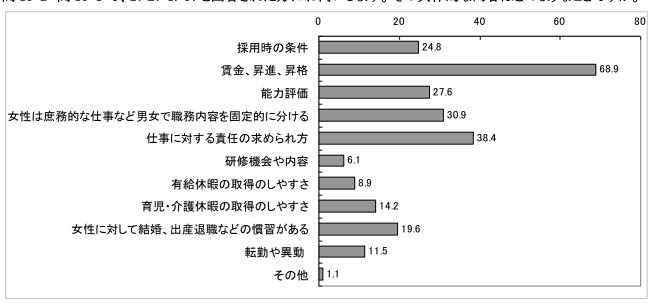
## (2)職場での男女の地位

問13-1 職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。

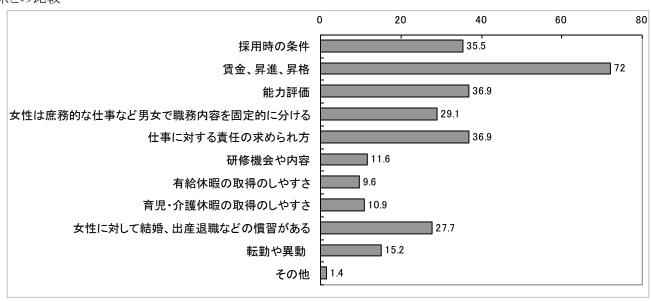


※問1の再掲のため、コメントは割愛する

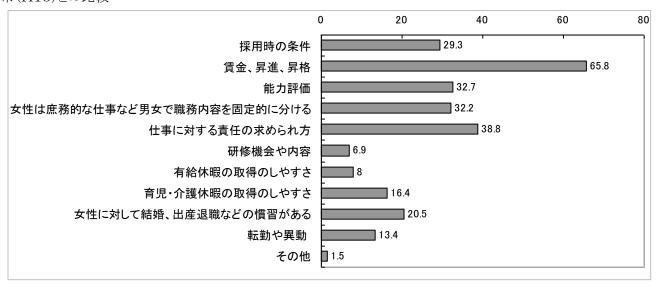
間 13-2 間 13-1 で、1. 2. 4. 5. と回答された方にお伺いします。その具体的な内容はどのようなことですか。



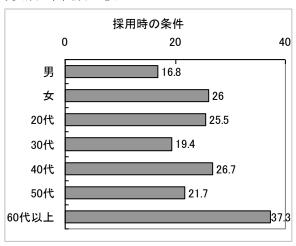
### 県との比較

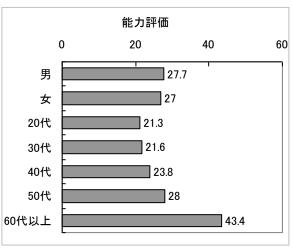


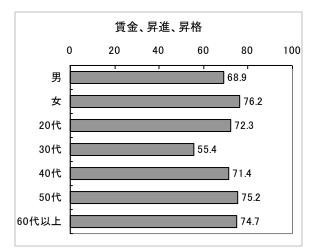
市(H18)との比較

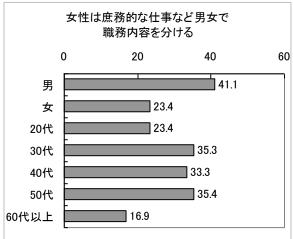


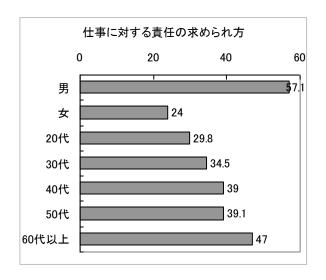
### 男女別•年代別比較

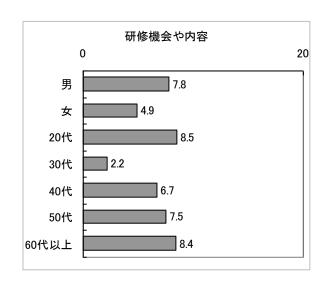


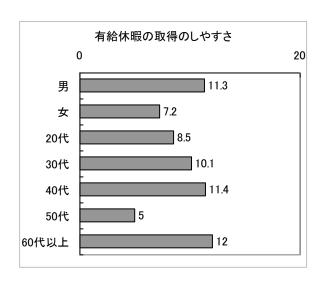


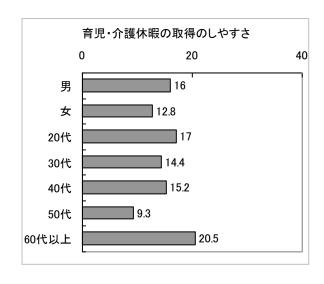


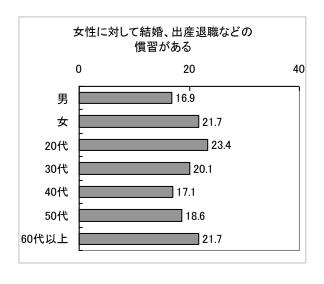


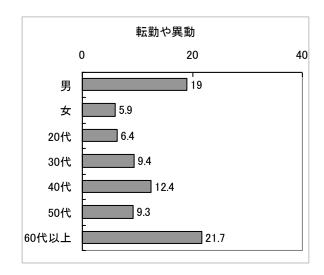












### ▼職場において、男女の地位が平等でないと感じることは、「賃金、昇進、昇格」が6割を超え、最多

職場で男女の地位が平等ではないと思う、具体的な内容は「賃金、昇進、昇格」で68.9%で最も高く、次いで「仕事に対する責任の求められ方」が38.4%、「女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を分ける」が30.9%となっていて、県や前回調査と比較してもほぼ同様の傾向となっている。

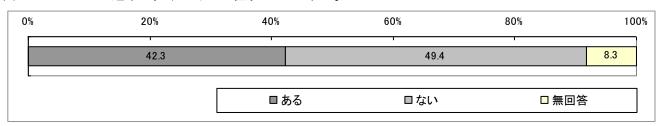
男女別にみると、「採用時の条件」では、女性が男性を9. 2ポイント(男性16. 8%、女性26. 0%)、「賃金、昇進、昇格」では7. 3ポイント(男性68. 9%、女性76. 2%)上回っている。また、「女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を分ける」では、男性が女性を17. 7ポイント(男性41. 1%、女性23. 4%)、「仕事に対する責任の求められ方」では33. 1ポイント(男性57. 1%、女性24. 0%)、「転勤や異動」で13. 1ポイント(男性19. 0%、女性5. 9%)上回っている。

## <職場で男女の地位が平等ではないと思う具体的な内容(その他)>

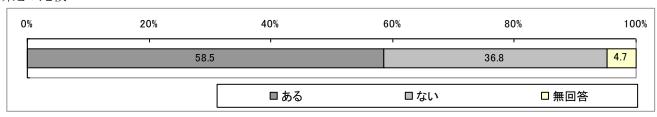
内容	性別	年齢
力仕事。男女の差があるとすれば力	男性	20代
仕事の量が少なくてすむ	男性	30代
厚生関連	男性	30代
重労働のため、男性の職場	女性	50代
女性は男性に比べて力仕事をやることが少ない。	男性	20代
体力や力の関係で力仕事は男の人が多くやっている	女性	40代

## (3)中途退職の経験

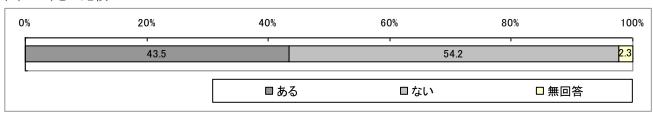
### 問14-1 あなたは途中で仕事をやめた経験がありますか。



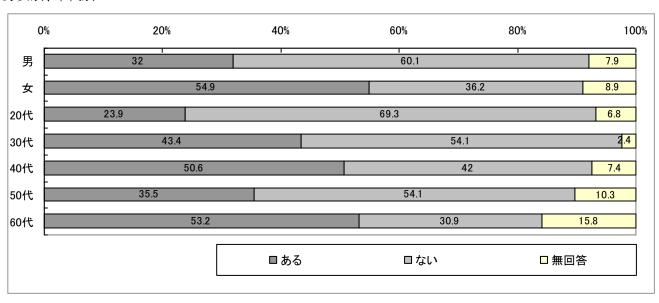
### 県との比較



### 市(H18)との比較



### 男女別、年代別

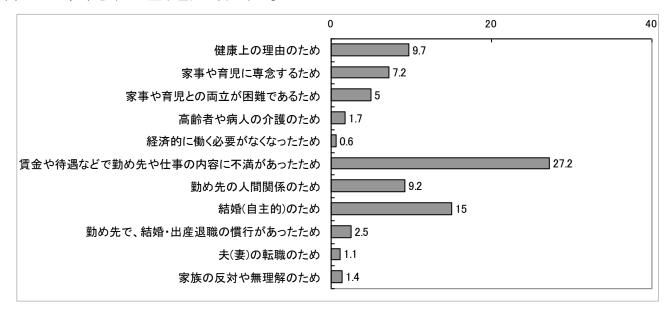


### ▼回答者の4割が仕事を辞めた経験がある

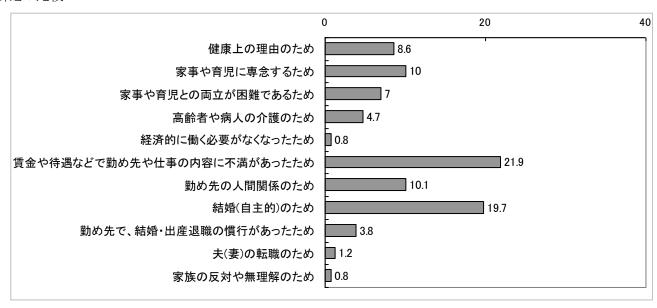
途中で仕事を辞めた経験については、「ある」が42.3%で前回と同様の結果となっているが、県(58.5%)と比較すると低くなっている。

男女別にみると、辞めたことが「ある」は、男性が32.0%、女性が54.9%で約23ポイント高くなっている。 年代別にみると、40代と60代で「ある」が5割を超えている(40代50.6%、60代53.2%)。

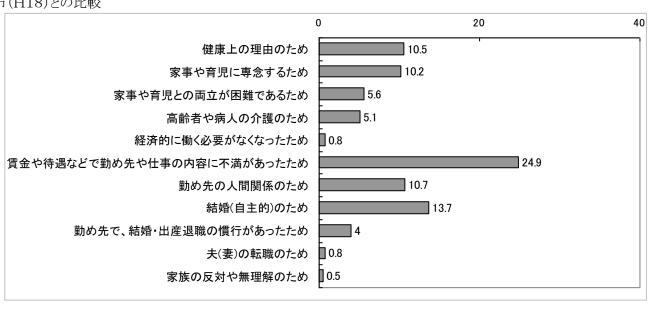
問14-2 仕事をやめた主な理由は何ですか。



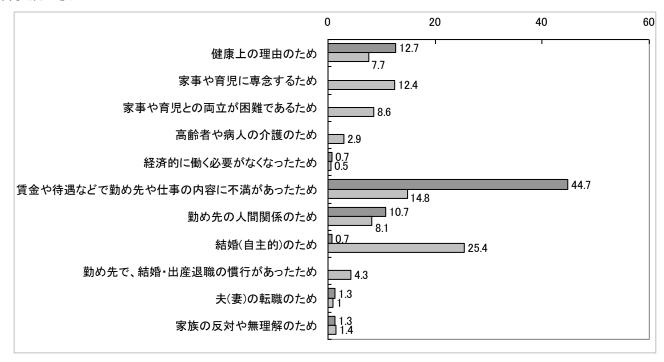
#### 県との比較



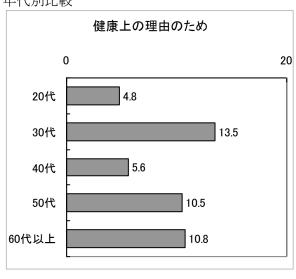
### 市(H18)との比較

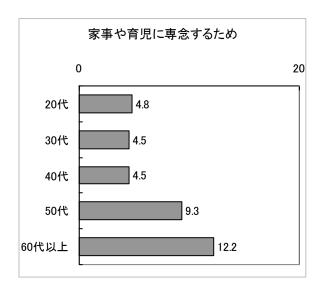


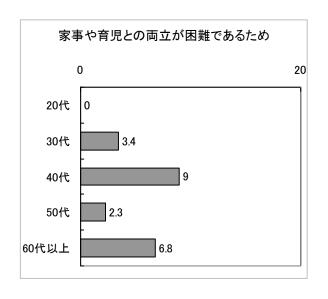
### 男女別比較

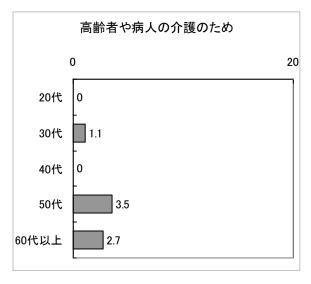


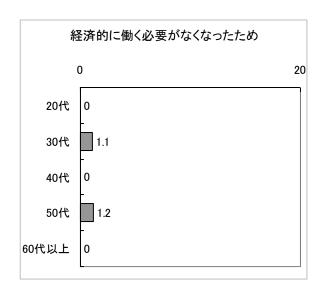
### 年代別比較

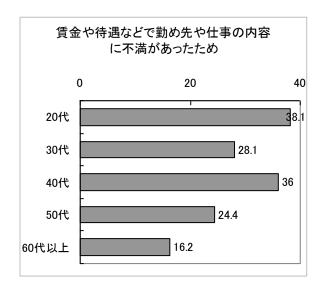


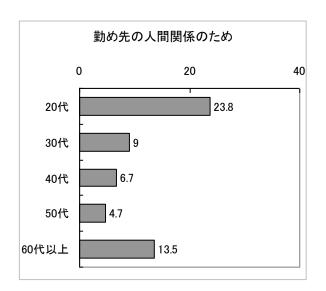


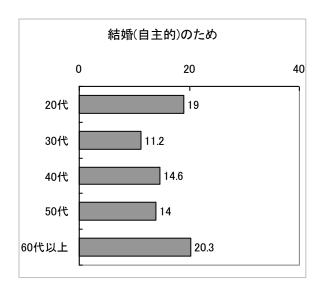


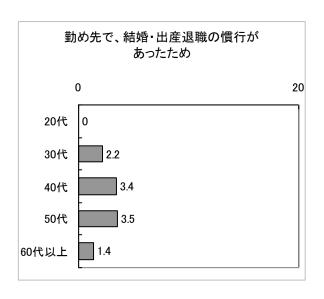


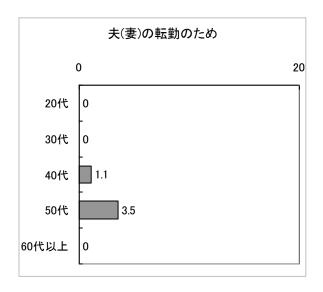


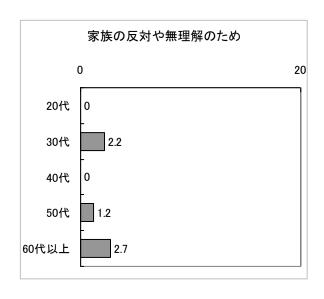












### ▼仕事を辞めた主な理由は「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が最多

仕事を辞めた主な理由については、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が27.2%で最も高く、次いで「結婚(自主的)のため」が15.0%となっている。

男女別にみると、男性では「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が44.7%で最も多く、女性では「結婚(自主的)のため」が25.4%で最も多くなっている。また、「家事や育児に専念するため」では女性が12.4%と2番目に高いのに対し、男性の回答はなかった。

年代別にみると、「家事や育児に専念するため」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。また、「賃金や 待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」では、60代以上の回答率が低くなっている。さらに、「勤め先 の人間関係のため」では、20代で23.8%と最も高くほかの年代と比べて1割以上高くなっている。

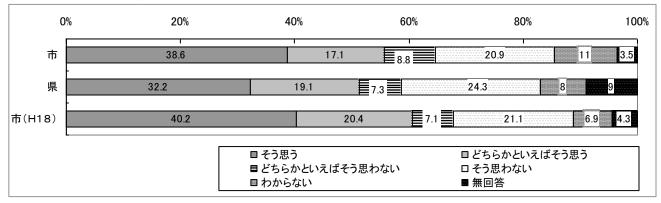
## 仕事を辞めた主な理由(その他)

- ・キャリアアップ・スキルアップするため
- やっていた仕事よりもっとやりたい仕事があったため
- 通勤距離が遠かったため
- 実家へ戻るため
- 独立・開業のため
- ・出産のため
- 学業との両立のため
- 家の仕事を手伝うため
- 結婚により職場を近い場所にうつした
- ・リストラ・勤め先の経営不振等

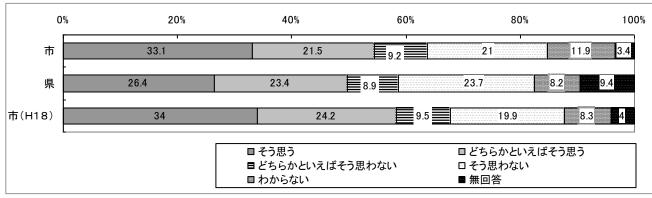
## (4)仕事へのかかわり方

## 問15 仕事のかかわり方についてあなたはどうお考えですか。

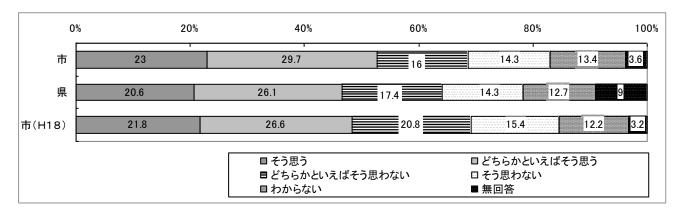
### ①女性は結婚するまで仕事を続けたほうが良い



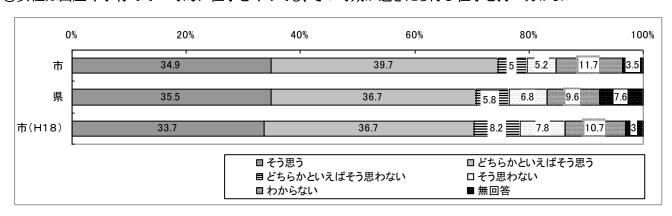
### ②女性は子どもができるまでは、仕事を続けたほうがよい



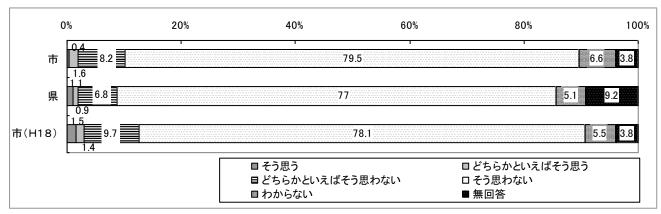
## ③女性は子どもが生まれても、ずっと仕事を続けたほうがよい



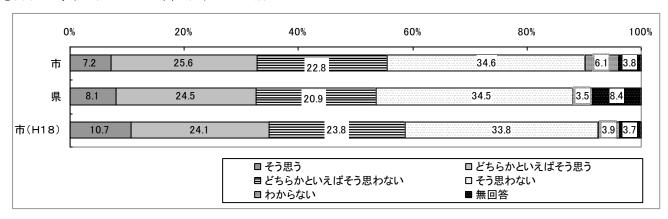
### ④女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい



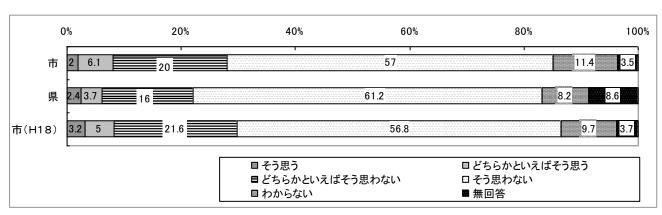
### ⑤女性は仕事を一生持たない方がよい



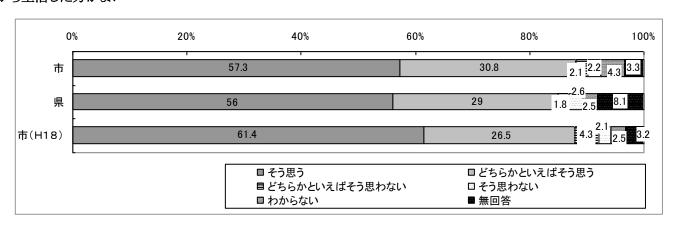
### ⑥男性は家族を支えるため、仕事中心に生活した方がよい



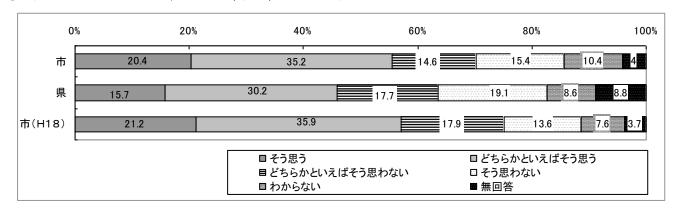
### ⑦男女問わずフルタイムの仕事よりは、自由時間の多いパートの仕事の方がよい



# ⑧男女問わず家庭・家族との触れあいが充実することで仕事にも良い影響を与えると思うから、うまくバランスをとりながら生活した方がよい

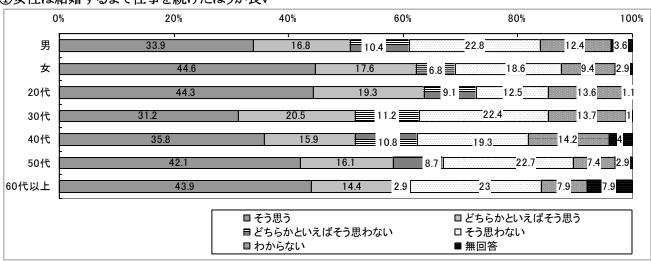


### ⑨男女問わずできることなら仕事よりも家庭・家族との時間を大切にした方がよい

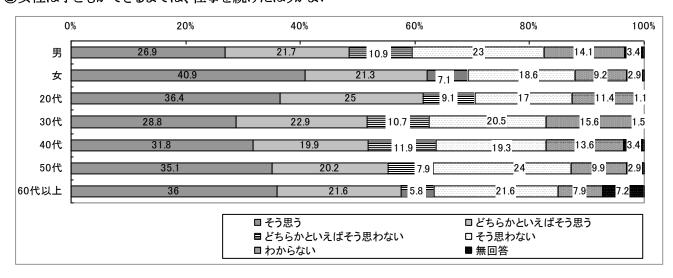


### 男女別•年代別比較

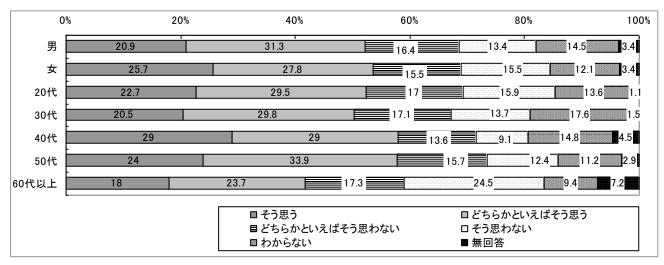
### ①女性は結婚するまで仕事を続けたほうが良い



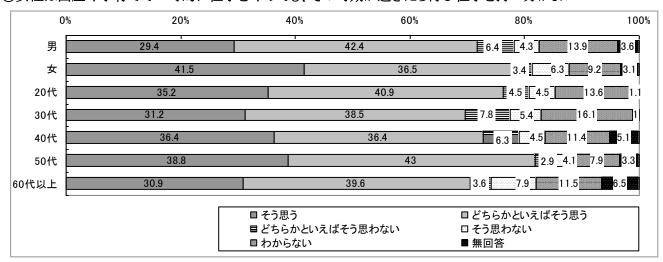
### ②女性は子どもができるまでは、仕事を続けたほうがよい



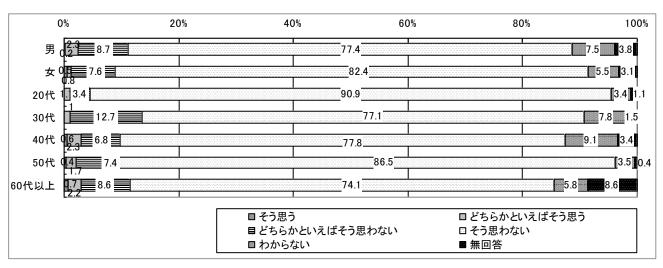
## ③女性は子どもが生まれても、ずっと仕事を続けたほうがよい



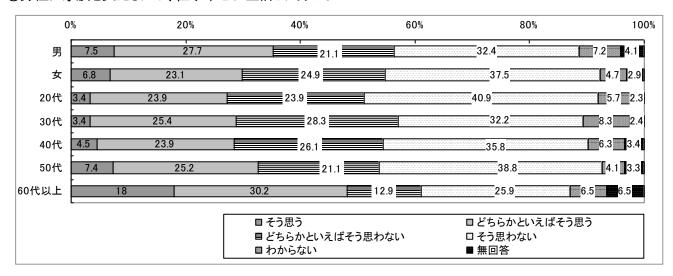
## ④女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい



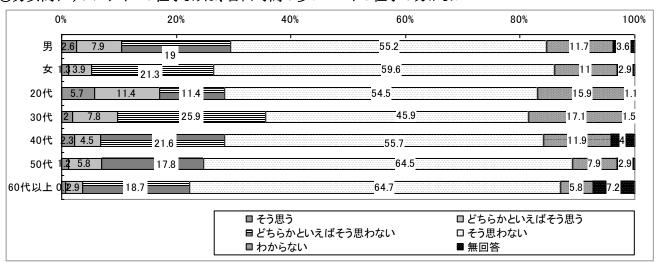
## ⑤女性は仕事を一生持たない方がよい



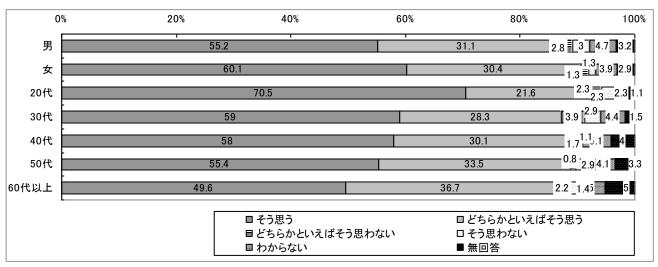
#### ⑥男性は家族を支えるため、仕事中心に生活した方がよい



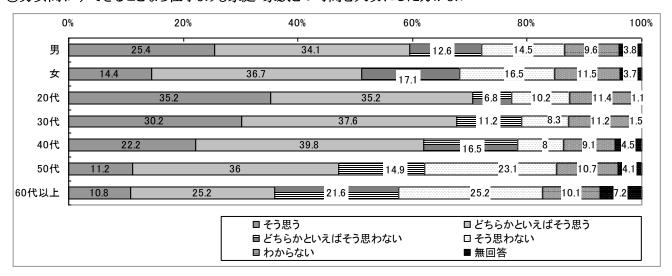
#### ⑦男女問わずフルタイムの仕事よりは、自由時間の多いパートの仕事の方がよい



# ⑧男女問わず家庭・家族との触れあいが充実することで仕事にも良い影響を与えると思うから、うまくバランスをとりながら生活した方がよい



#### ⑨男女問わずできることなら仕事よりも家庭・家族との時間を大切にした方がよい



# ▼「男女問わず家庭・家族との触れあいが充実することで仕事にも良い影響を与えると思うから、うまくバランスをとりながら生活した方がよい」で、同感する意見が8割を超える

仕事の考え方について、「男女問わず家庭・家族との触れあいが充実することで仕事にも良い影響を与えると思うから、うまくバランスをとりながら生活した方がよい」で「そう思う」が88.1%、次いで「女性は、出産や子育てで一時的に仕事を辞めても、その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい」で、74.6%となっている。

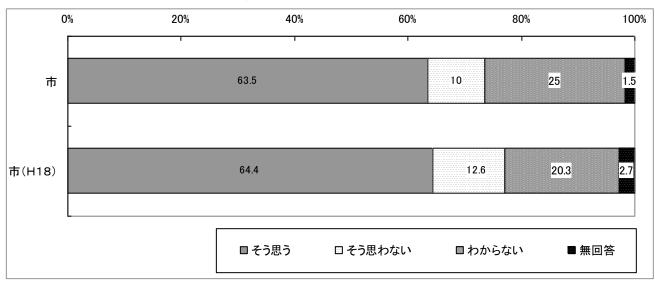
また、「女性は仕事を一生持たないほうがよい」では、87.7%が「そう思わない」、「男女問わずフルタイムの仕事よりは、自由時間の多いパートの仕事の方がよい」で77.0%がそう思わないと回答している。

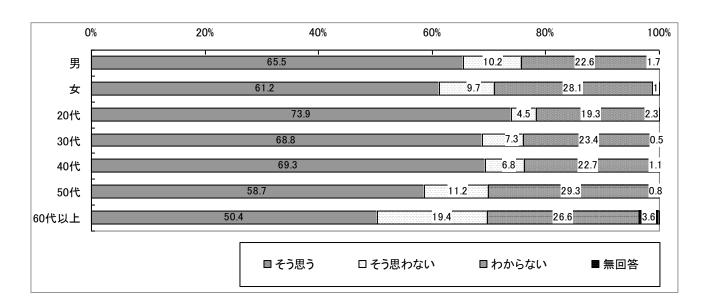
男女別では、「女性は結婚するまで仕事を続けたほうがよい」で同感する男性が50.7%に対し、女性は62.2%、「女性は子どもができるまでは、仕事を続けたほうがよい」で男性48.6%、女性62.2%と1割の差がある。

年代別では、「男女問わずできることなら仕事よりも家庭・家族との時間を大切にしたほうがよい」で年代が上がるにつれ、同感する人の割合が減少している。

## (5)女性の起業についての考え

問16−1 女性が起業(会社を興したり、お店を開いたりすること)することについてお伺いします。女性がどんどん起業して社会に出て行くべきだと思いますか。





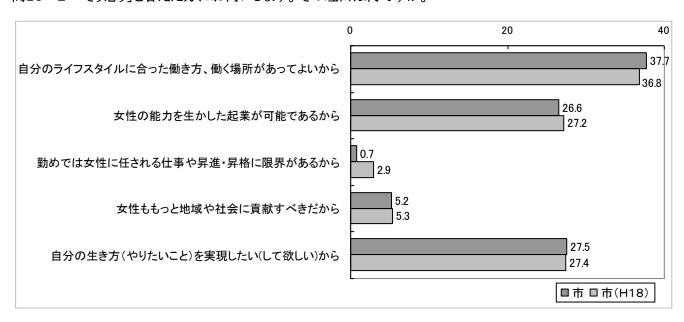
#### ▼「女性がどんどん起業して社会に出て行くべきだと思う」が6割を超える

「女性がどんどん起業して社会に出て行くべきだと思いますか」の問で、「そう思う」と答えたのは63.5%で前回と同様の結果となっている。

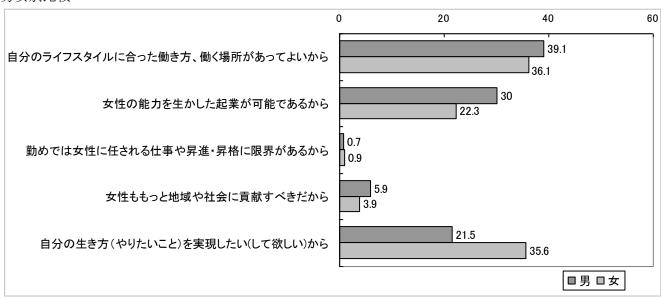
男女別にみると、「そう思う」の割合は、4ポイントほど男性の割合が高く(男性65.5%、女性61.2%)、女性では「分からない」と答えている割合が28.1%で男性(22.6%)より6ポイントほど高くなっている。

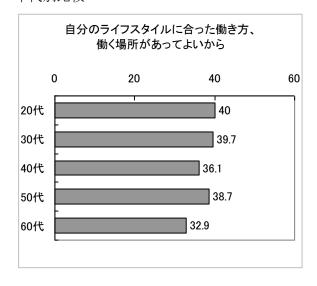
年代別にみると、年齢が若いほど「そう思う」と答えている人の割合が高くなっている。

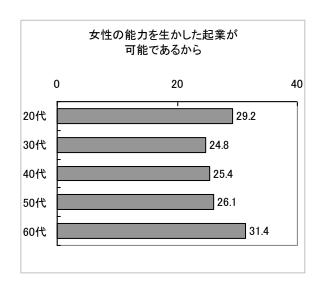
問16-2「そう思う」と答えた方にお伺いします。その理由は何ですか。

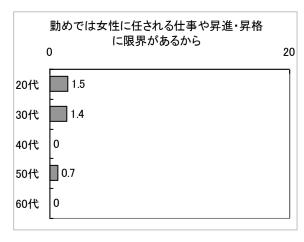


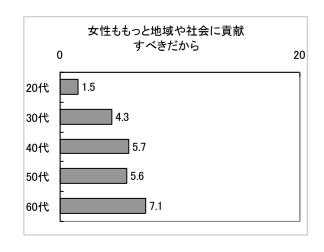
#### 男女別比較

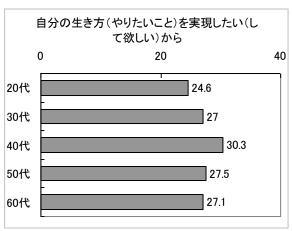












# ▼女性がどんどん起業して社会に出て行くべき理由として、「自分のライフスタイルに合った働き方、働く場所があってよいから」が最多

女性がどんどん起業して社会に出て行くべきだと思う理由として、「自分のライフスタイルに合った働き方、働く場所があってよいから」が37.7%、次いで「自分の生き方(やりたいこと)を実現したい(して欲しい)から」が27.5%、「女性の能力を生かした起業が可能であるから」が26.6%で上位を占めている。また、前回調査結果と比較しても、同様の結果となっている。

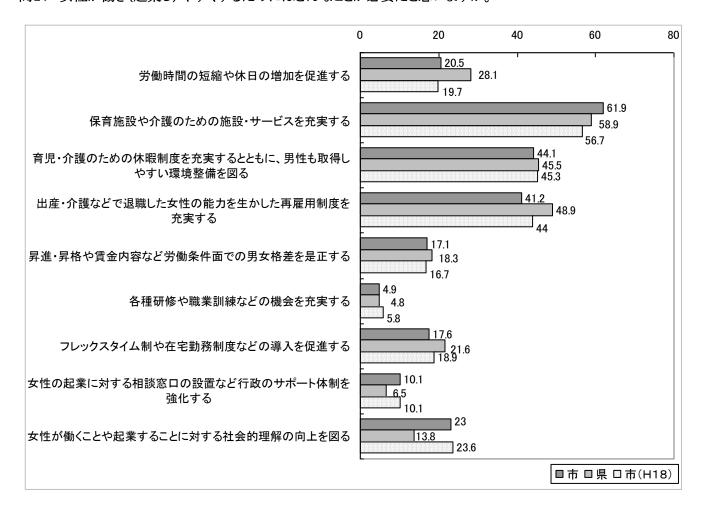
男女別にみると、「自分の生き方(やりたいこと)を実現したい(して欲しい)から」では男性の21.5%に対し女性は35.6%で1割以上の開きが見られる。

年代別では、「女性ももっと地域や社会に貢献すべきだから」で、年代が上がるにつれ割合が高くなっている。

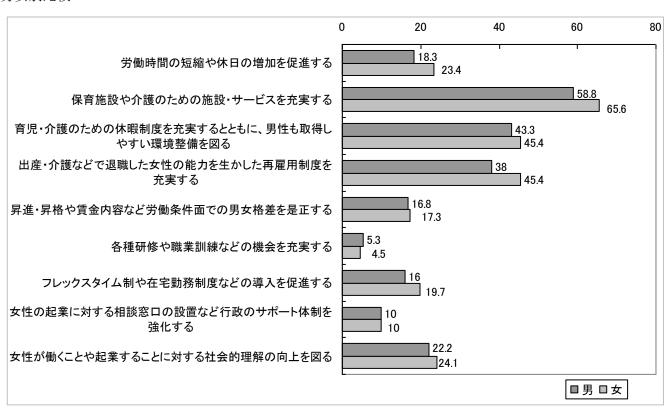
<女性がどんどん起業して社会に出て行くべき理由(その他)>

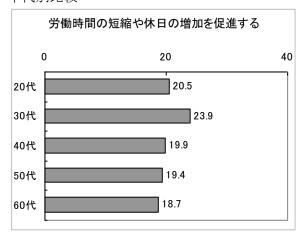
内容	性別	年齢
女性の目線でのやさしいビジネスになるから	男性	30代
男性、女性にとらわれず自由だから	男性	50代
自由経済だから	男性	30代
むしろ、1人の人間が生きるためにお金を稼ぐことに理由が必要なのか?	男性	30代
女性と男性を区別する必要はない	男性	40代
能力があるならば生かすべき	女性	30代

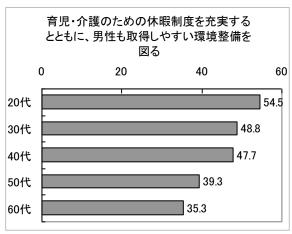
#### 問17 女性が働き(起業し)やすくするためにはどんなことが必要だと思いますか。

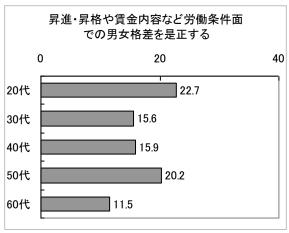


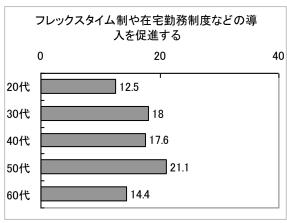
#### 男女別比較

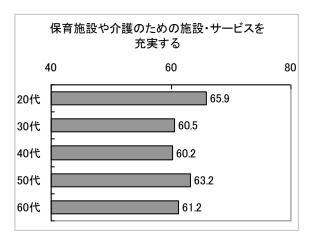


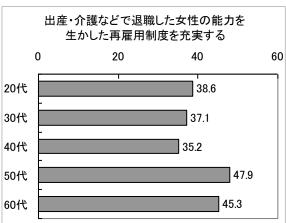


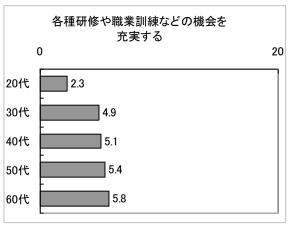


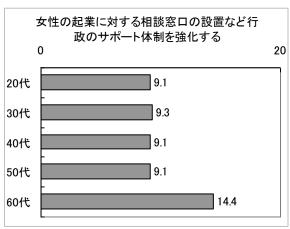


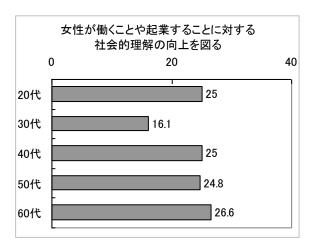












# ▼女性が働き(起業し)やすくするために必要だと感じることは、「保育施設や介護のための施設・サービスを充実する」が6割を超え最も多い

女性が働き(起業し)やすくするために必要だと感じることは、「保育施設や介護のための施設・サービスを充実する」が、61.9%、「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」が44.1%、「出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する」が41.2%で上位となっている。また、県と比較すると「女性が働くことや起業することに対する社会的理解の向上を図る」で、県では13.8%であるのに対し、市では23.0%と、1割ほど高くなっている。

男女別にみると、「保育施設や介護のための施設・サービスを充実する」(男性58.8%、女性65.6%)や「出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する」(男性38.0%、女性45.4%)で若干女性のほうが多くなっている。

年代別にみると、「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」では若い年代の割合が高くなっている。また、「出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する」では、50代以上で割合が高くなっている。

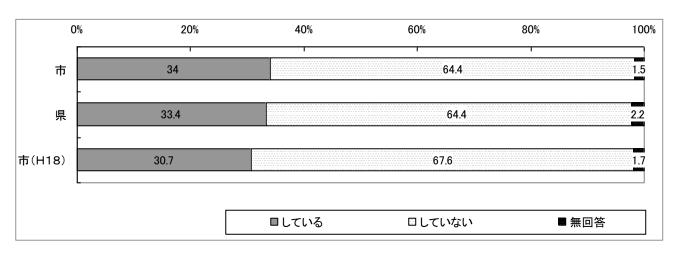
<女性が働き(起業し)やすくするために必要だと感じること(その他)>

内容	性別	年齢
本人の気持	男性	50代
必要なし	男性	40代
やりたければどうぞ	男性	30代
休暇制度の充実	男性	50代
今のままでも問題ない	男性	50代
起業に男女とか関係ない	男性	30代
会話のやり取り電話ばかりではなく、花や言葉を贈る。めいしなどむり	男性	30代
会社内に子供を預けることができるような状況にする	女性	50代
本人のやる気と資本金	男性	30代
女性自身、個人の努力	男性	40代
能力	男性	30代

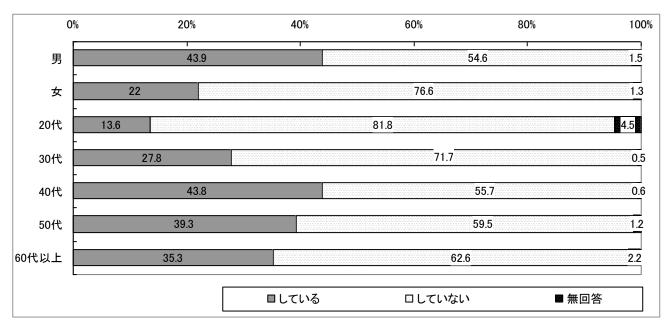
# 5 地域活動

## (1)地域活動の参加状況

問18-1 町内会やボランティアなどの地域活動はしていますか。



男女別•年代別比較

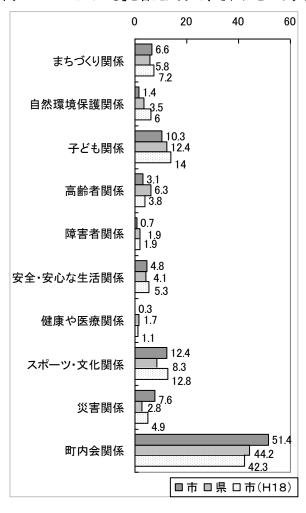


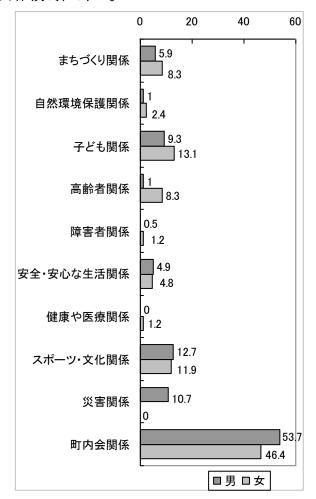
#### ▼地域活動をしている方は3割程度

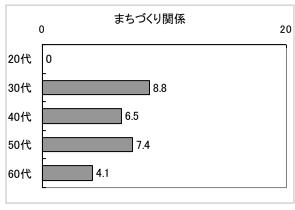
町内会やボランティアなど地域活動をしている人の割合は34.0%で、前回調査や県と比較しても同様の結果となっている。

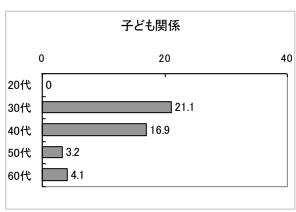
男女別にみると、地域活動をしている人は男性の方が多くなっている(男性43.9%、女性22.0%)。 年代別にみると、40代で43.8%と最も高くなっており、20代の13.6%が最も低くなっている。

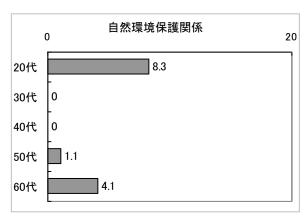
問18-2「している」と答えた方で、それはどのような活動内容(分野)ですか。

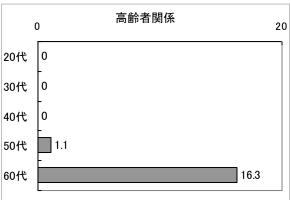


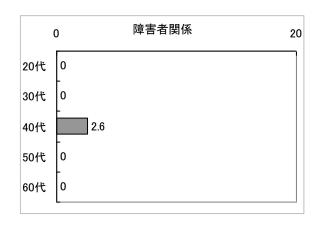


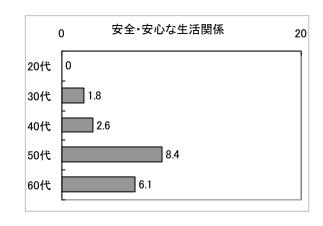


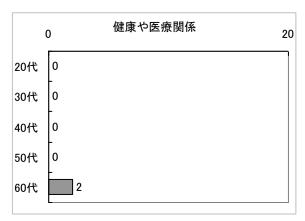


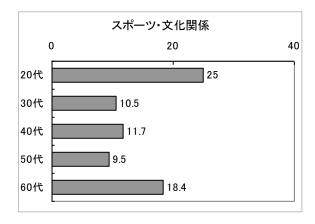


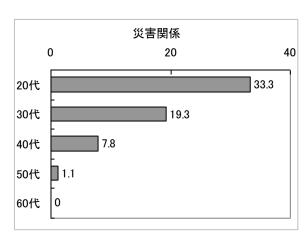


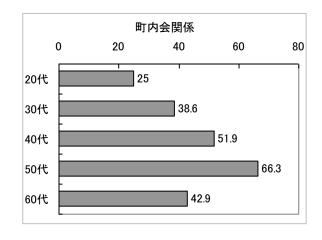












#### ▼地域活動の内容は、過半数が「町内会関係」

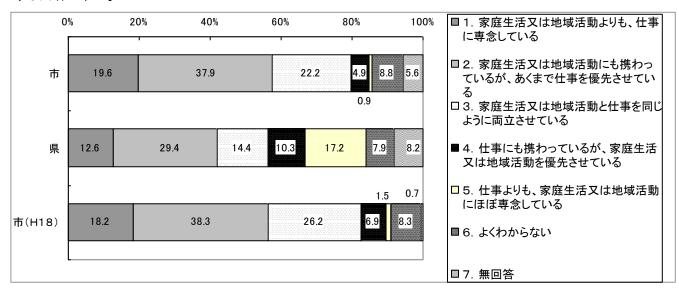
地域活動の内容で、最も多かったのは「町内会関係」で51.4%となっており、「スポーツ・文化関係」(12.4%)、「子ども関係」(10.3%)と続く。

男女別にみると、町内会関係(男性53.7%、女性46.4%)では男性が多く、女性は子ども関係(男性9.3%、女性13.1%)で男性よりも多くなっている。

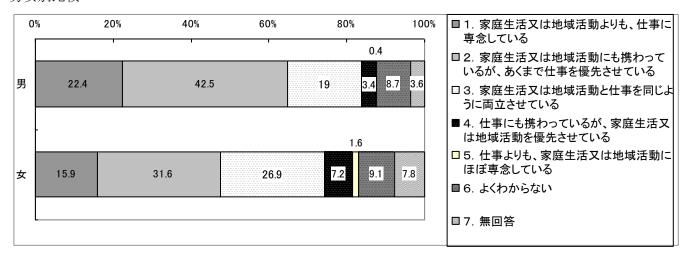
年代別にみると、町内会関係を除く項目で高いものは、20代では「スポーツ・文化関係」で25.0%、「災害関係」で33.3%、30代で、「子ども関係」が21.1%、「災害関係」で19.3%、40代で「子ども関係」が16.9%、50代では1割を超えるものはなく、町内会関係では66.3%と一番高くなっており、60代では「高齢者関係」で16.3%、「スポーツ・文化関係」で18.4%となっている。

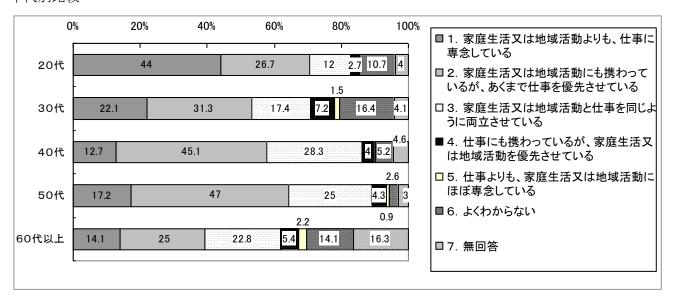
### (2)地域活動・家庭生活・仕事の調和

問19 仕事に就いている方で、上記の地域活動や家庭での役割等の状況を含め、現在のあなたの生活形態はどのような内容ですか。



#### 男女別比較





#### ▼「家庭生活又は地域活動にも携わっているが、あくまで仕事を優先させている」が最多

仕事についている方での生活形態は「家庭生活又は地域活動にも携わっているが、あくまで仕事を優先させている」が37.9%で最も多く、次いで「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させている」が22.2%となっている。これは、前回の調査結果と同様になっている。また、県と比較すると、「仕事よりも、家庭生活又は地域活動にほぼ専念している」で市ではわずか0.9%なのに対し、県では17.2%と大きく差ができている。

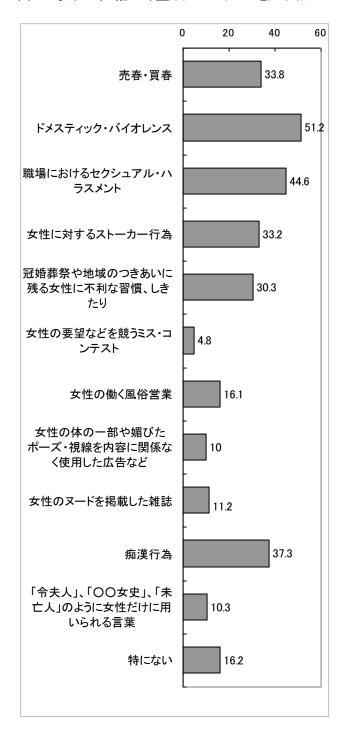
男女別にみると、男性で仕事を優先させている割合が高くなっている(男性64.9%、女性47.5%)。

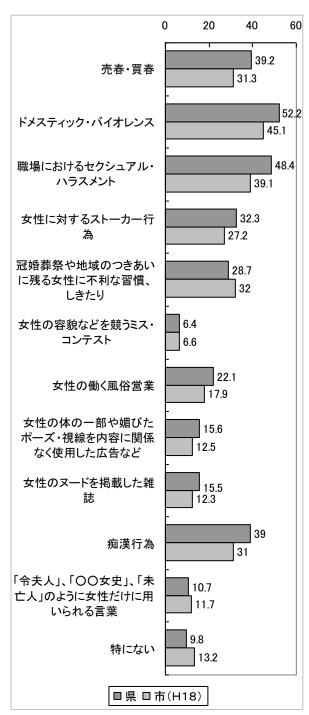
年代別にみると、「仕事に専念している」割合は、若いほどに高くなっている。また、「仕事と家庭を両立させている」 割合は、40代以上で2割を超えている。

# 6女性の人権、ドメスティック・バイオレンス

## (1)女性の人権が尊重されていないと感じること

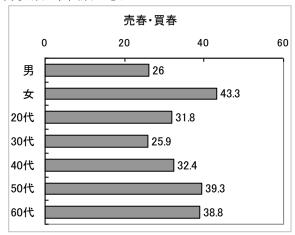
間20 女性の人権が尊重されていないと感じる点はどのようなことですか。

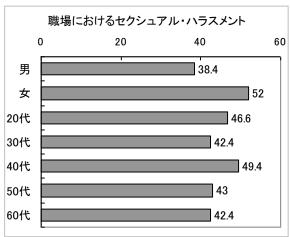


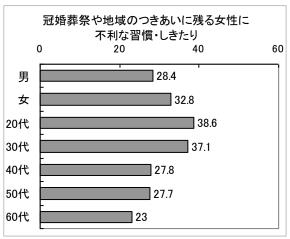


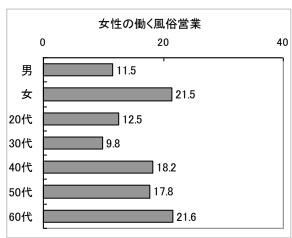
県・市(H18)との比較

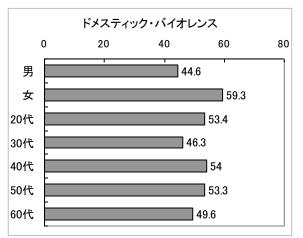
#### 男女別•年代別比較

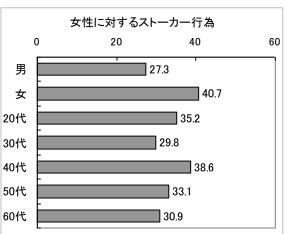


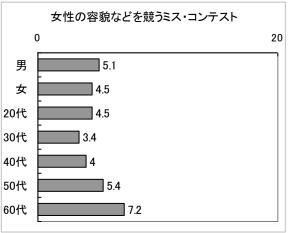


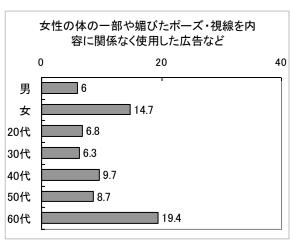


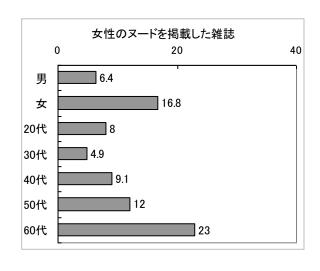


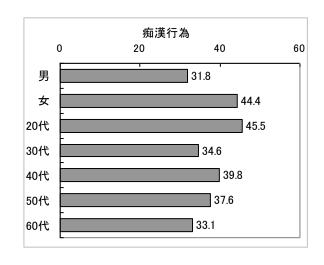


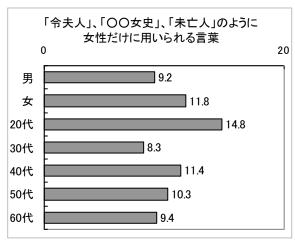












# ▼女性の人権が尊重されていないと感じることは、「ドメスティック・バイオレンス」「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が上位

女性の人権が尊重されていないと感じることは、「ドメスティック・バイオレンス」で51.2%、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」で44.6%と上位を占めている。また、「売春・買春」(33.8%)、「女性に対するストーカー行為」(33.2%)、「冠婚葬祭や地域のつきあいに残る女性に不利な習慣、しきたり」(30.3%)、「痴漢行為」(37.3%)でも回答が3割を超えている。また、前回調査や県と比較しても同様の結果が見受けられる。

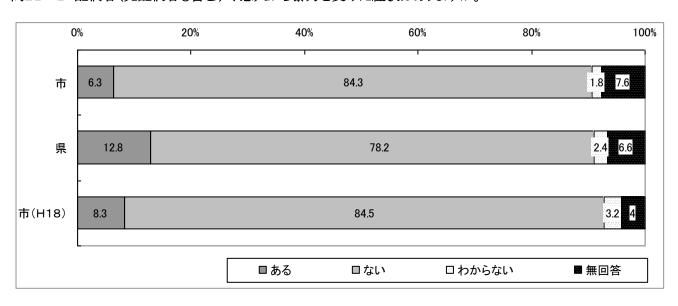
男女別にみると、「女性の容貌などを競うミス・コンテスト」以外の項目で、女性が男性を上回る回答となっている。 年代別にみると、「「冠婚葬祭や地域のつきあいに残る女性に不利な習慣、しきたり」では若い年代が、「女性の働く 風俗営業」、「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を内容に関係なく使用した広告など」、「女性のヌードを掲載した雑誌」では年代が上の方が多く見られる。

<女性の人権が尊重されていないと感じること(その他)>

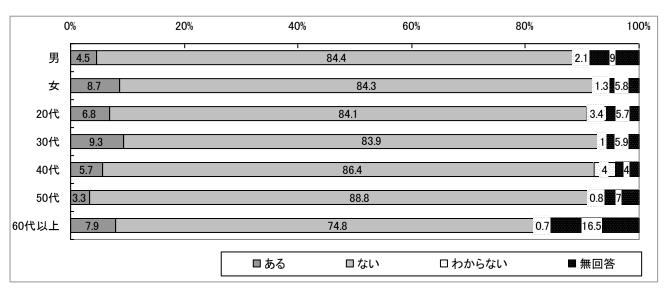
内容	性別	年齢
不審者による小さな子(女子)への犯罪	女性	50代
夫婦別姓認められない	女性	30代
「NO」と言えない状況によるものすべて	女性	40代
「女のくせに」等の言い方	女性	40代
一般的人権問題や倫理観を女性問題にすりかえる上の選択扱い等の決定といった感覚	男性	30代

### (2)ドメスティック・バイオレンスの経験

問21-1 配偶者(元配偶者も含む)や恋人から暴力を受けた経験はありますか。



#### 男女別、年代別比較

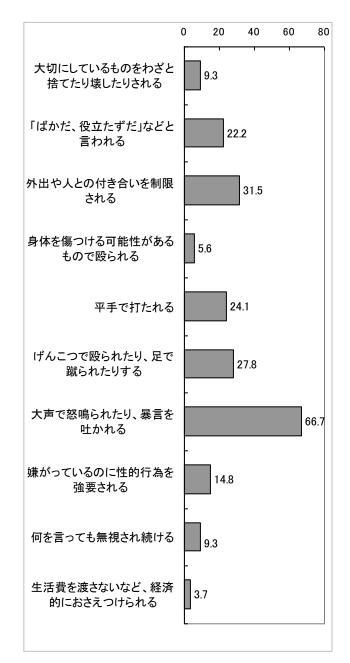


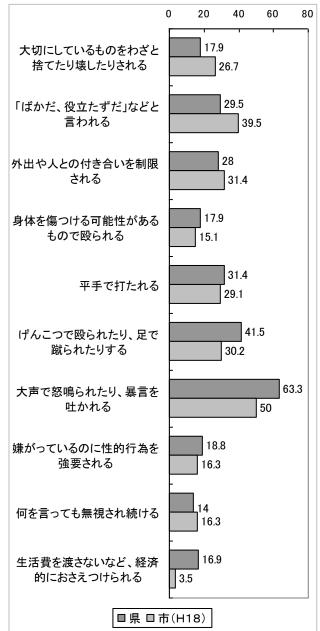
#### ▼ドメスティック・バイオレンスを受けた経験があるのは6.3%

配偶者や恋人から暴力を受けた経験があるのは6.3%で、前回調査とあまり変わらないが、県の12.8%に比べると低い数値となっている。

男女別にみると、女性のほうがやや高い傾向にあり、年代別では30代が高い数値となっている。

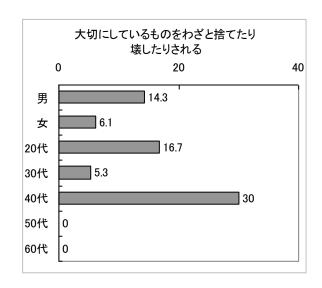
#### 問21-2 「ある」と答えた方に伺います。それはどのようなことですか。

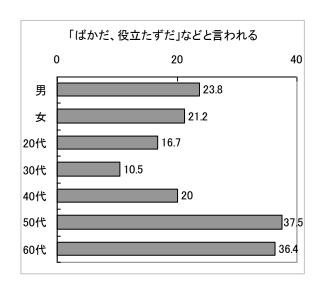


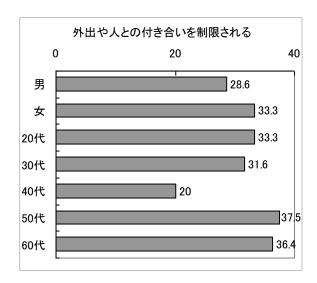


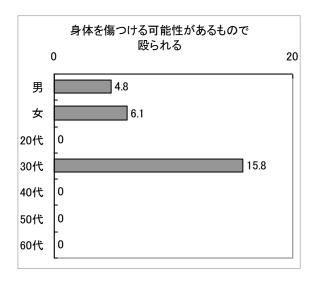
県・市(H18)との比較

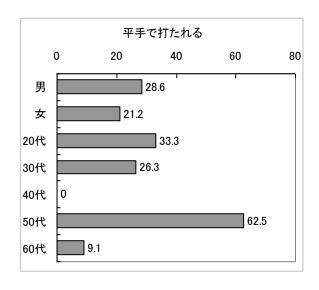
#### 男女別•年代別比較

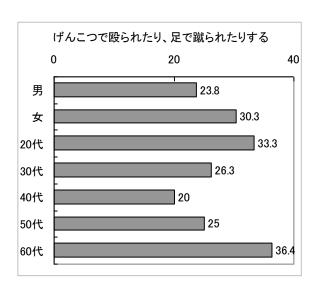


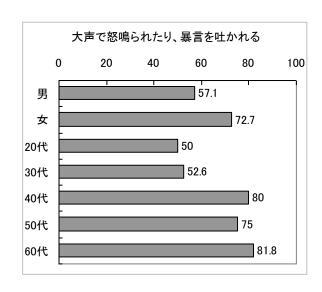


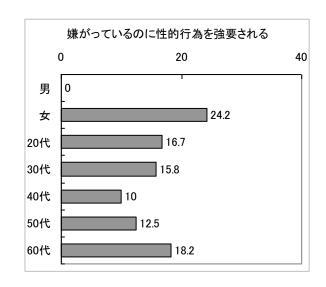


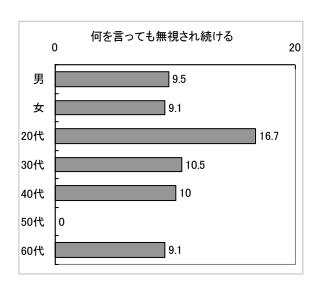


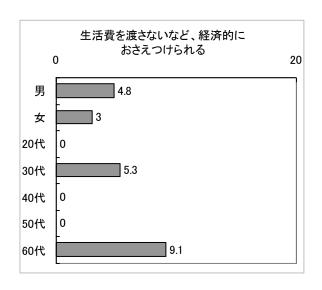












#### ▼暴力の内容は、「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれる」が 6 割を超える

暴力の内容で、最も多かったのは、「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれる」で66.7%となっている。次いで「外出や人との付き合いを制限される」が31.5%、「げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする」が27.8%と続いている。 県や前回調査と比較すると、「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれる」は、いずれも最も回答書が多くなっている。 また、県では「げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする」(41.5%)や「平手で打たれる」(31.4%)といった項目で回答が多くなっている。

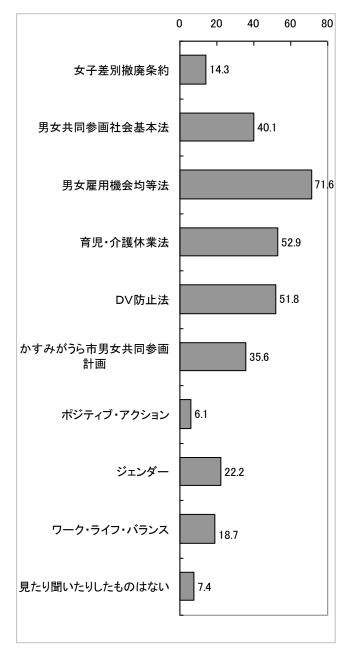
#### <暴力の内容(その他)>

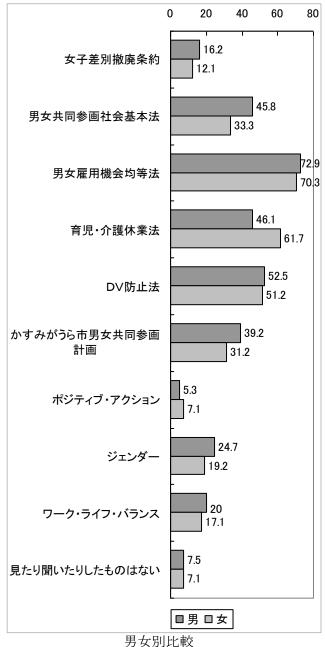
内容	性別	年齢
仕事へのじゃま	男性	30代
仕事が忙しく、家事ができなかったとき	女性	40代

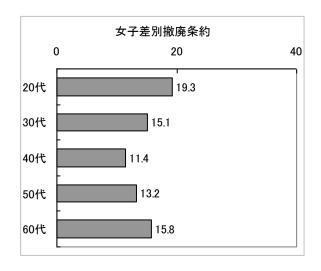
# 7 男女共同参画社会

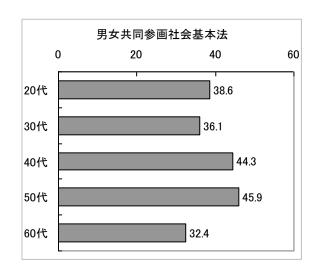
(1) 男女共同参画に関する用語等の周知度

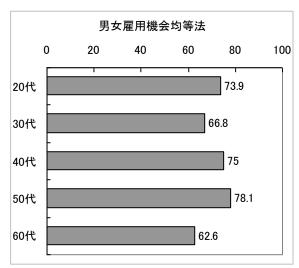
間22 次にあげる言葉や施策等の中であなたが見たり聞いたりしたことのあるものをお答えください。

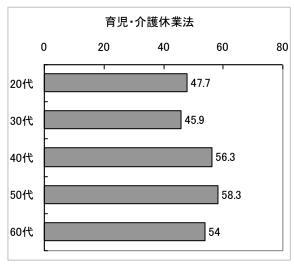


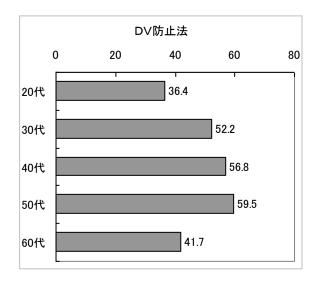


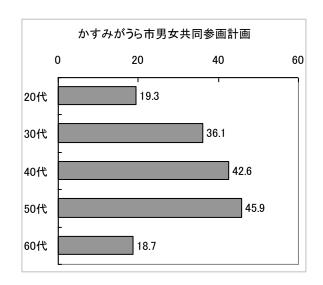


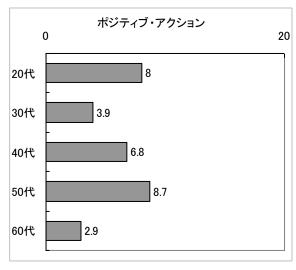


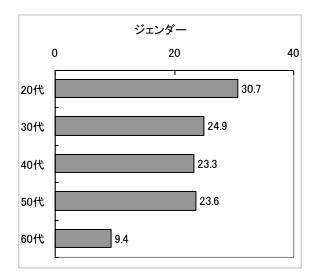


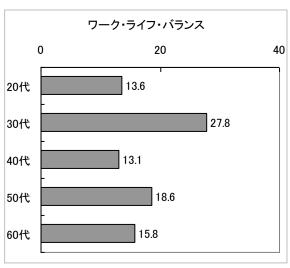


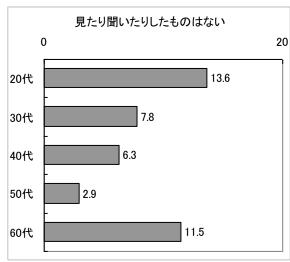












#### ▼最もよく知られている言葉は「男女雇用機会均等法」で7割を超える

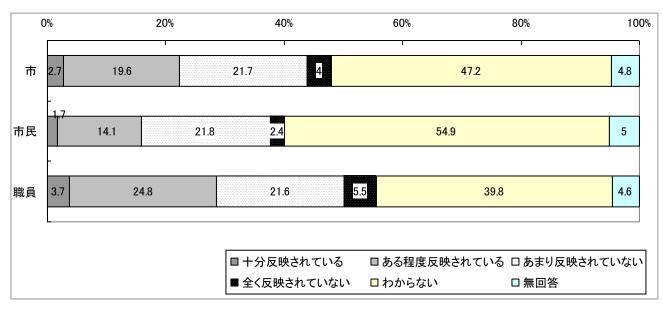
男女共同参画に関する用語等で周知度が高いものについては、「男女雇用機会均等法」が71.6%で最も高く、次いで「育児・介護休業法」52.9%、「DV防止法」51.8%で5割を超えている。

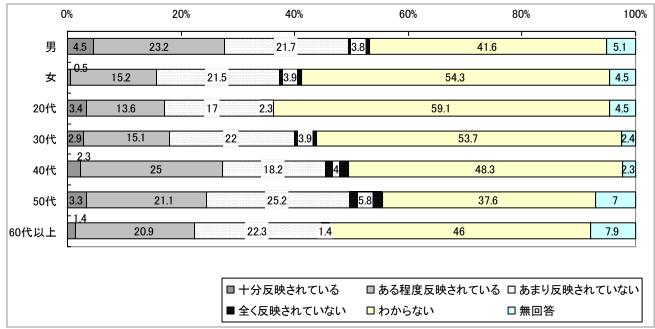
男女別にみると、ほとんどの項目で男性が女性を上回る結果となっている中、「育児・介護休業法」に関しては男性46.1%、女性61.7%と女性の周知度が高くなっている。

年代別にみると、「見たり聞いたりしたものはない」で20代が13.6%、60代で11.5%とほかの年代より高くなっている。また、「かすみがうら市男女共同参画計画」では40代、50代で4割を超えている。

### (2)市の政策に対する女性の意見の反映度

問23-1 市の政策に女性の意見が反映されていると思いますか。





#### ▼女性の意見が反映されていると感じている割合は2割程度

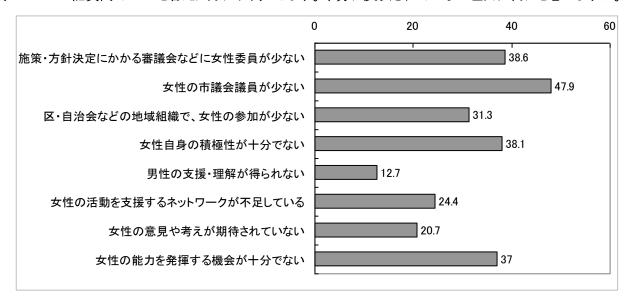
市の政策に女性の意見が反映されていると感じている人は、22.3%(「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計)で、反映されていないと感じている人の25.7%(「あまり反映されていない」と「全く反映されていない」の合計)と大差はない。しかし、「分からない」と回答した方が47.2%と半数近くおり、市制への関心が低いことがうかがえる。

市民と職員とを比較してみると、「反映されている」と感じているのは職員に多く(市民15.8%職員28.5%)、「分からない」と答えている人は市民で54.9%、職員で39.8%となっている。

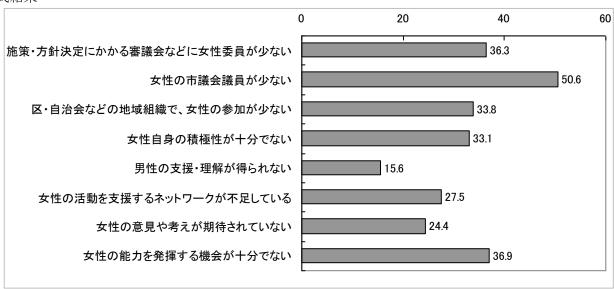
男女別にみると、男性で「反映されている」と感じている割合が高くなっている(男性27.7%、女性15.7%)。また、女性の5割以上が「わからない」と回答している。

年代別にみると、20代、30代の年齢の若い人が「分からない」と答えている割合が5割を超え高くなっている。

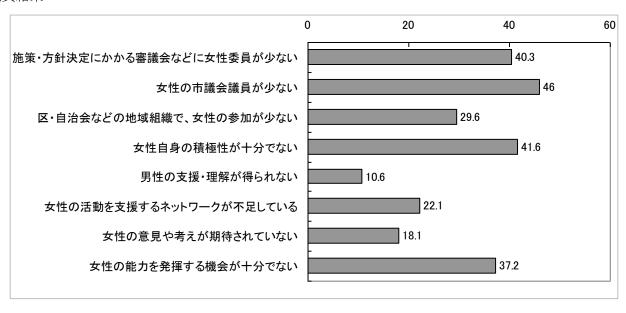
間23-2 上記質問で2~4と答えた方にお伺いします。十分に反映されていない理由は何だと思いますか。



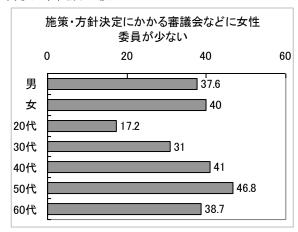
#### 市民結果

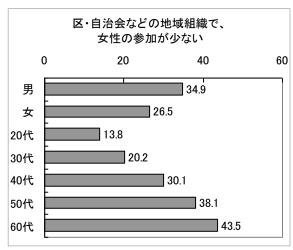


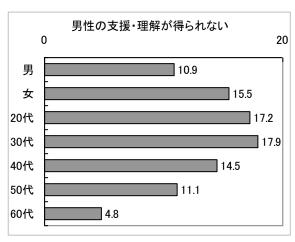
#### 職員結果

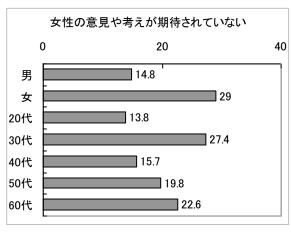


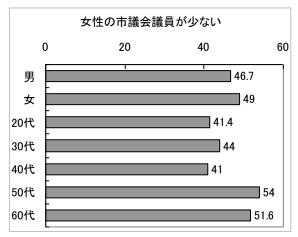
#### 男女 · 年代別比較

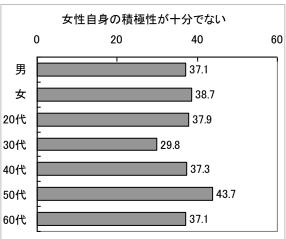


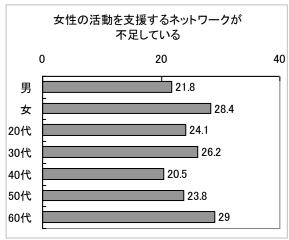


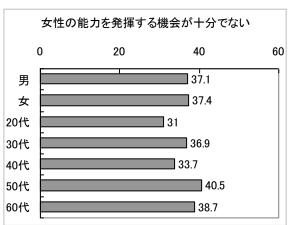












#### ▼反映されていない理由としては、「女性の市議会議員が少ない」が約5割で最多

市制に女性の意見が十分反映されていない理由として、「女性の市議会議員が少ない」が47.9%、「施策・方針決定にかかる審議会などに女性委員が少ない」が38.6%、「女性自身の積極性が十分でない」が38.1%、「女性の能力を発揮する機会が十分でない」が37.0%で上位を占めている。

市民・職員別にみても、上位の結果は同じ傾向がみられる。

男女別にみると、「女性の意見や考えが期待されていない」と答えた女性が29.0%で、男性の14.8%の2倍近くの割合となっている。

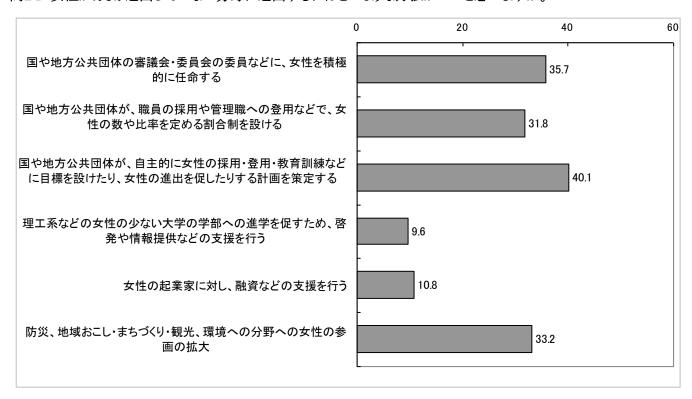
年代別にみると、「区・自治会などの地域組織で、女性の参加が少ない」では、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。また、「男性の支援・理解が得られない」では年代が若いほど割合が高くなっている。

#### <市制に女性の意見が反映されていない理由(その他)>

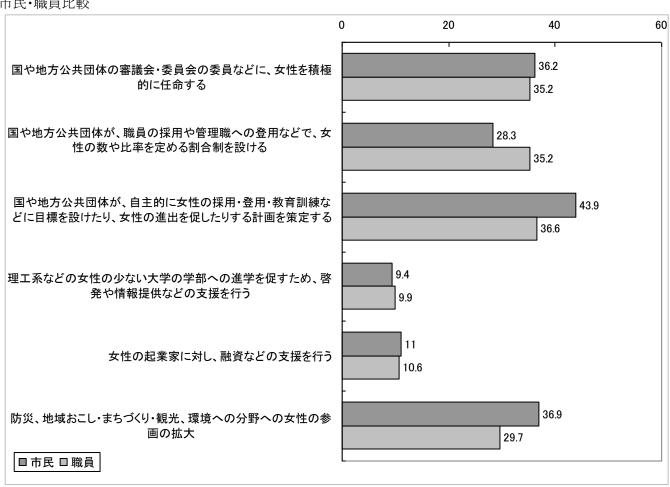
内容	性別	年齢
委員にしても議員にしても旧体制のまま刷新されていないため現在の世相に あった考えや意見を取り入れて考えることができていない	男性	30代
参加する女性の意見の偏りが強い	男性	40代
かすみがうらは男尊女卑の風習がある	男性	40代
育児施設・サービスが充実していない	男性	30代

### (3)女性の進出が少ない分野への進出方法

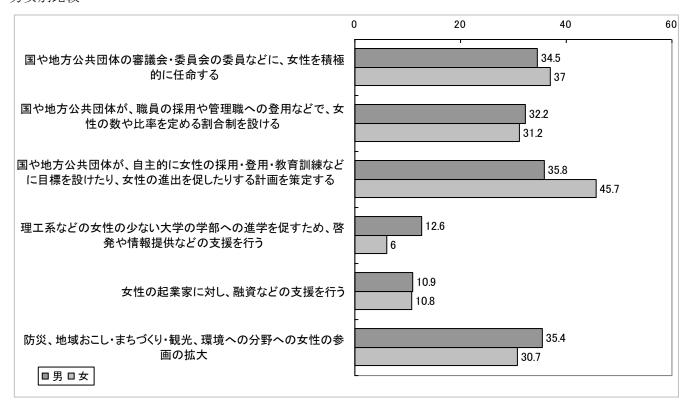
#### 間24 女性があまり進出していない分野に進出するにはどのような方法がいいと思いますか。

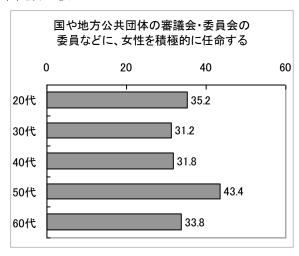


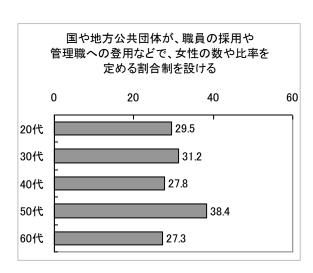
#### 市民·職員比較

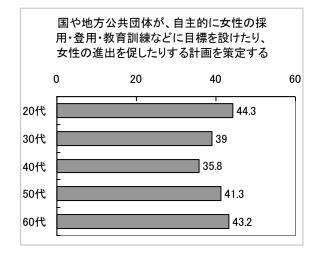


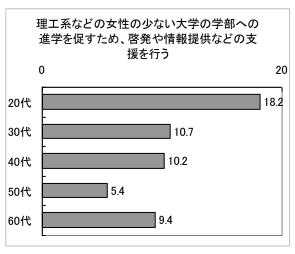
#### 男女別比較

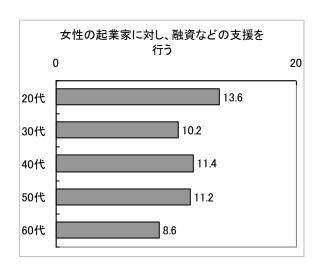


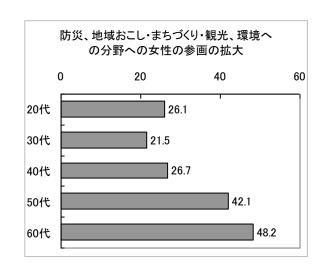












▼女性が進出するために必要なことは「国や地方公共団体が、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を 設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する」が4割

女性があまり進出していない分野に進出するための対策として上位に挙げられたのが、「国や地方公共団体が、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する」で40.1%、「国や地方公共団体の審議会・委員会の委員などに、女性を積極的に任命する」で35.7%、「防災、地域おこし、まちづくり・観光、環境への分野への女性の参画の拡大」で33.2%、「国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割合制を設ける」で31.8%である。

これを、市民・職員別にみると、市民で「国や地方公共団体や、職員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割合制を設ける」、「防災、地域おこし、まちづくり・観光、環境への分野への女性の参画の拡大」の割合が高くなっている。

男女別にみると、「国や地方公共団体が、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する」で男性が35.8%に対し女性は45.7%と1割ほど高い結果になっている。

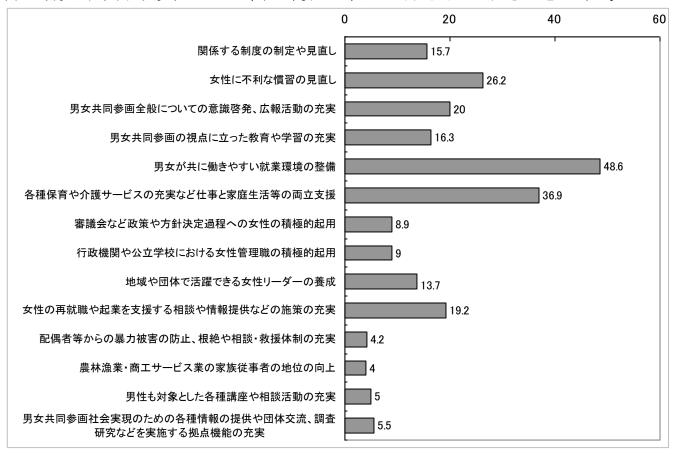
年代別にみると、「防災、地域おこし、まちづくり・観光、環境への分野への女性の参画の拡大」では、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。また、「理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う」では20代の割合が高くなっている。

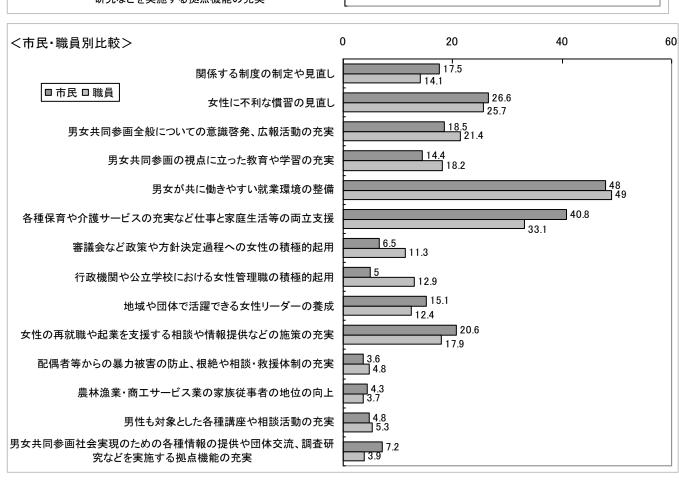
## <女性が進出するために必要なこと(その他)>

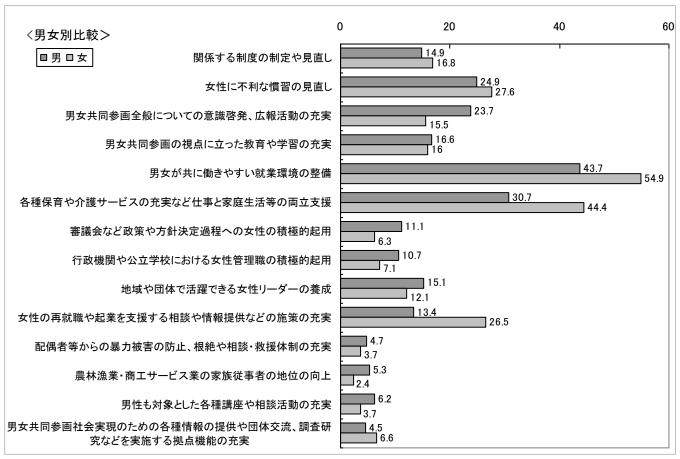
内容	性別	年齢
女性自身が積極的に参画すべき	男性	50代
理工系などめずらしがらないよう目線を変えないで平等に努力してい る所を見つけたりしたい。	男性	20代
必要ない。4(理工系などの女性の少ない大学の進学を促すため・・・) なんて自分で選ばないだけでしょ?	男性	20代
子育てをしたことない人が厚生省、児童相談所などの分野に携わっているが、所にふれ上部だけの事しか考えていない様子がよくわかりおかしいと思う。 適業を望みます。	女性	50代
無理に女性を進出させても家庭環境や職場環境、地域の環境が変わらなければだめである。	男性	50代
女性自身の積極性が重要	男性	40代
やる気と資本金	男性	30代
中学生くらいのうちに、世の中を知る教育の充実を	女性	40代
育児施設・サービスの充実	男性	30代
男女問わず能力に応じた雇用を図るべき	女性	20代
女性のがんばり次第では・・・? 意識しすぎることが逆に女性差別では・・・	男性	30代
女性が自力で進出すればよい	男性	40代
官主導の女性の積極的登用は疑問である。男女の比率の問題ではない。重要なのは男女の区別なく登用することであり、女性の数や比率を増やせば女性の社会進出の達成と考えるのは「お役所仕事」の典型である。担当者は猛省すべきである。	男性	40代
女性たち自身が、進出していない分野へ興味・理解を深めること。	女性	20代
女性としてではなく人間としての能力や人材を見て進出させてほしい。 その特色を生かした職から能力のある人を抜粋して管理職へ起用して ほしい	女性	40代
女性自身の意識の問題と思う	男性	30代

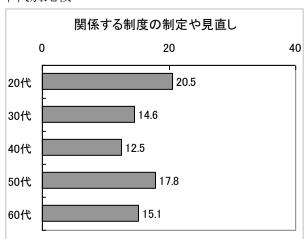
# (4) 男女共同参画社会を実現するために市に要望すること

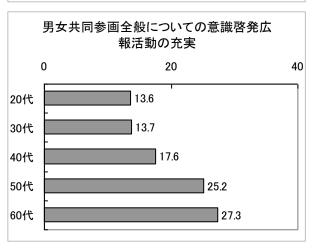
#### 問25 男女共同参画を実現するためには、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

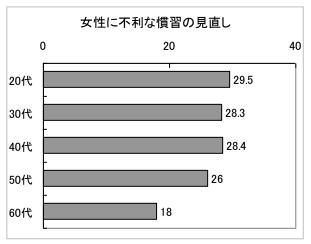


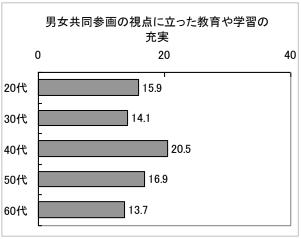


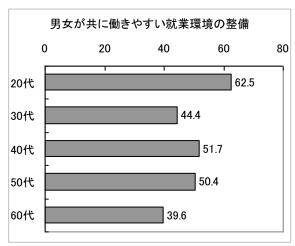


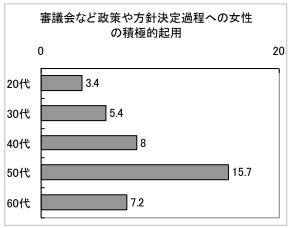


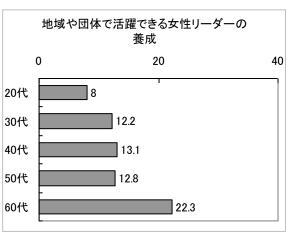


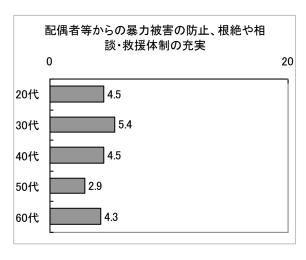


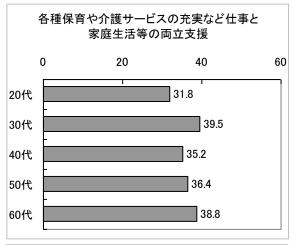


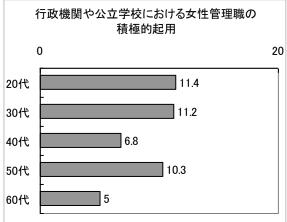


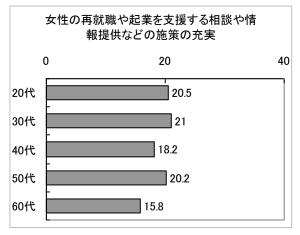


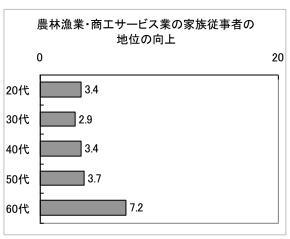


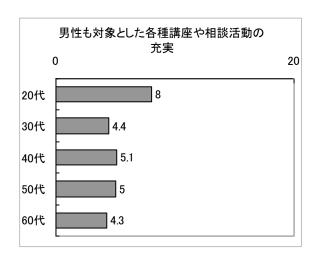


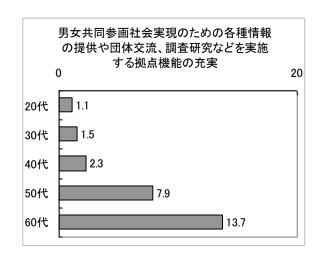












#### ▼男女共同参画社会のために市に要望することで最多は「男女が共に働きやすい就業環境の整備」

男女共同参画社会を実現するために市に力を入れていくこととして、第一に「男女が共に働きやすい就業環境の整備」 (48.6%)、次に「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」 (36.9%)があげられている。

市民と職員の結果を比較すると、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」で、市民と職員の間で差ができている。(市民40.8%、職員33.1%)。

男女別にみると、男性との差ができている項目は、「男女が共に働きやすい就業環境の整備」(男性43.7%、女性54.9%)、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」(男性30.7%、女性44.4%)、「女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実」(男性13.4%、女性26.5%)となっており、いずれも女性の割合が高くなっている。

年代別にみると、「女性に不利な慣習の見直し」で若い年代ほど割合が高くなっている。また、「男女共同参画全般についての意識啓発広報活動の充実」、「地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成」、「男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流、調査研究などを実施する拠点機能の充実」といった項目では、年齢が上がるにつれて、回答者の割合が高くなっている。

#### <男女共同参画社会を実現するために市に要望すること(その他)>

内容	性別	年齢
特別な施策は必要ない	男性	40代
参画した人への側面的支援	男性	50代
実現によるビジョンを示すべき	男性	30代
男性が育休をとりやすい環境の整備	男性	30代
女性のやる気の問題、本人が必要と感じれば、多少の困難は問題でないように思う。	女性	20代
とにかく公教育の充実	女性	40代
市の職員次第だと思います。	女性	20代
男女を問わず、①門戸の平等保障②教育③情報収集 上記3点に集約されると考える。 現状では国・県との連携、情報収集程度で充分である。市町村が積極的に 取り組むべき課題ではない。	男性	40代
何もする必要はない	男性	20代

問26 男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること、市へのご意見・ご要望等がございましたら、自由 にご記入ください。

内容	性別	年齢
男性、女性と得手、不得手の分野が違うことから、人として完全に同じことができるとは思えません。男性、女性の特性を生かし円滑な社会にすれば良い事だし、又昔から女性を見下したような体制を変えていけば良い社会になっていくのではないかと思います。このアンケートは社会の中で人としての能力を同一なものにしようとしている内容に感じられ、正直すすんでアンケートを記入したわけではありません。男性、女性の特性を生かし共存していくものだと考えますので無理して男性と同じ、また女性と同じことをしていく必要は全くないのではないんじゃないですか?そのような主旨でこのアンケートを作成したのならば自分は文章の読み取り能力のない人間ということで反省しますが。一般的には、今女性は強いと思いますよ。	男性	30 代
女性管理職がいない	男性	40代
現在の日本における男女は平等であり、男らしさ女らしさを再認識することで参画社会は実 現できると思います。	男性	50 代
多くのビジネス書籍等で注目の女性起業家等の記事を見ますが、女性が社会へ進出することが多くなった割に相談窓口やサポート体制が整ってないように感じられます。これは逆に女性優位といわれている業界への起業や転職を考えている男性に対しても感じられることです。もっとすべての人に対してのサポート体制を整えればより男女共にさまざまな職種につけるのではないでしょうか?また、「男女平等」という言葉が今現在はすでに差別用語のように思えます。	男性	20 代
女性団体を中心とした連絡会議などを継続的に行い、理想と実態について常に意見交換、 把握し、計画策定に役立てる。より具体的計画をつくり(年次計画をつくり)その実現につい て進行管理を行うこと	男性	50 代
男性も育児・家事に関して能動的になり、女性も仕事に関して能動的になれば・・・。男女の意識改革が必要だと思います。	女性	30代
今現在男女差別はないように感じます。男女平等に意識が行き過ぎ、女性優遇にならないように気をつけてもらいたい。あくまでも平等。	男性	20代
雇用の段階で、比率を均等に保てているか疑問です	男性	40 代
男女共同参画、あまり気にしたことがありません	男性	40 代
職業の選択において男女の差はなくなり平等化してきていますが、女性が一生仕事を続けることに対しては、人生の中でいくつかの障害があります。子育て、介護この時期の社会的サポートをもっと充実してくださると女性としてはありがたいです。また、社会に貢献しようとする意識も高まると思います。	女性	50代
大正、昭和一桁生まれの義父母と同居していますので「男尊女卑」「嫁はその家に尽くす」 考えが根強く男女平等など考えるだけ虚しいです。家庭の中でもたての社会ができていますし、その世代の親から育ったため、男女共同参画の考えに憧れながらも昔の考えから抜け出せないジレンマがあります。	女性	50 代
男性女性ともに得意な分野があり、それぞれの役割を分担しながら力をあわせて生活して いくべき。	男性	40 代

オスとメスは人間界のみの事象ではなく生命体には必ず存在する原理である。こうした中の生物におけるオスとメスの役割、体格・体力など身体的な普遍的際を課題の原点、基礎事項として捉え、考えていかねばならないのが男女共同参画の問題である。「母なる・・・」「母性・・・」などに代表される女性の生物界としての偉大さは、社会進出以上の重要な事象である。不確かな平等を推し進める中で本末転倒な男女関係とならぬよう望みたい。	男性	40代
最近、草食系男子など女性化している男性が増えて、女性からすると凄く情けないな・・・と 感じます。男性は強くなるべきだと思うし、そうなれないのであれば女性が起業、または社会 参加などを積極的に行っても、文句は言えないと思います。昔の男性のほうがとても良かっ たと思います。	女性	20代
男女平等と言いますが、100%平等なんて無理だと思います。何を平等というのかわかりませんが、女性は一番は男性のように働きたいと思っている人が多いのではないでしょうか。 一番は子供がいる女性の働きにくさがあると思います。妻もパートでもと思っていても子供の問題が働きに出れない原因です。行政モニターというのを妻から聞いたことがありますが、女性の意見を多く聞ける場が必要だと思います。	男性	30代
女性が働いていなくとも子供をいつでも預けられるように保育園幼稚園の充実を図ること	男性	60 代以上
学校教育に人手と予算をかけて、世の中でしっかりと生きていける次世代を育ててほしい。 そうすれば親世代も考える。かすみがうら市の小中学校は他に比べて強く育てられていな い感がある。	女性	40 代
お前は女(男)だからああしろこうしろと決め付けないこと	男性	30代
先ず、市役所内に女性幹部職員を。それから各種団体の女性任命を。	男性	60 代以上
男女平等→できる事とできない事があると思う。平等でなくともバランスよくなればいい。	女性	60 代以上
子供がいると、妻が仕事を出来ない環境がある。夜遅くなると、子供を預ける場所がない。 小学校の預かりが19時までなのは痛い。難しいのかもしれないが20時までは延ばしてほしい。常に夫婦の会話にその話が出て悩まされている。現在のままでは、妻に仕事をやめてもらう方法になってしまうのは仕方がない。平等とは何ですか?男女平等参画を実現するのは、子供を安定して預けられる場所の提供では。現に市立の保育園は24時間対応ではないですよね。あるなら教えてください。	男性	30 代
周囲の社会的マイノリティーへの視線は、男女問わず、積極的に物事に挑戦していく意欲を奪う大きな要因のひとつだと考える。社会への理解を求める活動なども十分に行っていくべきだと思う。	女性	20代
市でどのような取り組みをしているのか広報してください	男性	50代
議員の多選禁止(3選)、市幹部職員の年齢制限(55歳以上は退職)、民生委員などの各種 委員の期間制限などをして多くの人材を登用する機会を増やす	男性	60代
男女共同参画には保育の充実が不可欠だと思います。その為にも、待機児童の解消や病児保育の施設を充実させるなど行ってほしいです。	男性	20 代
現在社会に参加している方のアンケートですね。戦後、65年以上も経ってこのようなアンケートはおかしいです。	女性	60 代以上
		I

男女平等、男女共同参画などはすばらしいことだと思いますが、一番遅れているのは地方 行政、地方自治体ではないでしょうか。民間はすでに以前から男女平等が行われていま す。男女共同参画は良いことですが、反面、少子化問題が出ています。男女共同参画と少 子化問題。この相反する課題を行政としてどのように両立させるのでしょうか?	男性	60 代以上
家庭と仕事を持つ、両立支援が必要だと思います。	女性	50代
60 歳以上の男女、市のいろいろな行事がありますが参加するのは男性のほうが多い。女性はもっと色々な行事に参加することが望ましい。ふれあい、健康のためにも。	女性	60 代以上
女性ならではの力が発揮できる場を男女平等に設定していただきたい。反面、今、女性が 女王様気どりで昔の亭主関白以上の立ち居振る舞いをしている方がいることを地方公共団 体は調査をして知ってほしい。昔、男尊女卑の時代の恨みか家庭教育力のなさかはっきり しないが、高齢者、夫、子がたった一人の問題のある女性のために犠牲になったり、将来に 明るい見通しのない人がいることを一刻も早く確認し、改善策をとっていただきたい。反面からの文言は市内にかかわらず全国的傾向かもしれない。なお、くれぐれも女性差別とは受け 取らないでいただきたい。	男性	60 代以上
「男のくせに」「女だから」という言葉に対してあまり良い印象がないです	男性	20代
田伏に最近越してきましたが、このごろは昔と違って部落のあり方も変わってきたと聞きました。これからどうしていった方が皆が楽しく、元気に暮らしていけるかを、かすみがうら市としてどう手伝いや引っ張っていってくれるか期待しています。	女性	40 代
男女の性質の違いは確実にあると思いますが、それが制度などによってライフスタイルが制限されるものであってはならないと感じます。男女ともにお互いを理解し、多くの人が生活しやすい環境になっていくことを期待します。	男性	20代
男女均等法もよくわかりますが実際仕事をメインにこなすのは男性であり仕事内容にもよりますが女性は金額にあった仕事をこなせてる人は少ないと思います。格差をつけることはよくないのはわかりますが男女の差は少しはあるべきだと思います。女性ばかり重視しているのはおかしいと・・・それなら保育・介護を充実させるべき、保育所に入る為に苦労します。	女性	30代
保育施設を充実させてほしい。入園させたい子供をスムーズに入園できる環境をつくってほ しい。 物騒な世の中をどうにかしてほしい。 地域の安全に力を入れてほしい。	男性	20代
設問についていささか問題があるように思う	男性	60 代以上
1. 女性消防団を作る 2. 女性の役所での管理職、総務課長、部長などに任命する 3. 副市長が新しく登用されましたが活動内容が分からない。仕事しているの?	男性	50代
このようなアンケートを実施することで市制に役立てることはとても良いことと思います。旧霞ヶ浦町、旧千代田町の共に平等に住むことのできるかすみがうら市を作る市政を行ってください。現在は、住みよい市とは思えません。他の市町村より移り住む人が多い市を作ってもらいたいです。	男性	50代
男女平等は少し無理があるかと思う。それぞれ得意分野があるのでそこで発揮できれば良しとしてはどうか。男と女しかいないのだから「持ちつ持たれつ」でいきたいものだ。	女性	60 代以上
問4の⑧のような形がめずらしくなくならなければ男女平等は形だけになってしまう	男性	40代

問15のような設問には偏りを感じます。女性が仕事に出られるかどうかはパートナーである 男性や家族とのバランスが関係するし、子供が生まれたら男性が育児する場合も充分ある ので、女性と仕事のアンケートをとるならば逆に男性が家庭で「参画」する機会の少なさ、し にくさも同時に調査するべきだと思いました。男性(父親)が家庭に参画せず、女性が社会に 出れば子供のしつけや教育が充分にとれず学級崩壊のようなことになっていくのでは?家 庭の代わりを担う程の保育を行えば現行の職員、保育者の方々の負担も大きくなりすぎま すし、上手くバランスをとりながら進めて行ってほしいと思います。元気なシニア(定年後)の 方々ももっと活躍していただく場があると思います。	女性	40 代
男女平等に関しては職場・家庭においてはそれぞれ有利・不利があると思う。それよりも本当に頑張っている年代、育てていかねばならない世代について考えていくことのほうが大切かと思います。能力があまりない人を定年後も使っていくのではなく、若い人たちが育っていきやすい職場を増やすとか。	女性	30代
このアンケート項目の設計が不十分。国の調査項目を参考にする必要有。市の取り組みは非常に遅れており、このような初歩的なアンケートを実施すること自体、これまでの市の取り組みの少なさを表明するものであることを認識するべきではないか。男女共同参画を本気で進める気はないのだろう。市民の意識啓発にも全く取り組んでいない。エクスキューズの調査は税金の無駄遣いではないか。	女性	50代
痴漢犯罪のように「女性の訴え」だけで逮捕される、これらを悪用した男性への差別、脅迫 行為等何かした大事なものが欠落している	男性	30代
男は男らしく、女は女らしくするべきだと思う。男女共同参画社会など無理だと思う。	男性	40代
男が仕事を中心的にするのも必要ですけれども、女も男性の支援を望みたいと思います。	男性	30代
うちは、自宅の仕事は夫しかできないので、何でできないんだとよく言われ傷つきます。できるものならしています。そのため、主な仕事は掃除です。でも、ちっとも楽しくなく、苦です。 楽しい仕事がしたいです。	女性	40 代
そこまで男女の差別化が深刻な問題だと認識していない。各家庭にアンケートを募るほど 資金があるのなら他の事に使ってほしい。類議する質問があり手間がかかった。	男性	20代
企業に対して給料面で男女の差があると思う。男性のほうが優遇されていると思う。	女性	20代
女性を社会参加できるようにしなくてはならない=「優遇する」こと自体、女性が必要とされる力を発揮できていないことではないか。 制度の改革等も大切であるが女性も自ら力を高める努力はもっと大切。「誰かに何かをやってもらってから」では何も変わらない。	女性	40 代
女性だから男性だからではなくお互いが認め合えるわかりあえる制度、しくみが必要だと思います。	女性	30代
民間と公務員との差がありすぎる。公務員の方は恵まれていると思います。その方々が市制を本当に変えていけるのでしょうか?このアンケートはどのように生かされるのでしょうか。統計を取って終わりでは困ります。	女性	40 代
男と女は違うもの。お互いを尊重しつつ、慣習を大事にしながらそれぞれの幸せを求めればよい。おしつけのジェンダーは社会を壊す。	男性	40代

問20.21について、DV、セクハラ、売買春、ストーカー、痴漢行為等は犯罪であり男女共同参画に関するアンケートの質問としては不適切であると考える。女性の人権問題である。個人的見解として、戦争に負けて国が滅び、米国型の民主主義による女性解放から60年余り、不十分とはいえ女性の社会進出は相応に進んできていると考えている。但し、世の中が良くなっていると思っている訳ではない。その結果として物質的・経済的豊かさを手にした多数の人口の一方で生活困窮者の割合も確実に増加している。価値観の多様化による世論の集約化はますます難しい問題となっている。行政の果たすべき役割はやみくもに「男女平等」「男女共同参画」などと大風呂敷を広げるのではなく、地道な情報収集と国・県との連携に軸をおき当市の特色でもある農村部と都市部の家族間モデルなどを提示し、教育啓蒙に力を注ぐべきである。重要なのは明治憲法下の「家」制度を良しとする人も子供をつくらない人も同じように尊重すべきことであると考える。	男性	40 代
労働組合もない中小企業で働いている男性は有給休暇もままならず残業代削減のため名 ばかりの管理職にされ責任だけを押し付けているのが現状である。市長が率先して育児休 暇を取った市もあるが、大手企業、公務員のように身分を補償されている一部の人だけの 特権のような気がする。実際は男女共同参画以前の問題が底辺にはたくさんあるという事を 知っていただきたい。格差社会をなくす事が最優先なのでは?	女性	60 代以上
私は、男女差別を受けていると感じたことがないので、このアンケートのように現在、どこから どこまでが平等で、差別でないのか具体的にあげられても、今いちピンときませんでした。 平等、平等じゃない・・・そう言っている人の考え方や意識の問題では?と感じます。	女性	20代
このアンケートを作った方の意識・価値観に偏りがあるように感じました。	女性	30 代
この問題は、家庭から解決しなくてはならないと思います。女の人は家事をしなくてはならないという常識を変え、夫婦共働きなら家事を分担するなど女の人の家事を減らすことです。家庭は秘室であり外の人には中のことは知られていません。だからやっかいなのです。だれでも、休みは欲しいのです。でなければいつかは爆発してしまいます。世の中の男性で実行していない人は考えを改めるべきです。また、家事分担の教育は必要だと思います。だんだんこうなるといいなあと思っています。	女性	40 代
男女共同参画について理解が良くできていませんでした。	男性	60 代以上
よそから移住した人(外様・・・)古い考えの若い人がいたのにはおどろきました。	女性	60 代以上
差別用語の廃止に力を入れる 将来を見据えて保育や教育に力や金を注ぎ女性の負担をへらし、仕事に就きやすくする	男性	50代
高齢者にわかりやすく、また知らせてください。そしてたまには各家庭を訪問していただくと ありがたいです。	男性	60 代以上
日本全体が男女平等になってきていると思います。でも男性ではできないこと、女性でないとできないことがあるので全部とはいかないと思います。	女性	50代
女性の意見、能力等が必要されるなど、女性が含まれると穏やかな雰囲気とか考えられます。	女性	50代
女は家事と仕事を両立させるべきという男の方の古い考えを改めたほうが良いと思う。女性 が負担を背負い込んでしまっている。その為離婚も起こりやすいと思う。男も女も平等でもっ とお互いに思いやりを持てる世の中になって欲しいと思う。	女性	20 代
現状、男女間で権利の差異は感じられないです。	男性	30代
L	i	1